

平成 30 年度事業報告

社会福祉法人ゆうかり学園

1、評議員会・理事会の開催状況

本年度は、下記のとおり評議員会及び理事会を開催した。

第一回理事会 平成 30 年 6 月 5 日（火）

理事 7 名中 6 名出席 監事 2 名中 2 名出席

- 第一号議案 平成 29 年度事業報告（案）審議の件について
- 第二号議案 平成 29 年度決算報告（案）審議の件について
- 第三号議案 監事監査報告の件について
- 第四号議案 社会福祉充実残高に関する審議について
- 第五号議案 平成 30 年度第一次補正予算書（案）の件について
- 第六号議案 社会福祉法人ゆうかり学園評議員辞任の申し出について
- 第七号議案 社会福祉法人ゆうかり学園評議員選任・解任委員会委員の任期終了に伴う選任について
- 第八号議案 定例評議員会招集に関する審議の件について
- 第九号議案 その他の件について

第一回評議員会 平成 30 年 6 月 25 日（月）

評議員 9 名中 9 名出席 陪席者：理事 6 名、監事 2 名

- 第一号議案 平成 29 年度事業報告（案）審議の件について
- 第二号議案 平成 29 年度決算報告（案）審議の件について
- 第三号議案 監事監査報告の件について
- 第四号議案 社会福祉充実残高に関する審議について
- 第五号議案 平成 30 年度第一次補正予算書（案）の件について

第二回理事会 平成 30 年 9 月 18 日（火）

理事 7 名中 7 名出席 監事 2 名中 2 名出席

- 第一号議案 一洗庵新築工事に係る業者関連選定について

第三回理事会 平成 30 年 10 月 5 日（金）

理事 7 名中 6 名出席 監事 2 名中 2 名出席

- 第一号議案 一洗庵新築工事見積合わせ結果報告及び請負業者の決定並びに契約締結について
- 第二号議案 防犯対策に係る補助事業の中止及び自己資金での対応について
- 第三号議案 その他の件について

第四回理事会 平成 30 年 11 月 20 日（火）

理事 7 名中 6 名出席 監事 2 名中 2 名出席

- 第一号議案 平成 30 年度社会福祉法人ゆうかり学園第二次補正予算書（案）審議の件
- 第二号議案 定款変更申請の件について
- 第三号議案 会計監査人の選定及び報酬額の決定について
- 第四号議案 国土交通省補助金による福祉機器等整備に伴う業者選定について（自動車事故対策補助金）
- 第五号議案 障害者支援施設耳納学園の事業体系見直しについて
- 第六号議案 経理規程改正の件について
- 第七号議案 人事院勧告の件について
- 第八号議案 評議員会招集に関する審議の件

第二回評議員会 平成 30 年 12 月 5 日（水）

評議員 9 名中 8 名出席 陪席者：理事 6 名、監事 1 名

- 第一号議案 平成 30 年度社会福祉法人ゆうかり学園第二次補正予算書（案）審議の件
- 第二号議案 定款変更申請の件について
- 第三号議案 会計監査人の選任について

第五回理事会 平成 31 年 3 月 6 日（水）

理事 7 名中 6 名出席 監事 2 名中 2 名出席

- 第一号議案 平成 30 年度第三次補正予算書（案）審議の件について
- 第二号議案 平成 31 年度事業計画（案）審議の件について
- 第三号議案 平成 31 年度当初予算（案）審議の件について
- 第四号議案 就業規則改正（案）、給与規程改正（案）、経理規程改

	正（案）、理事長専決規則改正（案）審議の件について
第五号議案	特定監事の選任について
第六号議案	施設長等の契約更新について
第七号議案	平成 31 年度給食納入業者の選定について
第八号議案	評議員会招集に関する審議の件
第九号議案	その他の件について

第三回評議員会 平成 31 年 3 月 27 日（水）

評議員 9 名中 9 名出席 陪席者：理事 6 名、監事 2 名

第一号議案	平成 30 年度社会福祉法人ゆうかり学園 第三次補正予算書（案）審議の件について
第二号議案	2019 年度事業計画（案）審議の件について
第三号議案	2019 年度当初予算（案）審議の件について
第四号議案	経理規程改正に伴う特定監事の選任について
第五号議案	その他の件について

2、平成 30 年度心身障害児者の施設利用状況

ゆうかり医療療育センターの利用状況は、医療型障害児入所施設（定員 150 名）では延 8,528 名、一日平均 23.4 名、療養介護事業所（定員 150 名）では延 38,320 名、一日平均 105 名、私的入院では延 51 名、一日平均 0.1 名であった。入所率は 150 定員に対して 85.7%であった。短期入所では 22 名の利用があり、延利用日数は 456 日であった。一方、日中一時支援も 14 名の利用があり、延 135 回の利用があった。

コアラ園では、児童発達支援事業（定員 20 名）に対し延 3,366 名、一日平均 14.03 名が利用された。また、放課後等デイサービス事業（定員 10 名）では延 356 名、一日平均 1.48 名であった。保育所等訪問では延 23 名の利用があった。

耳納学園においては、施設入所支援（定員 34 名）に対し、延 9,673 名の利用があり、一日平均 26.5 名、充足率は 77.95%、就労継続支援 B 型（定員 40 名）では、年間作業参加実績延 6,433 名、定員から見た充足率は、66.73%、一日平均作業参加実績利用者数は 26.7 名であった。

千歳療護園の利用状況は、生活介護（定員 50 名）が延 11,435 名で 87.9%の充足率、施設入所支援（定員 40 名）は延 14,106 名で 96.6%の充足率であった。内訳は 11 名の利用者が延べ 161 日間の入院の他、外泊日数は延べ 122 日間となっており入院日数や外泊日数を除くと実利用者数は延べ 13,823 名で 97.9%の充足率であった。短期入所利用者は延 95 名、日中一時の利用者は延 1 名だった。

第二千歳療護園の利用状況は、生活介護（定員 40 名）に対して延 10,397 名で 99.9%、施設入所支援（定員 40 名）は延 14,595 名で 99.9%の充足率である。内訳は 7 名の利用者が延べ 240 日間の入院の他、外泊日数は延べ 48 日間となっている。入院日数や外泊日数を除くと実利用者数は延べ 14,307 名で 97.9%の充足率であった。短期入所の利用者は延 68 名、日中一時の利用はなかった。

施設毎の事業報告の詳細は別紙の通りである。

3、助成事業関連

① 清水基金による助成事業

平成 30 年 1 月に内示を受けた助成事業については、6 月に業務用洗濯機、乾燥機、汚物除去機計 6 台を整備した。

総事業費 5,540,400 円（清水基金からの助成金 3,800,000 円、自己資金 1,740,400 円）であった。

② 国土交通省自動車事故対策補助金による事業

標記について、9,178,000 円の補助金を受けて、入所施設支援費 2,398,000 円及び人財雇用費として 6,780,000 円を支出した。入所施設支援費については福祉機器（入浴用電動ストレッチャー、バスタブ、シャワーストレッチャー）を整備した。

③ 30 年度久留米市社会福祉施設等施設整備事業として協議書を提出していた警察署への非常通報装置整備について本年度は実施しない旨の連絡があった。緊急を要する事業であることを鑑み自己資金にて整備した。総事業費 2,959,200 円であった。

4、賛助会員の状況

今年度の加入状況は個人会員 54 名及び 5 団体であった。盆踊り花火大会、運動会への案内及び広報紙（年 3 回発行）を送付した。

また、温泉利用者数は延 2,110 名、（前年度 2,818 名）一日平均 22.93 名であった。

5、利用者様のサービス向上に関する事項

苦情解決委員会をはじめとする各委員会活動を通じて、利用者様のサービ

スの向上、並びに職員の資質向上に努めた。

6、定例事業

(1) 盆踊り・花火大会の開催

大会期日を平成30年7月26日(木) ※雨天時順延 とし、4月に各施設、部署へ実行委員の選出を依頼する。5月9日に、行政機関や各協力機関への挨拶や依頼を正副実行委員長で出向する。実行委員会は、第1回目を5月16日とし、毎週水曜日に開催した。5月に食品売店、6月には打ち上げ花火関連の許可申請等を各関係機関へ提出する。7月17日より会場作業を開始し、設営に取り掛かる。

7月18日には、踊り・売店・花火・駐車場等、各担当者を含めて、実行委員会最終打ち合わせを行い、7月26日に、第32回 ゆうかり学園盆踊り・花火大会を、開催した。二年ぶりの盆踊り花火大会となり、各寮による盆踊りや、ゲストによるアトラクション等、盛大に開催することが出来た。

(2) 運動会の開催

開会期日を平成30年10月13日(土) ※雨天中止 とし、2月に東部運動公園の調整会議に参加し、会場の確保を行う。8月に各施設、部署へ実行委員の選出を依頼する。実行委員会は、第1回目を8月22日とし、毎週水曜日に開催した。

実行委員会では、この夏の猛暑により、午前中で競技終了とし、昼食は各施設、各寮内にてとることとした。それに伴い施設対抗リレー、保護者選抜の競技を省いたプログラムで開催した。

利用者様の負担軽減を図ることが出来たと概ね好評であり、次年度以降も継続できればと考える。

(3) 韓国瑞林福祉院との職員交流研修事業

本年は4月20日から23日まで瑞林福祉院をより6名(団長：金東萬)が当法人を訪問し、23日の出国時に当法人より5名(団長：田中克宜)が瑞林福祉院を訪れ26日まで有意義な交流研修を行った。

(4) 耳納学園展示即売会

第12回目となる恒例の展示即売会を本年度は1月12日(土)から14日(祝)まで『ゆめタウン久留米 ウエストコート』にて開催した。

7、職員研修事業（園内）

(1) 外部講師による人権研修

講師：江島 玲子 氏

5/23 障がいの理解とその対応

(2) 外部講師による啓発セミナー

講師：高山 有朋 氏

9/12・19 職場活性化のためのコミュニケーション

10/24・11/7 職場活性化のためのコミュニケーション

リーダー研修（主任以上）

10/31 コミュニケーションアドバンス研修

(3) 新任職員研修

いずれも別添報告書の通り内容を進化させながら実施した。

8、委員会活動

苦情解決委員会はじめ各委員会活動を活発に行ってきた。その他各委員会からの報告は別添のとおりであった。

平成 30 年度新任職員研修

研修のねらい

- ・1 回目は入職にあたっての最低限必要と思われる内容にとどめ、実務をより早く経験する。
- ・2 回目を 3 ヶ月～6 ヶ月後あたりに開催し、理事長講義、職員としての基本的な仕事の進め方等について学ぶ。
- ・3 回目は、新任職員に事前にアンケートをとり、疑問に思っていることや、学びたい内容について検討しカリキュラムを組む。

平成 30 年 4 月 2 日(月)

9:00～18:00

	研修概要	内容	開始時間	終了時間	備考
	集合後 ⇒ 移動 ⇒	研修室	9:00	～ 9:10	カンファレンス
1	辞令交付		9:10	～ 9:30	地域支援棟 研修室
	移動 ⇒	カンファレンス	9:30	～ 9:40	
2	オリエンテーション		9:40	～ 9:45	カンファレンス
3	局長講義	『学園の組織と沿革』	9:45	～ 11:15	事務局長
	休憩		11:15	～ 11:20	
4	自己紹介	『今の私・6 か月後の私』	11:20	～ 11:50	
5	事務手続き	契約書等の手続きについて	11:50	～ 12:00	
	昼休み (車椅子操作がある為、動きやすい服装で参加)		12:00	～ 13:00	
6	仕事の進め方	報告・連絡・相談(ビデオ視聴)	13:00	～ 13:50	
	休憩		13:50	～ 14:00	
7	就業規則		14:00	～ 14:30	海田部長
8	福利厚生・退職金共済		14:30	～ 15:00	
	休憩		15:00	～ 15:10	
9	車椅子実技		15:10	～ 15:50	理学療法室 1 藤川課長
	休憩		15:50	～ 16:00	
10	施設見学	ゆうかり医療療育センター・耳納学園 千歳療護園・第二千歳療護園	16:00	～ 17:50	上原所長
11	ゆうかり学園の職員として		17:50	～ 18:00	

研修担当 法人事務局

平成 30 年度新任職員研修

平成 30 年 12 月 20 日(木)

9:00~18:00

会場：カンファレンスルーム

研修概要	内容	開始時間	終了時間	備考	
1	オリエンテーション	9:00	~ 9:05		
2	学園紹介	紹介ビデオ	9:05	9:30	
3	理事長講義	『 障害者制度改革の変遷 』	9:30	~ 10:50	※
休憩		10:50	~ 11:00		
4	大滝副園長講義	『 発達について 』	11:00	~ 12:00	
昼休み		12:00	~ 13:00		
5	苦情解決委員会について	13:00	~ 13:30	佐藤課長	
6	防災・防犯対策委員会について	13:30	~ 14:30	稲田課長 井浦	
休憩		14:30	~ 14:40		
8	今までの自分を振り返って	個人評価への記録	14:40	~ 14:50	
9	グループ討議・発表	『 今まで仕事に携わってきて 』			
		①説明 (10分)	14:50	~ 15:00	
		②自己紹介・役割分担決め(30分)	15:00	~ 15:30	
		③テーマの決定及び討議 (80分)	15:30	~ 16:50	
休憩		16:50	~ 17:00		
10	グループ討議発表	④グループ発表 等 (60分)	17:00	~ 18:00	佐藤課長 古賀係長 (竹下所長)

※ 必須

研修担当 法人事務局

平成 30 年度新任職員研修

研修のねらい

- ①1年間を通じ、法人内の他部署の仕事を体験し、自分の仕事に対する姿勢を振り返る機会とする。
- ②新任職員が顔を合わせて話し合い、同じ様な悩みや不安を持っているながらも、みんな頑張っている状況を知り、自分だけではないことを共有すると共に、今後の自分の仕事に対する姿勢や課題を再確認し、心をリセットする。

平成 31 年 4 月 22 日(月)
9:00~18:00

【集合場所：カンファレンスルーム】

研修概要	内容	開始時間	終了時間	備考
1	オリエンテーション	9:00	~ 9:20	移動時間込
2	現場実習	9:20	~	各現場
昼休み : 各現場で調整 (1 時間)				
3	現場実習		~ 16:30	各現場
移動・休憩				
		16:30	~ 17:00	
4	平成 29 年度事業報告について	17:00	~ 17:10	
5	体験発表	17:10	18:00	

研修担当 法人事務局

施設事業報告

- ・ ゆうかり医療療育センター
- ・ コアラ園
- ・ 相談支援事業所 夢の紀
- ・ 耳納学園
- ・ 千歳療護園
- ・ 第二千歳療護園
- ・ 久留米市小児慢性特定疾病児童等自立支援事業
- ・ 久留米市東部障害者基幹相談支援センター

ゆうかり医療療育センター

医療部診療課 外来

《概況》

外来受診者の中で、入所前診察者は重症化の傾向にある。

療育前診察は昨年と同様、自閉症スペクトラム障害、注意欠如・多動症、言語発達遅滞等の受診者が多く、1人あたりの診療時間は長く要している。

リハビリ実施計画書に基づく診察も行っていることから、診療予約日を早めに設定した。

千歳療護園・耳納学園入所者の診察もあり、スムーズに診察出来るよう情報収集を行い、医師との連携に心掛けた。

平成 30 年度 受診者数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
新患	29	39	26	25	19	28	27	29	35	64	38	24	383
再来	984	1,092	1,132	1,032	1,060	1,021	1,169	1,592 ※	1,167 ※	1,001	1,112	1,043	13,405

※インフルエンザ予防接種者を含む

- ・インフルエンザの流行時期は予防策として、外来者は受付で、マスク着用と必要に応じて体温測定を行い、症状のある時は、医師に報告し対応した。
- ・発達障害児の新患予約状況は、11ヵ月待ちの状況にある。
- ・各種の申請書類診察が、年々増加の傾向であり、書類診察待ちの状況である。
- ・入所者の重症化に伴い、外来でガス滅菌器を使用しているが、その頻度は増加し、準備時間とコストは増しているが、感染防止に欠くことはできない。

医療部診療課 エックス線

《概況》

ゆうかり医療療育センターでは、透視を使って栄養チューブ確認や胃瘻造影、膀胱瘻のチューブ交換をしたり、EDチューブの交換なども加わってきた。整形外科の撮影は、利用者様の緊張の度合いがあり、CR装置を駆使し良い画像が得られている。

平成30年度 エックス線撮影件数

一般撮影

(名)

月 病棟・外来	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
おひさま	14	13	16	19	26	30	16	21	22	21	18	22	238
なかよし	17	12	12	9	14	10	11	9	6	6	7	14	127
ともだち	9	18	13	11	10	3	5	10	5	10	11	6	111
外 来	10	20	18	13	23	21	38	20	86	14	16	23	302
計	50	63	59	52	73	64	70	60	119	51	52	65	778

透視

(名)

月 病棟・外来	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
おひさま	4	4	4	3	7	6	6	6	3	5	5	4	57

CT

(名)

月 病棟・外来	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
おひさま	0	1	1	0	1	2	1	1	0	0	1	2	10
なかよし	0	1	2	0	0	2	1	1	1	0	0	0	8
ともだち	2	1	3	3	1	0	1	1	0	1	0	1	14
外 来	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
計	2	3	6	4	2	4	3	3	1	1	1	3	33

- ・12月は職員健診のために外来が増加した。
- ・おひさま寮、ともだち寮は、胃瘻造影が多かった。
- ・CT撮影に関しては、副鼻腔や胸腹部など、より薄いスライスでの撮影が多くなっている。

医療部診療課 検査

《概況》

本年度も、利用者様の年2回の健診診断は予定通り行うことが出来た。10月中旬から11月初旬まで、なかよし寮でヒトメタニューモウイルスの感染拡大がみられ、12月中旬からは、なかよし寮・千歳・耳納でインフルエンザウイルスA型の感染拡大もみられ、千歳に関しては利用者様だけでなく職員への感染も認められ、感染力の強さを再確認した。ノロウイルス胃腸炎・下痢原性大腸菌については、罹患者が利用者様、職員、新入社員時の健診で見られたが、陰性になるまで検査を実施した。

30年 月	健診用検査			白血球数・CRP	血液生化学	検尿・検便	血液ガス分析	心電図	脳波	腹部超音波	迅速診断	外注検査
	6カ月	誕生月	外部・入園時									
4	21	22	4	20	12	17	7	20	3	5	22	74
5	21	25	3	52	22	33	8	16	1	0	7	86
6	17	25	5	32	11	27	1	27	3	2	0	98
7	15	15	2	37	31	33	3	18	2	4	6	63
8	20	24	2	58	30	34	5	17	2	6	15	155
9	13	15	2	52	28	19	3	18	2	4	13	89
10	23	20	16	43	19	26	2	34	2	4	41	85
11	24	21	2	28	15	16	8	22	2	6	11	76
12	23	19	4	32	8	13	3	20	3	1	54	92
1	14	15	2	20	11	10	2	17	3	0	43	61
2	24	20	2	27	16	15	1	13	1	0	48	138
3	15	13	13	37	11	27	1	28	2	6	7	125
計	230	234	57	438	214	270	44	250	26	38	267	1,142

外部研修

平成30年度医療機器安全基礎講習会

7/16 第40回ME技術講習会 臨床検査技師 1名

《概況》

医師の処方箋に基づき調剤を行った。平成 30 年度の処方箋枚数及び調剤数については下表の通りである。

① 平成 30 年度受付処方箋枚数及び調剤数

外来（千歳、耳納、その他）・病棟（おひさま寮、なかよし寮、ともだち寮）

		外来						病棟					
		臨時		定期		注射		臨時		定期		注射	
月	日数	枚数	剤数	枚数	剤数	枚数	剤数	枚数	剤数	枚数	剤数	枚数	剤数
4	20	54	79	0	0	3	3	1,023	1,409	80	178	26	26
5	21	49	72	0	0	4	4	1,099	1,439	79	177	47	47
6	21	40	61	0	0	0	0	1,015	1,370	80	178	44	44
7	21	50	69	0	0	4	4	1,133	1,476	80	178	37	37
8	20	61	92	0	0	13	13	1,221	1,560	82	178	90	90
9	18	38	65	0	0	2	2	1,036	1,317	82	180	85	85
10	22	43	83	0	0	0	0	1,179	1,573	81	179	46	46
11	21	58	126	0	0	0	0	1,007	1,362	80	178	30	31
12	19	60	100	0	0	4	4	1,066	1,357	83	185	30	30
1	19	171	226	0	0	1	1	1,040	1,303	84	186	29	29
2	19	56	94	0	0	0	0	948	1,237	83	190	44	44
3	20	42	78	0	0	0	0	996	1,293	81	224	82	82
計	241	722	1,145	0	0	31	31	12,763	16,696	975	2,211	590	591

★吸入処方は、外用剤でカウント

② 病棟看護師の業務の負担軽減

薬剤師が4月から増員され4名体制となり、薬局業務に余裕ができた。そこで、看護師の負担軽減の為、以下の取り組みを行った。

病棟へ払い出した薬剤は、病棟看護師が与薬までの準備を行っていたが、業務多忙の中この準備作業は大きな負担となっていた。そこで薬剤師がこの準備作業を、各病棟の定期薬とおひさま寮の臨時薬及びともだち寮の一部の臨時薬に対し行った。看護師からは負担が減り助かっているとの声が聞かれた。

③ 薬事審査会開催

各科先生による新規採用医薬品の申請書提出に基づき審査を行った。

また、医薬品に関する安全性情報などの提供を行った。

④ 救急カート点検

救急カート配置医薬品の品目及び定数の見直しを行った。また、注射薬の有効期限をチェックし、期限の切れたものについては随時交換を行った。

⑤ 院内感染症対策委員会参加

⑥ 医療安全対策委員会参加

⑦ 給食委員会参加

臨床検査値の異常が投薬中の薬剤に起因するか否かを、検討するとともに情報提供を行った。

⑧ 研修会参加

平成 30 年 11 月 13 日 福岡県病院薬剤師研修会
 福岡県保健医療介護部薬務課、福岡県病院薬剤師会主催
 薬剤師 1 名

医療部診療課 口腔衛生

《概況》

歯科医師の指導に基づき継続的な口腔管理を行った。

病棟（おひさま寮・なかよし寮・ともだち寮）、耳納学園、千歳療護園・第 2 千歳療護園、外来受診者総数は下記の通りである。

平成 30 年度園内歯科受診者数 平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
Dr	82	71	101	85	64	85	80	70	86	85	78	86	973
D.H	230	217	252	195	140	207	202	198	170	122	204	186	2,323

Dr（歯科医師） D.H（歯科衛生士）

平成 30 年度外来受診者数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
	31	23	40	23	29	25	31	26	30	21	26	33	338

- ・コアラ園利用者様の口腔検診実施（6 月）
- ・耳納学園利用者様の口腔検診実施（6 月）
- ・外来受診者 4 名
 全身麻酔下歯科治療の為聖マリア小児歯科へ紹介した。
- ・千歳・第二千歳の利用者様においては、リコール制が定着してきた為、検診・口腔ケア・治療がスムーズに実施できた。
- ・なかよし寮職員対象に「口腔ケアについて」研修（3 月）

看護部看護課

《概況》

豊かなところで寄り添い、つながりを大切にするをテーマに、医療安全、感染症対策の強化。重症児者看護、介護の専門性を高め、地域支援事業の充実に努める。

*委託入院 久留米大学病院 6件 聖マリア病院 4件
 田主丸中央病院 6件

◆ 超重症児 5名	◆ 準超重症児 10名
◆ 気管切開者 13名	◆ 鼻腔カテーテル挿入者 11名
◆ 胃瘻チューブ挿入者 23名	◆ 腎瘻、膀胱瘻 2名

*インフルエンザ予防接種	130名
インフルエンザA型罹患者	2名
B型罹患者	5名
*短期入所者（延）	456名
*日中一時支援利用者（延）	135名

<実習生受入数>

医学・看護学生	久留米大学医学部医学科	19名
	久留米大学医学部看護学科	9名
	昭和学園高等学校看護学科	54名
	八女筑後看護専門学校	39名
体験研修	新採用県職員	9名
ボランティア		11名

① 平成30年度 在籍者数（月初日） 平成30年4月～平成31年3月

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
療養	107	107	106	106	105	105	105	105	106	106	106	106
医療	21	21	21	25	24	24	24	24	24	24	24	25
私的	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

② 平成30年度入退園者状況

平成30年4月1日～平成31年3月31日

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
措置入園			2								1	1
退園				1							1	
契約入園			2					1				
退園		1		1								
私的入園												1
退園		1										

③ 平成30年度年齢別入所者数

平成31年3月31日現在

年齢(歳)	0～6	7～12	13～15	16～19	20～29	30～39	40以上	計
措置	2	4	4	5	0	0	0	15
契約	0	5	1	8	17	18	67	116
私的	0	0	0	0	0	0	1	1

【なかよし寮】

- インシデントレポート提出は積極的に行えているが、内服に関するアクシデントが発生。今後、内服に関するインシデント状況を確認していきたい。
- 新人に対して6ヶ月到達度の指標は作成できた。しかし、具体的に指導、評価が行えなかった。次年度は新人教育として計画的に行っていきたい。
寮内カンファレンス時間に、感染・口腔衛生について勉強会を実施。インフルエンザ、ノロウイルス感染症について、感染経路・対策をスタッフステーション、職員休憩室に掲示、全職員に周知徹底した。
- 期入所利用は、週末や学校長期休暇中の利用が多く、要望に応えられるようにした。
小児慢性特定疾病レスパイト支援事業の、利用者受け入れはなかった。
- 今年度3名高等部卒業、なかよし寮残留予定

【おひさま寮】

- 感染症対策委員会を中心に、発生時の対応や、対策を徹底する事で感染症拡大防止に努める事が出来た。
インシデント、アクシデント報告、分析、情報共有を行い、事例によってはカンファレンス時に勉強会を行い、周知徹底を図った。
- カンファレンスやアフターファイブの時間を利用し研修会を行い、リスクマ

ネージメント力の向上や看護、介護の知識向上に努める事が出来た。

- 短期入所の受け入れに対し、ご家族、地域事業部と情報交換を行い、ご家族、利用者様が安心して利用できるように寮内の支援体制、関わりについて見直しを行った。

【ともだち寮】

- インシデントレポート提出の促進を図るため、チェックリストを作成したことで、職員の意識があがった。

しかし、内服関連のアクシデントは認めており、現在対策検討中である。

- 重症児者看護において、適切なケアが出来る様、研修委員企画による研修の参加を促す。参加率も徐々に増えてきている。

接遇委員会活動にて、接遇目標を設定し、権利擁護の意識向上に努めた。

- 短期入所利用は、感染症で受け入れない場合もあったが、出来る限り受け入れ、施設の役割を果たせる様努力した。

病類別入所者数

平成 31 年 3 月 31 日現在

病 名		病 名	
脳性麻痺	68	染色体異常	4
低酸素性虚血性脳症	2	脊髄破裂後遺症	2
副腎白質ジストロフィー	2	マーシャルスミス症候群	1
脳損傷後遺症	1	先天性眼球欠損症	1
頭蓋内出血後遺症	2	先天性複雑心奇形	1
化膿性髄膜炎後遺症	2	レット症候群	3
左瘧性麻痺	1	急性脳症後遺症	1
滑脳症	1	インフルエンザ脳炎後遺症	1
てんかん性脳症	1	硬膜下出血後遺症	1
クラインフェルター症候群	1	頭蓋咽頭腫摘出術後状態	1
髄膜炎後遺症	1	猫鳴き症候群	1
ダウン症候群	3	乳幼児揺さぶられ症候群	1
右中頭蓋窩クモ膜胞	1	心肺停止蘇生後状態	1
麻疹脳炎後遺症	1	脳腫瘍手術後状態	1
脳炎後遺症	2	頭蓋骨早期頭蓋癒合	1
無酸素性脳症	2	頭部外傷後後遺症	1
水頭症	4	超低出生体重児	1
精神発達障害	4	水頭無脳症	1

MCT 変異による甲状腺ホルモン輸送障害	2	先天性筋緊張性ジストロフィー症	4
難治性てんかん	1	ファロー四徴症の術後	1
ウエスト症候群	1		

計 132 名

看護部研修会参加状況

日時	研修内容	おひさま	なかよし	ともだち	その他	合計
4/27	人工呼吸器について	10名	6名	6名		22名
5/9	骨折について	3名	2名	4名		9名
6/28	心電図について	3名	1名	4名	3名	11名
7/4	漢方薬について	3名	3名	2名	10名	18名
7/19	漢方薬について	3名	3名	2名	10名	18名
8/7	急変時の対応	3名	6名	2名		11名
9/17	急変時の対応	2名	4名	5名		11名
2/18	嘔吐物の処理	1名	6名	6名		13名
2/26	嘔吐物の処理	6名	3名	5名	3名	17名

<出張関係>

- ◆ 第 115 回 摂食・嚥下指導（基礎・実習）講習会
4月18日～19日 介護福祉士 1名
- ◆ 第 73 回 重度・重症児（者）医療・療育（基礎）講習会
5月14日～18日 准看護師 1名
- ◆ 平成 30 年度 社会福祉施設役職員研修 新任職員研修
5月8日・9日・10日・17日・22日・23日 看護師 3名
准看護師 2名
- ◆ 平成 30 年度日本重症心身障害福祉協会全国施設協議会
5月22日～23日 看護師 1名
- ◆ 第 1 回障害児（者）施設看護師講習会 ミドルコース
6月12日～15日 看護師 1名
- ◆ 平成 30 年度 ストレスマネジメント研修
6月14日 看護師 1名
- ◆ 平成 30 年度福岡県強度行動障害支援者養成研修
7月9日・10日・19日・20日 看護師 1名
- ◆ 平成 30 年度 九州沖縄地区重症心身障害施設経営研究会

	7月12日～13日	看護師	2名
◆	平成30年度 医療機器安全基礎講習会		
	7月15日	看護師	1名
◆	平成30年度 久留米市医療安全対策研修会		
	8月2日	看護師	1名
◆	平成30年度福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程管理職員研修		
	8月9日～10日	看護師	1名
◆	平成30年度福岡県相談支援従事者初任者研修		
	8月30日～31日	看護師	2名
◆	平成30年度福祉サービス苦情解決従事者研修会		
	9月3日	看護師	1名
◆	平成30年度児童福祉施設新任職員研修会		
	9月11日	看護師	3名
		准看護師	2名
◆	平成30年度全国重症心身障害児者施設職員研修会「看護師コース」		
	9月12日～14日	看護師	1名
◆	第63回西日本肢体不自由児施設運営研究会		
	9月13日～14日	看護師	2名
◆	第37回（平成30年度）九州身体障害者施設研究大会		
	9月20日～21日	介護福祉士	1名
◆	第2回障害児（者）施設看護師講習会 ミドルコース		
	10月9日～12日	看護師	1名
◆	第118回 摂食・嚥下指導（基礎・実習）講習会		
	10月17日～18日	介護福祉士	1名
◆	平成30年度全国重症心身障害児者施設職員研修会 「看護管理研究会コース」		
	10月31日～11月2日	看護師	1名
◆	平成30年度（第38回）全民連中堅職員研修会		
	11月8日～9日	看護師	1名
◆	第39回 日本重症心身障害福祉協会西日本施設協議会総会		
	11月15日～16日	看護師	2名
◆	第75回 重度・重症児（者）医療・療育（基礎）講習会		
	11月26日～30日	介護福祉士	1名
◆	平成30年度院内感染対策講習会（厚生労働省主催）		
	1月17日～18日	看護師	1名

- ◆ 平成 30 年度 福岡県強度行動障がい支援者養成研修
2月14日～15日、2月18日～19日 介護福祉士 1名
- ◆ 第41回 九州地区重症心身障害研究会
3月9日 看護師 1名
- ◆ 平成 30 年度 第2回施設長会並びに第2回施設長・職員研修会
3月12日 看護師 1名
- ◆ 平成 30 年度病院向けBCP（業務継続計画）策定・運用研修
3月19日 看護師 1名

《概況》

平成 30 年度は、育成部 3 寮のテーマを『利用者様一人ひとりのニーズと心に行き届いたサービスを』を掲げ、行動指針として、急がない、慌てない、落ち着いたサービスの提供、支え合う、優しい気持ちでのサービス提供、忠実、誠実、確実なサービスの提供を目標として、それぞれの利用者様へ充実した毎日を過ごせるように心がけた。一人ひとりのニーズに対応し、満足して頂けるような支援を、なかよし寮、おひさま寮、ともだち寮、それぞれの利用者様へ、個別支援計画に基づき、自己決定の実現に向け、よりよいサービスと園内外の活動や季節毎の行事(花祭り、端午の節句、七夕、クリスマス会、節分、ひな祭りなど)、各種のレクリエーション、グループ活動、少人数による希望外出を計画実施した。

5 月には、3 寮合同によるレクリエーション会を実施した。午前中は、それぞれの寮でのレクリエーション、午後からは、ブリヂストン K2 バンド 20 名以上の方々の慰問により、屋外芝生広場で演奏会を実施して頂いた。3 寮利用者様の保護者の参加も頂き、毎年恒例行事として今後も継続実施する予定。

法人全体行事、7 月の盆踊り花火大会、10 月の大運動会にもたくさんの利用者様、保護者が参加した。又、1 月には 2 回目の開催となる伝統文化いけばな教室・ゆうかり学園合同花展を開催した。いけばなボランティアの片岡先生と文化教室生徒、ゆうかり医療療育センター利用者様 35 名、千歳療護園利用者様、コアラ園利用者様、総勢約 60 名の方々のいけばな作品を支援棟交流ホールに 10 日間展示して、保護者の皆様、職員、地域一般の皆様方にも鑑賞して頂いた。

次年度も、3 寮合同によるレクリエーション会（保護者参加型）、おひさま寮の日帰りバス旅行（保護者様参加）を実施の方向で計画する。

【なかよし寮】

（生活援助）

本年度は、趣味活動や個別支援計画に基づき、個々の活動が低下しないように、充実した処遇を心掛け展開した。

学卒の利用者様には、全体的活動（午前活動【月 1～2 回の午前バス外出】・午後レクリエーション）や個別活動（小グループ活動【アレンジ教室、生花教室・音楽教室】・趣味活動【ゲーム、手芸、DVD 鑑賞】）などの内容を工夫して実施した。園外活動として、買い物外出や希望外出を行い、園外での買い物・食事・ドライブなどの楽しみを増やした。

就学児では、長期休暇（春・夏休み）を利用しての外出を目標にして、個人のニ

ーズや希望に沿って外出や活動を行った。数名の利用者様は、地域活動として生花教室への参加・展示を行った。更に、土曜日の午後にドライブ外出を実施した。

特別支援学校との連携を密にし、学業の向上と学校生活を充実出来る様にサポートした。

(園外活動)

身体障害者体育大会	4/29 (日)	3名
買い物外出	5/7 (月)	3名
買い物外出	5/14 (月)	3名
買い物外出	5/25 (金)	2名
買い物外出	6/8 (金)	3名
買い物外出	6/25 (月)	3名
買い物外出	8/10 (金)	2名
買い物外出	8/17 (金)	3名
買い物外出	8/23 (木)	2名
買い物外出	9/8 (金)	2名
ミュージックフェスティバル	2/3 (日)	6名
買い物外出	3/22 (金)	3名
買い物外出	3/25 (月)	3名
買い物外出	3/28 (木)	3名
買い物外出	3/29 (金)	3名

(園内活動)

花祭り	4/4 (水)	全員参加
端午の節句	5/12 (土)	全員参加
三寮合同お楽しみ会	5/27 (日)	全員参加
七夕	7/7 (土)	全員参加
茶話会	7/20 (金)	学卒
調理実習	8/20 (月)	5名
お楽しみ会	8/29 (水)	全員参加
クリスマス会	12/21 (金)	全員参加
クリスマス演芸会	12/25 (火)	全員参加
生花展覧会	1/19 (土)～20(日)	18名
成人の祝い	1/24 (木)	学卒者
節分	2/2 (土)	全員参加

ひな祭り	3/ 2 (土)	全員参加
茶話会	3/19 (火)	学卒・卒業生
誕生会	第3土曜日	全員参加

(ボランティア・慰問)

アレンジ教室	毎週木曜日	希望者
生花教室	毎月第2火曜日	希望者
学童児生花教室	6月～1月の第1土曜日	3名
音楽教室	2～3ヶ月の第2金曜日	11名
理容ボランティア	1.5ヶ月毎	全員対象

【おひさま寮】

(生活援助)

日常生活の中で、医療的ケア、及び基本的な生活習慣において援助が必要とされる利用者様に対して、各課の共通理解のもと利用者様一人ひとりがより良い生活が出来るように支援をした。昨年度同様に、ユニットケアの向上、個別対応の重視を目標としてきたが、週3回の入浴導入の検討から実施(10月)により、日課の変更を余儀なくされた為、本年度は、個別活動がうまく実施出来ない状況となった。基本的な生活習慣の入浴は、時間、職員の数が必要であり余暇活動が減少した。生活習慣の充実を考えて、業務改善委員会を主として日課の整備に取り組んだ。

午前活動については、個別活動が中々困難な状況となり小グループの活動となった。行事による製作物を利用者様と共に作成、トランプ、かるた等のゲームで過ごされた。午後の全体療育活動は月3回、居室生活の利用者様の療育活動は月2回、保育士が中心として実施した。

幼児保育では、利用者様2名の就学に向けて週5回、「身体的発達」「社会的発達」「精神的発達」を基本に、カリキュラムに沿って関わりを持ち、5領域の保育内容に取り組んだ。また、保育に限らず生活習慣の獲得にも職員全体で関わり、利用者様の成長を支援してきた。

テーマとして掲げてきた園外活動については、利用者様の状態、環境、職員の人員等により、計画通りには実施できなかった。

個別活動充実の為に、ユニットケアのから改善をここ数年で見直す事が続いている中で、再度大きく変化させる必要性があり、まずは基本的な生活習慣の確立を目指してきた。利用者様が、健康、安全に生活できる支援が中心となった。

◎ 慰安・娯楽

(活動内容)

- 4月 花祭り (全員参加)、ドライブ外出 (4名)
- 5月 端午の節句 (全員参加)、3 寮合同レクリエーション (全員参加)
ドライブ外出 (2名)
- 6月 ドライブ外出 (2名)
- 7月 七夕まつり (全員参加)
盆踊り大会 (一部参加、不参加者は病棟中庭にて花火大会実施)
- 8月 ドライブ外出 (2名)
- 9月 ドライブ外出 (4名)
- 10月 運動会 (一部参加)、園外活動 (4名)
久留米児相交歓大会 (1名)、ドライブ外出 (2名)
- 11月 ドライブ外出 (2名)
- 12月 クリスマス会 (全員参加)
- 1月 茶話会 (全員参加)
- 2月 節分 (全員参加)
- 3月 ひな祭り (全員参加)、ドライブ外出 (8名)

◎ その他主な活動

- 毎月第3水曜日誕生会 (全員参加) ○集団レクリエーション (月3回)
- 幼児保育 (週5回) ○理容 (2ヶ月1回程度) ○音楽活動 (日常的)
- 居室内レクリエーション (月2回) ○園内保育修了式

【ともだち寮】

(生活援助)

前年度から午前のグループ活動にドライブを取り入れ、今年度は、よりパターン化出来たこと、又日常的に一人一人が楽しめるよう、DVD・CD などを取り入れる環境を見直すことで、より効率的なサービスの提供に繋がったものと思われる。

意識的にも、利用者本意の考えを、カンファ等で取り上げ、徐々にではあるが、理解を深められたものと感じられる。

(園外活動)

- | | |
|--------------------------|---------------|
| (1) ドライブ外出 (土曜 PM・平日 AM) | 年間一人 14 回程度参加 |
| (2) 久留米児童相談所管内交換大会 | 10/27 2名参加 |
| (3) 身体障害者体育大会 | 4/29 4名参加 |
| (4) 日帰り旅行 | 6/20 全員参加 |

(5) 公園外出					8/24	9/25	4名参加
(6) 買い物外出	4/23	8/20	8/21	8/27	9/27	10/26	
				10/29	3/22	3/28	18名参加
(7) 面会外出			9/7	10/2	11/20	12/12	4名参加

(園内活動)

(1) 花祭り				4/5	(水)	全員参加
(2) 端午の節句				5/10	(水)	全員参加
(3) レクリエーション会				5/28	(日)	全員参加
(4) 七夕				7/5	(水)	全員参加
(5) お楽しみ夕食会				9/20	(水)	全員参加
(6) クリスマスお楽しみ会				12/22	(木)	全員参加
(7) 節分				2/7	(水)	全員参加
(8) 雛祭り				3/7	(水)	全員参加
(9) 誕生会				毎月第三水曜日		全員参加
(10) グループ活動			毎週	月, 水, 木, 金 (午前)		4~6名参加
(11) 生花教室			毎月第四火曜日			各3名参加 (計15名)
*生け花教室展示会				1/19・20		(15名参加)

<実習生の受け入れ 3寮分>

・精華女子短期大学	51名	・中村学園大学	5名
・西九州大学	3名	・西南学院大学	1名
・西九州大学短期大学部	7名	・福岡こども短期大学	6名
・純真短期大学	18名	・久留米大学	10名
・香蘭女子短期大学	36名	・九州大谷短期大学	3名
・福岡女学院大学	7名	・中村学園大学短期大学部	10名
・久留米工業大学	1名		

(計158名)

<出張関係>

H30.4.25 平成30年度大1回児童福祉施設連絡協議会意見交換会

久留米市 保育士1名

H30.5/29~6.1 第84回重症障害児(者)療育職員講習会

東京都板橋区 保育士1名

- H30. 5. 8・17 平成 30 年度社会福祉施設研修会 新任職員研修
春日市クローバープラザ 保育士 1 名
- H30. 5. 18 第 13 回支援ネットワーク会議
柳川療育センター 育成員 1 名、保育士 2 名
- H30. 5. 31～6. 1 2018 年度福岡県相談支援従事者初任者研修会
春日市クローバープラザ 育成員 1 名
- H30. 6. 6・20 社会福祉施設役職員研修 基礎研修
春日市クローバープラザ 育成員 1 名
- H30. 6. 13・27 社会福祉施設役職員研修 基礎研修
春日市クローバープラザ 育成員 2 名
- H30. 6. 30～7. 1 平成 30 年度福岡県障がい者スポーツ指導員養成講習会
春日市クローバープラザ 育成員 1 名
- H30. 7. 5～6 福岡県身体障害者施設協議会第 1 回施設長・職員委員会
大牟田市ホテルニューガイア 育成員 2 名
- H30. 7. 9～10 平成 30 年度強度行動障害支援者養成研修【基礎研修】
久留米市教育センター 育成員 1 名
- H30. 7. 19～20 平成 30 年度強度行動障害支援者養成研修【実践研修】
久留米市教育センター 育成員 1 名
- H30. 8. 30～31 平成 30 年度福岡県相談従事者初任者研修会
北九州ウエルとばた 保育士 1 名
- H30. 9. 11 平成 30 年度児童福祉施設新任職員研修会
福岡県教育庁 北筑後教育事務所 保育士 1 名
- H30. 9. 13～14 第 63 回西日本肢体不自由児施設運営研究会
愛媛県松山市 育成員 1 名、保育士 1 名
- H30. 9. 20～21 平成 30 年度第 37 回九州身体障害児者施設研究大会
長崎県長崎市 育成員 1 名
- H30. 11. 1・6 2018 年度福岡県障がい者虐待防止権利擁護指導者養成研修
春日市クローバーホール 育成員 1 名
- H30. 11. 8～9 平成 30 年度第 38 回全民連中堅職員研修会
山口県湯田温泉 保育士 1 名
- H30. 11. 13～16 第 54 回肢体不自由児施設・重症障害児者療育職員講習会
東京都板橋区心身障害児総合医療療育センター 保育士 1 名
- H30. 11. 13 2018 年度福岡県サービス管理責任者研修（後期）
春日クローバープラザ 育成員 1 名
- H30. 12. 5～7 重症心身障害児者施設職員研修会「保育士児童指導員コース」

- 大阪市山西福祉記念会館 保育士 1 名
- H30. 12. 7 平成 30 年度第 3 回児童福祉施設連絡協議会意見交換会
久留米市 育成員 1 名、保育士 1 名
- H30. 12. 7 福岡県身体障害者施設協議会平成 30 年度第 2 回研修委員会
春日クローバープラザ 育成員 1 名
- H30. 12. 14 久留米児童相談所管内児童交流交歓大会実行委員会反省会
久留米市久留米児童相談所 育成員 1 名
- H31. 1. 23～24 2018 年度福岡県サービス管理責任者研修（後期）
春日クローバープラザ 育成員 1 名
- H31. 1. 29～30 2018 年度福岡県児童発達支援管理責任者研修（後期）
春日市クローバープラザ 保育士 1 名
- H31. 2. 7 平成 30 年度福岡県障がい福祉サービス事業所等支援員研修
福岡市大博多ビル 保育士 1 名
- H31. 3. 12 福岡県身体障害者施設協議会平成 30 年度第 2 回施設長・職員研修会
春日市クローバープラザ 育成員 2 名

《概況》

平成 30 年度は心理療育部として、一般生活援助業務との一部兼務で心理的援助活動を業務指針に基づき展開した。主な内容は、利用者の日常生活の観察、触れ合い並びに治療・検査場面を通じて心理的関係性をつくることである。また重症児・者に対しては、他領域との連携のもと心理的側面から、適正ポジショニング活動やタッチケア、「いい表情づくり」活動などを通じ、個としての尊重を基本として業務を行った。

地域支援としては、子どもの発達や母親の子育てなどの心理相談の要請に対し、市町村と連携・協力しながら、子育て・家族関係・就園・就学、そして発達についてなど心理支援を実施した。それに伴い、外来診察及びコアラ園利用案内さらに来所にての心理相談や外来での心理療育につなげるケースも増加した。保育所等への支援については、定期的な巡回相談が始まった地域においては、それ以前に比べ、小学校への就学委員会での保護者様と学校のよりよい共通理解が図られ、就学案内がスムーズになったとの好評価も得ている。さらに、その他の地域においても、個々の対象児ごとに必要に応じて療育場面の見学や関わり方の方向性などそれぞれの保育所等との情報交換もニーズに応じて行った。

《心理療育・相談援助の内容》

「落ち着いているか」「安心しているか」を治療の基点として「人と関われるか」「関わりは適当か」更に「楽しんでいるか」「喜んでいるか」との相互機能関係により個々のニーズに応じ、絵画表現療法、箱庭療法、抱っこ法・タッチケア、遊戯療法・行動療法、カウンセリング、感覚統合法、知育活動、音楽療法などを施行した。心理的関わりの中で、寄りかけられる存在として、日常の触れ合い、遊び、介護、その他を通じての信頼関係作りが主要テーマである。

地域における相談活動においては、母子並行面接を基本として、限られた時間の中でいかに波長を合わせ、行動・状況の背景理解を図り、悩み・心配・不安に寄り添い、より具体的対応や共感的援助をしていけるかを目標に、心理判定並びに相談を行った。

【なかよし寮】

- ① 遊びを媒介とした自己表現（投影・情緒解放）
- ② 発達援助＝知育活動（情緒安定を基盤とした認知学習）・感覚運動
- ③ 面談援助 解決→解消（うなずく・聴く・心の汲み取り・共感・発散・個として

の尊重)

- ④ 困った行動（表現として捉える）癖・攻撃・熱発・下痢・身体表現等の理解
- ⑤ 音楽療法
- ⑥ 散歩（寮内・園内・園外）
- ⑦ タッチケア・マッサージ
- ⑧ 知能検査・発達検査
- ⑨ 自由訪室

【おひさま寮・ともだち寮】

- ① 多動・興奮行動への対応 散歩法 「エネルギーの解放」
- ② 腹臥位を基点としたポジショニング（活動協働）
- ③ 面談（心のエントツそうじ・表出能力に応じた受けとめ）
- ④ 音楽療法（集団／個別）
- ⑤ 介護支援
- ⑥ タッチケア、絵本、絵カード、語りかけなど「いい表情づくり」活動
「集団の中での個としての尊重」
- ⑦ 知能検査・発達検査

【児童発達支援センター コアラ園】

- ① 発達支援（個別・集団）
- ② 遊戯療法（感情表現・認知発達・感覚運動調整）
- ③ 音楽療法（集団／個別）
- ④ 母親等へのカウンセリング（子どもの理解～プラス面へのスポットライト）
- ⑤ 行事（計画立案・実施）
- ⑥ 就学・就園（保育園等）相談援助
- ⑦ 知能検査・発達検査

【外来療育】

心理療育部における外来療育は、増加しつつある発達障害（自閉症スペクトラム障害、注意欠如多動性障害、学習障害など）に対する心理的発達支援を行うと共に、心因反応としての神経性習癖（チック、吃音、緘黙など）や、不登校を含む子育て不安などへの精神保健的相談・療育を行った。それらの中に、診察待ち期間の療育・相談、コアラ園の前段階としての外来での個別療育のケースなどを含めた多様な外来療育のニーズに対応させていただいている。

《治療対象児・者》

日常の行動観察、生育歴、身体障害の程度、家庭環境などから、精神的サポートの必要性と質に応じて、下記人数に対し、定期的あるいは不定期的に行った。心理的対応の特殊性から、臨時・緊急の場合も多く、他職種との連携をもとに対応を行った。

※短期利用者を含む 単位：名

	なかよし	おひさま	ともだち	コアラ	計
治療対象児・者 ※	46	40	45	104	235

《音楽療法対象児・者》

入所においては表出能力に困難のある利用者を優先的に、必要性に応じて下記人数に対して行った。コアラ園・外来においては、医師の指示または保護者からの要望に応じて対応を行った。

単位：名

	なかよし	おひさま	ともだち	コアラ	外 来	計
音楽療法対象児・者	19	28	14	11	6	78

《心理検査》

知能検査と発達検査は定期的に行い、その他の検査、評価は必要に応じて行った。実施数は下記の通りである。

単位：名

	なかよし	おひさま	ともだち	コアラ	外 来	地 域
発達検査	4	5	0	1	3	4
知能検査	4	0	0	15	38	17
性格検査	0	0	0	0	0	0

《地域支援》

地域支援事業は市町村の母子保健活動と連携して展開してきたが、保育所等とも情報交換・共通理解に努め、相互の子ども支援に有効に機能した。今後も地域の信頼に適確に応えていく事業展開を目指したい。

朝倉市	1歳6ヵ月児健診		計12回 対象者357名うち相談者36名 別件10名		
	3歳児健診		計12回 対象者359名うち相談者60名 別件7名		
	朝倉・杷木健診		計6回 対象者78名うち相談者10名 別件3名		
	にこにこども相談		計8回 相談者30名		
うきは市	1歳6ヵ月児健診		計6回 対象者193名うち相談者15名		
	3歳児健診		計6回 対象者249名うち相談者20名		
	すくすく発達相談		計12回 24名		
	保育所等巡回相談		計40回		
久留米市	田主丸町	1歳6ヵ月児健診		計4回 対象者70名うち相談者8名	
		3歳児健診		計4回 対象者91名うち相談者16名	
		ママパパ気持ち楽々相談		計2回 相談者4名	
	北野町	1歳6ヵ月児健診		計4回 対象者96名うち相談者15名	
		3歳児健診		計4回 対象者84名うち相談者15名	
		ママパパ気持ち楽々相談		計2回 相談者5名	
	三潴町	1歳6ヵ月児健診		計4回 対象者74名うち相談者21名	
		3歳児健診		計4回 対象者96名うち相談者26名	
		ママパパ気持ち楽々相談		計2回 相談者3名	
	城島町	1歳6ヵ月児健診		計4回 対象者68名うち相談者11名	
		3歳児健診		計4回 対象者78名うち相談者22名	
		ママパパ気持ち楽々相談		計1回 相談者3名	
	南部	1歳6ヵ月児健診		計6回 対象者185名うち相談者40名	
		3歳児健診		計6回 対象者183名うち相談者42名	
		ママパパ気持ち楽々相談		計2回 相談者6名	
北筑後保健福祉環境事務所		乳幼児発達診査事業		計4回 相談者10名	
その他の相談対応		電話		15件	
		メール		0件	
		来所		28件	
		訪問		0件	
診察案内※1		86名 (再診・特児39名含む)			
コアラ園心理療育対象児数		16名	コアラ園心理療育回数		433回
外来利用児総数		74名	外来心理療育回数		1,782回
情報提供書作成数※2				171件	

※1：年度内に診察に至った方のみ（年度内に診察の予約をした方は省く）を計上。
（診察予約は、すでに令和2年2月まで入っている状況）

- ※2 : ①診察に案内した対象児の発達状況や経過を記入した医師への情報提供書。
②保護者への心理判定報告書。
③就学に向けて、就学委員会への（保護者を通して）情報提供書。
④それぞれの寮への心理判定報告書。

<出張関係>

- ・平成 30（2018）年度 発達障害医学セミナー
発達障害の最新の科学的知見と実地臨床（9月8日～9日）

《概況》

医療療育部門における訓練は、すべて医師の処方に基づき個別で実施し、診療報酬は脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）および運動器リハビリテーション料（Ⅰ）で算定請求した。入所部門において6月、9月、12月、3月、リハビリテーション総合実施計画書を作成した。計画書の説明や交付手順は郵送形式とし、返信用ハガキで同意の返事があった方について、リハビリテーション総合計画評価料を算定した。

コアラ・外来部門は、土曜日の利用者様など診察の機会そのものが取れない方もいるため、リハビリテーション総合実施計画書の説明をセラピストが行い、その内容を主治医に確認していただき交付した。

毎月第2火曜日に医師、看護師、保育士、心理士、栄養士および訓練部（PT・OT・ST）のスタッフが出席して、リハビリテーションカンファレンスを開いている。感染症の影響で9月・1月が中止となり全10回実施した。内容としては、個別面談で希望外出の要望が多く聞かれたため、おひさま寮をモデルに注入者の外出を計画し実施した。現在、外出の時間・場所などのパンフレットを作成中である。

訓練は、利用者様の潜在能力や可能性ならびにモチベーションなど多方面から対象児（者）のニーズを見極め、個別に計画を立てて行なうものである。特に、乳幼児期を担当するスタッフは、成長や発達全体を深く理解し、幅広く支援する能力が必要である。そこで、児童発達支援センター契約者に対しては、発達全体の手助けおよび保護者様の指導を目的に、PT・OT・STが密に保護者様とコミュニケーションがとれるよう集団でのリハビリテーションではなく、個別のリハビリテーションで対応した。

関節の拘縮や変形、異常筋緊張、呼吸問題など生活全般に問題を抱えている重度の障がい児（者）に対しては、独自の姿勢保持具を作製し活用するとともに、他部署の職員に対しても姿勢管理や移動・移乗・食事介助などの方法について、インシアチブを取りアプローチすることで利用者様のQOLの向上につなげた。さらに摂食・嚥下機能に問題のある利用者様に対しては、嚥下食を導入し、安全で楽しい食事時間の提供を行っている。

各部門の報告は以下に示す。

● 理学療法

【なかよし寮】

対象46名に対し、理学療法士が2～3名で個別に実施し、利用者様1名当たりの

訓練回数は週1～3回、年間訓練実施単位数は8,140単位であった。

対象児（者）を疾患別にみると脳性麻痺が最も多く、その他は脊椎破裂後遺症、レット症候群、頭部外傷後遺症、筋ジストロフィー、マーシャルスミス症候群、精神運動遅滞などであり、他の疾患と重複する例が多い。

訓練内容は、個々のニーズやレベルに合わせた目標を設定し、基本動作訓練、移動能力訓練、筋力増強・持久力訓練、関節可動域訓練、ADL訓練などの運動療法を実施した。今年度も何度か感染症が流行したことから、定期的な実施が行えないこともあったが、概ね利用者様の身体能力に大きな変化はなく経過している。

学童児への訓練としては、身体機能向上や移動動作獲得に向けた訓練や卒園後を想定した訓練（主にADL訓練）を提供することで、社会参加・自立に向けて意識を高め、卒園後の生活に順応できやすいように努めた。

学卒者への訓練は、身体機能の維持向上を図ると共に屋外への外出なども必要に応じて行い、利用者様のニーズに応えられるよう努めた。また、各利用者様に車椅子や装具、姿勢保持器具などを随時検討、作製し環境面からの援助も行っている。

今後は、他職種や特別支援学校とより連携を図ることでニーズや問題点を的確につかみ、現状に合ったより良い訓練・療育を行なうよう心掛ける。

【おひさま寮】

対象40名に対し理学療法士2名で実施。年間訓練実施単位数は、5,136単位であった。

対象児（者）は、重度の運動機能障がいおよび重度の知的障がいを重複している人が多い。加齢に伴う身体機能面の低下や筋緊張亢進など様々な原因により、非対称姿勢をとることが多く、変形・拘縮の要因となっている。また、日常生活は全介助の利用者様が殆どであり、人工呼吸器や気管切開・胃瘻の方が増え、日常のリスク管理は非常に重要となっている。

実施訓練内容としては、

- ・「変形・拘縮の予防」に対して関節可動域訓練、マッサージ、リラクゼーション、ポジショニングを利用者様に応じて実施している。
- ・「人工呼吸器や気管切開の利用者様」に対して排痰（スクイーピング）や呼吸介助、適切な姿勢ケアを行うための器具作製や実施計画の提案を行った。
- ・「移動や姿勢変換など基本動作が可能な利用者様」には寝返りや四つ這い、座位保持、介助歩行といった積極的な動作促進による現能力の維持、向上を行った。
- ・「人工呼吸器・感染症対応の利用者様への生活空間狭小化の改善」に対しては、月に1回の頻度で居室外活動（スノーブレン活動）、離床を促すための積極的な車椅子への移乗などを実施した。

・「車椅子や排痰を促すための各肢位用のクッション、ベッド上での姿勢ケア用クッションなどの定期的な見直し・検討」については、おひさま寮で平成30年度新規車椅子作製台数は4台、修理や部分的な改造はその都度実施しており利用者様が快適に過ごせるように努めている。クッション関係も基本的にその都度作成や修理を行うが、他部署と共同して姿勢ケアの提案から24時間の姿勢管理計画、実施に至るまで行ったものは5例以上あった。

上記以外のものでは個別支援計画を通じてではあるが、人工呼吸器利用者様を特別支援学校の担当教諭と協力して授業の中にベッドからの離床、居室外への活動を組み込むということができた。

【ともだち寮】

対象46名に対し理学療法士3名(内1名は外来・コアラ園と兼任)で行い、年間訓練実施単位数は7,842単位であった。今年度においては感染症が拡大、長期化し、各利用者様ともに定期的に訓練を実施が行えないこともあった。

利用者様の疾病状況は脳性麻痺(および関連疾病の重複障がい者含む)71%、その他、化膿性髄膜炎後遺症、脳損傷後遺症、脳炎後遺症、視力障がい29%となっている。

壮年期・中年期の利用者様が多く、年々、四肢の関節可動域や筋力などの身体機能が低下する傾向にある。今年度は利用者様の数名が深部静脈血栓症や中等度～重度の浮腫の発症、その他昨年度と同様に過ごされていた中での褥創・皮膚炎の発生(皮膚などの状態が低下した上での圧迫による)など、姿勢管理の重要性がより高まる1年であった。

リハビリテーションの内容は四肢の関節可動域運動やリラクゼーション、歩行や車椅子駆動などの自力移動訓練を中心に行ない、ご自身での姿勢管理が困難な利用者様に対しては車椅子上・ベッド上でのポジショニングを再検討し、それぞれの身体に適合するクッション作製や、褥瘡予防用具などの用意および車椅子の調整などに取り組んだ。

5月に開催された身体障害者スポーツ大会においては、ともだち寮利用者様3名が出場された。参加者は大会の数ヵ月～半年前から練習を開始され、生き生きとした表情で練習に取り組まれていた。スポーツ大会での社会参加を体験し、他施設の利用者様とともに汗を流し競技を競い、日常ではなかなか経験できないような充実感を得られようであった。

● 作業療法

【なかよし寮】

対象 46 名に対して、なかよし寮担当作業療法士 2～3 名が週 1～2 回個別で行い、年間訓練実施単位数は 6,640 単位であった。

対象児（者）の疾患は、脳性麻痺などの中枢性運動障がいを中心として、重度の運動機能障がいおよび重度の知的障がいの重複、精神運動遅滞、ダウン症候群、広汎性発達障がいなどである。

学童児の訓練は、身体機能面（特に上肢機能）の向上および維持を目的に、関節可動域訓練やリラクゼーション、玩具や感覚遊び、作業活動を媒介としたアプローチを行なった。また、卒園後の生活なども想定して、身の回りの動作（衣類の整理など）の向上を目標に周辺環境の調整も行った。

学卒者の訓練は、身体機能面（特に上肢機能）の維持を目的に、関節可動域訓練やリラクゼーション、感覚遊び、作業活動を媒体としたアプローチを行った。また、日常生活活動の維持を目標に、洗濯動作などにおける環境調整も行った。

3 寮合同のグループ活動では、それぞれ特徴的な障がいがあるにも関わらずゲームやカラオケ、風船バレーや感覚遊びなどを行い、楽しみを共有・共感できる場として活用した。しかし、感染症の関係もあって、実施できない時期も多くみられた。

【おひさま寮】

対象 40 名に対し、作業療法士 1～3 名（6 月より 1 名、2 月より 1 名配属）が週 1～2 回個別で実施し、年間訓練実施単位数は 4,820 単位であった。対象児（者）は、重度の運動機能障がいや重度の知的障がいを重複した人が多く、視力障がいや嚥下障がい、加齢にともなう身体機能の低下や変形・拘縮など、それぞれ多岐多様な問題を抱えており症状も重度化している。また、人工呼吸器での呼吸管理や胃瘻の方が増えており、日常生活は全介助を要しリスク管理は非常に重要である。

訓練内容としては、身体機能の維持（関節可動域訓練、リラクゼーションなど）、日常生活動作（以下 ADL）の改善、精神面の安定を目的に集団活動、感覚訓練（トランポリン、スイングなど）を行った。また、寮内での生活が中心となっている利用者様に対し、他寮や屋外への散歩を行うことで、環境変化による感覚的な刺激を経験し、四季それぞれの季節感を感じてもらった。特に人工呼吸器、感染症の利用者様は、居室から出る機会が少ない現状であったため、毎週合同で音楽療法士と一緒に入ってもらい居室でも楽しめる環境を設定した。また、居室から出る機会を増やすため、PT・ST と合同で月に 1 回だけであったが、別の居室でのスヌーズレンや屋外への散歩、ドライブ外出を実施した。

その他の活動として、毎月その時期にちなんだ壁絵と感染症の部屋の利用者様の方々にも視覚から楽しんでもらえるように製作物を飾った。壁絵では、セラピストが介助しながらできる範囲で作業に参加してもらい、全員で一つの作品を作り上げ、

居室や保護者様との面会場所に展示した。

3 寮合同での集団活動では、感覚遊びやゲームをはじめ、園芸活動や水遊びなどの季節を感じることができる活動を行った。その中でも園芸活動では、今まで体験したことがない収穫をすることができ、日頃見みられない表情や反応が見られた。

【ともだち寮】

対象 46 名に対し、作業療法士 2 名で週 1～2 回実施し、年間訓練実施単位数は 6,724 位であった。対象児（者）の疾患は、脳性麻痺や水頭症、化膿性髄膜炎後遺症などの中枢神経系の異常による運動障がいおよび知的障がい、染色体異常などであった。年々、加齢に伴う身体機能の低下や変形・拘縮もあり、日常生活動作（以下 ADL）の低下が見られている。

訓練内容としては、身体機能や ADL 動作、認知機能の維持および向上、情緒の安定やリラクセーションを目的に行なった。その手段として関節可動域訓練や ADL 訓練（食事、更衣）、感覚遊び、製作活動、集団活動などを用いた。

集団活動に関しては、保育士と共同して少人数のグループ活動を行った。内容は保育士が発案し、セラピストはフォローを行う形であったが、屋内外散歩や足湯、オイルマッサージなど多岐にわたった活動を行い、他職種との交流も深めることができた。

例年実施している 3 寮合同のグループ活動では、感染症などで中止になる時期もみられたが、屋外散歩や水遊びなど季節に応じた感覚遊びや製作活動など様々な活動を行うことができた。また、園芸活動では、実際に作物を育てることにより成長の様子を観察したり、収穫を体験するなど利用者様同士の交流や楽しみを共有することができた。

個別活動としては、製作活動として、ちぎり絵や水彩画などの他に、一般道で電動車椅子を利用した買い物訓練や音楽療法士が行っている活動と一緒に参加し、個々のニーズに合わせた様々な活動を行い、利用者様の楽しみや達成感、他者からの称賛、自己実現につなげてきた。

● 言語聴覚療法

【なかよし寮】

対象 46 名に対し、言語聴覚士が 2 名で個別に実施し、利用者様 1 名当たりの訓練回数は週 1～3 回、年間訓練実施単位数は 6,061 単位であった。対象児（者）は小学 5 年生から 50 歳台までと幅広く、対象疾患・障がいは、脳性麻痺などの中枢性運動障がいを中心に、他に聴覚障がい、精神運動遅滞、ダウン症候群、自閉症スペクトラム障がい、先天性緊張性ジストロフィー、重度知的障がい、言語発達障がい、構

音障がい、発声障がい、コミュニケーション障がい、摂食嚥下機能障がいなどであった。

来年度より開始される新食形態への移行の前段階として、利用者様一人ひとりの口腔機能の詳細な評価を改めて行い、適する新食形態の選択を行なった。それに伴い、利用者様本人に加え、希望される保護者様、後見人に対して、それぞれの口腔機能と新食形態に関する説明を行った。

・学童期

言語、コミュニケーション、聴こえ、並びに摂食嚥下機能についての全般的なリハビリテーションを実施した。

重度の知的発達の遅れが見られる利用者様に対しては、主にスキンシップ、歌遊び、音遊び、楽器遊び、絵本の読み聞かせなど、リラックスした雰囲気の中で、聴覚、視覚、触覚などのさまざまな感覚を用いた関わりを行い、楽しみながら感覚・認知・コミュニケーション能力、理解面・表現力（表現方法）の発達を促した。

言語発達の遅れが見られる利用者様に対しては、絵本、ままごと、歌遊び、描画といった、遊びを中心とした学習の他に、文章での表出課題ややりとり課題、絵カード課題やマッチング課題、かな文字課題や読解課題といった机上課題も行いながら、言語機能とコミュニケーション能力の発達を促した。

また、パソコンを使用した学校での発表資料の作成や、年賀状・手紙などの作成を通じて、社会生活において必要とされるスキルの習得を図った。

発声発語障がいが見られる利用者様に対しては、発声発語器官訓練、構音訓練を行った。

摂食嚥下機能障がいが見られる利用者様に対しては、アイスマッサージやバンゲード法などの筋刺激訓練、リラクゼーション、摂食嚥下機能訓練（直接・間接）、食形態の検討などを行った。

・青年期～中年期

言語、コミュニケーション、聴こえ、並びに摂食嚥下機能についての全般的なリハビリテーションを実施した。

ゲームや創作などを通じたコミュニケーション活動、また屋内外への散歩や、楽しい雰囲気の中での自由会話を通し、他者とのコミュニケーション意欲の向上を図った。また、音声言語によるコミュニケーションが困難な利用者様に対しては、コミュニケーションボード、手話などの代替手段、視覚的手段、非言語的コミュニケーションの支援を行った。

摂食嚥下機能障がいが見られる利用者様に対しては、アイスマッサージやバンゲード法などの筋刺激訓練、リラクゼーション、摂食嚥下機能訓練（直接・間接）、食形態の検討などを行った。

【おひさま寮】

対象 40 名に対し言語聴覚士 2 名で週 1～3 回程度個別に実施した。年間訓練実施単位数は 5,187 単位であった。障害像は脳性麻痺などの身体障がいと知的障がいを併せ持つ重度重複障がいである。

訓練内容は、口腔機能訓練（口腔とその周辺のケアや活性化を含む）、摂食・嚥下訓練、発声発語器官に対しての筋刺激訓練やマッサージ、ストレッチ、リラクゼーション、構音訓練、言語発達を促す訓練、コミュニケーション訓練、音声や音楽を用いた聴覚的な刺激による訓練などを行った。

摂食嚥下に関しては、2019 年 4 月から開始する食形態変更のために、利用者様の摂食嚥下機能の詳細評価を改めて行い、利用者様の機能に適した食形態選択を行なった。一方、給食部と調整を行い利用者様に適した食形態提供の準備を進めた。

また、利用者様ご本人、保護者様、後見人に対して、利用者様の摂食嚥下機能と新食形態に関する説明を行った。

訓練内容としては、摂食・嚥下に関する感覚訓練、筋刺激訓練、マッサージ、ストレッチ、脱感作や味覚学習などの口腔内感覚の改善、食物を直接用いない間接嚥下訓練、摂食・嚥下機能そのものの維持・改善訓練、介助法の改善、食形態の調整、頸部や体幹の座位姿勢の調整、姿勢を安定させ筋緊張を緩和するためのクッションなどの調整、他職種に対して情報の伝達などを行った。これらを通じて摂食・嚥下機能の維持・向上を行い、安心してスムーズに食事ができるための支援を行った。

最重度の心身障がい児（者）に対しては、リラックスした楽しい関わりの中で、心地のよい聴覚的刺激・視覚的刺激や身体的感覚などを充足させるアプローチを通して、心身が満たされ、ゆったりと落ち着くことができるような関わりを持ち、感覚・認知・理解面の成長を促した。また、iPad やパソコンなどの機器を用いて、重度心身障がい児（者）でも楽しみ使用可能な機能を使って効果的に発達を促し生活の充実を目指した。

呼吸器系障がいに対しては、排痰、口腔内清掃やマッサージなどによる口腔内機能の活性化および口腔顔面筋の拘縮予防を行い、呼吸器やその関連する器官の環境を整え、できる限り状態を改善して、穏やかに生活できるよう支援を行った。

【ともだち寮】

対象 31 名に対し言語聴覚士 2 名（11 月より 1 名）で、月に 1～2 回または、週に 1～2 回実施した。年間訓練実施単位数は 3,242 単位であった。

対象者は脳性まひ、精神運動遅滞、てんかんなど様々で、年齢も 10 代から 60 代と幅広い。

摂食・嚥下に関しては、日常の食事場面の中で機能を引き出す訓練、介助法の改

善、姿勢の調整、食形態の調整、使用する食器具の検討などを行った。また、次年度より学園全体の食形態が見直され、新しい食形態の導入が予定されている。そのため、対象者の嚥下機能を改めて評価し、新しい食形態に移行する利用者様を選択し、より安全な食事ができるよう支援を行った。

さらに、経管栄養の利用者様へは口腔機能の維持や唾液の誤嚥による誤嚥性肺炎予防のため、口腔ケアやマッサージ、嚥下反射を促す訓練などを行った。

話すことが難しい利用者様に対しては、AAC(補助代替コミュニケーション)の使用をサポートした。使用する機器はスイッチやテンキーを接続したパソコン、iPad、紙でのコミュニケーションボードなどアナログな物まで様々である。さらに、スイッチを利用して iPad のゲームアプリを楽しんだり、パソコン操作の訓練の一環として、ご家族へメールを送る活動をサポートしたり、インターネットで関心事を検索および動画を見るなどして余暇活動の充実を図った。

音声言語面の訓練としては、構音訓練、会話や発声、唄を歌うことによる発声発語器官の運動による訓練などを行った。

『コアラ園及び外来』

対象 69 名に対し、外来担当理学療法士 2 名を中心に実施し、利用者様 1 名当たりの訓練回数は週 1~2 回あるいは月 2 回、年間訓練実施単位数は 4,562 単位であった。

対象児(者)は、脳血管疾患を原因とする重症心身障がいや肢体不自由児、精神運動発達遅滞、ダウン症候群などの遺伝子疾患、精神運動発達遅滞などであり、1 歳未満の幼児から成人まで、幅広い年代の利用者様に対して訓練を実施した。

以下年代別に取り組みを報告する。

○乳幼児期から学童期

運動発達の促進や座位や立位・歩行などの基本動作能力の獲得を目指し実施した。対象児が興味を持つ玩具や遊具を利用し、寝返り、座位、ハイハイ、歩行といった基本動作能力の向上を図った。その一環として、姿勢保持やホームトレーニング用のクッション・自助具の作製、業者を交えて福祉機器(ウォーカーや装具)の提案を行なった。その結果、筋力などの基礎的な身体機能の向上に伴い、安定した座位・立位などの姿勢保持や、自力移動の獲得につながった。また、身体機能や認知面の向上に合わせて様々な玩具や遊具を訓練に取り入れることで、興味の幅が広がり、自発性の向上や意思表示や理解などコミュニケーションの向上がみられた。

○学童期から青年期

運動機能の向上を主として、二次障がいの予防、介助者の介助量軽減など、個々のニーズに合わせて目標を設定し、訓練を実施した。ご本人や保護者様からの要望や、保育園や学校の先生からの情報に基づき、動作の練習に限らず、道具や場所な

どの環境調整やホームトレーニングの提案も行った。

重症心身障がい児（者）においては、様々な姿勢をとっていただき、関節可動域の維持・向上や筋の過緊張の緩和を目的として、関節可動域訓練やストレッチなどの徒手療法あるいはホットパックなどの物理療法を実施した。また、必要に応じて姿勢管理のためのクッションを作製し、家庭や地域施設で姿勢ケアが実施できるよう働きかけた。

○耳納学園の利用者

運動能力の維持のため定期的なリハビリテーションを実施した。ADL 面を中心に取り組み、生活に必要な動作を取り入れ練習した。

● 作業療法

対象 196 名（契約利用者 78 名、外来利用者 118 名）に対し、作業療法士 2 名を中心に訓練を実施した。利用者様 1 名当たりの訓練回数は月 1～5 回、年間訓練実施単位数は 6,949 単位であった。

対象児（者）は発達障がい（自閉症スペクトラム障がい、注意欠如・多動症）、脳性麻痺、神経筋疾患、さらに精神運動発達遅滞など多岐にわたり、対象者も年々増加傾向である。

訓練内容は、トランポリンやボールプール、スイングなどの感覚遊具遊び、縄跳びや鉄棒などの運動遊び、パズルや運筆活動などの机上活動、ままごとなどのやりとり遊びを行なった。個々の子どもに合わせた発達課題（運動面・日常生活技能・学習基礎能力）に取り組む中での作業遂行能力の向上や子ども自身の気付き、成功体験に基づく自己評価の向上など、必要性に応じた取り組みを実施した。また、日常生活で配慮すべき点や介助方法などはもちろんのこと、保護者様に対し我々スタッフも良き理解者としての立場を大切にしながら話を聞き、助言・アドバイスを行った。

訓練場面以外でも日常生活で主となる保育園・幼稚園・学校の先生方や放課後等デイサービスなどの他事業所との情報の交換および共有を行ない、お互いの療育に活かせるように努めた。小学校就学を控え通園部門を卒園される児童に対しては、進路に関わる各関係機関に情報提供を行い、卒園後の支援についての提案や意見交換にも取り組んだ。

● 言語聴覚療法

対象 213 名の外来利用者様に対し、週 1～2 回、1 回 2 単位（40 分）を基本として、言語聴覚士 3 名を中心に訓練を実施した。年間訓練実施単位数は 8,299 単位であった。

自閉症スペクトラム障がいを中心とする利用者様の増加がみられるものの、注意欠如・多動障がい、学習障がい、言語発達障がい、構音障がい、脳性麻痺、摂食・嚥下障がい、難聴、吃音などと、対象児(者)の障がい像は多岐に渡る。また、年齢も就学前の児童が特に多いが、就学後から成人に至るまで幅広く訓練の実施を行った。

訓練において、観察や情報収集を元に各種検査を選択・実施し、それらの評価を統合した上で訓練プログラムの立案・実施を行った。また、利用者様の成長に伴って、随時訓練プログラムの再検討を行った。

訓練内容は、絵カード課題やマッチング課題といった机上課題、玩具や絵本などを用いた遊びの中で、言語・コミュニケーション能力の向上を促していく遊び課題などを、利用者様一人ひとりの状態に応じて随時選択し実施した。

保護者様との情報交換・情報提供を密に行いながら、言語面・コミュニケーション面の能力向上を目指し、日常場面における日々の変化の聴取や、保護者様に対する対象児(者)との接し方の提案、定期フォローの実施、必要に応じて環境調整の提案や、構音訓練の宿題といった日常場面での課題の提供などを実施し、日常場面においても対象児(者)の成長につながるよう努めた。また、希望・必要に応じて保育園・幼稚園・学校の先生方との情報交換も積極的に行い、より利用者様に適した訓練プログラムの立案・実施に努めた。

<地域支援事業等>

1. 肢体不自由児早期訓練事業（県肢体不自由児協会委託、飯塚市）
医師 1名・・・2回 PT、OT 各1名・・・22回 ST 1名・・・12回
2. 乳幼児発達診査（県環境福祉事務所委託、朝倉市）
ST 1名・・・4回
3. 発達相談（朝倉市）
ST 1名・・・8回

<実習生の受入状況>

【理学療法士】

平成30年4月9日～6月16日 麻生リハビリテーション大学校 1名
7月2日～9月8日 麻生リハビリテーション大学校 1名
7月23日～9月22日 熊本総合医療リハビリテーション学院 1名

【作業療法士】

平成30年7月2日～9月8日 麻生リハビリテーション大学校 1名
施設見学
平成30年6月21日 麻生リハビリテーション大学校 昼間部 36名

平成 30 年 6 月 28 日	麻生リハビリテーション大学校 夜間部	20 名
平成 30 年 7 月 12 日	久留米リハビリテーション学院	4 名

【言語聴覚士】

平成 30 年 5 月 21 日 ~ 6 月 30 日	柳川リハビリテーション学院	1 名
7 月 2 日 ~ 8 月 10 日	メディカルカレッジ青照館	1 名
7 月 17 日 ~ 8 月 10 日	長崎リハビリテーション学院	1 名

《概況》

地域事業部は、福祉や療育など何らかの支援を希望される地域の方々と、当法人全事業所を繋ぐ役割として機能した。地域の方々の多様な問い合わせに対して、法人内事業所の機能紹介や利用手続きの説明、スムーズな利用に繋がるために相談者と事業所間の連携・調整を図った。

対象地域は、久留米市、うきは市、朝倉市及びその近隣地域としているが、対象地域以外からの問い合わせも多数あった。

＜相談対応事業＞

地域事業部が受け付けた相談や問い合わせ件数は、次の表の通りである。多くはご本人様（ご家族）からの問い合わせであり、その他に相談支援事業所や行政、医療機関 SW からの問い合わせである。また、相談から実際にゆうかり学園事業所のサービスに繋がった件数も報告する。

相談内容	相談件数	利用につながった件数
① 施設入所支援について	36	6
② 短期入所・日中一時支援について	30	4
③ 児童発達支援関係について	25	7
④ 外来療育・リハの利用について	64	25
⑤ 見学依頼など	17	14
⑥ その他の相談	34	4

- ① 施設入所については、36 件の問い合わせに対して法人全体で 6 名の入所支援につながっている。問い合わせの大多数が、人工呼吸器使用の重症の方や介護保険が適応されるような高齢の方が多い。療養介護や生活介護への入所は、相談・見学後自らやめられたり、重症者への対応が困難のことでお断りしたケースもあった。
- ② 短期入所や日中一時支援についての問い合わせも、重症や多動の方、衝動性のある方が多く、在宅での支援の難しい現実が感じとれる。また、呼吸管理の必要な方など重症児（者）の利用が困難な状態であり、今後の課題といえる。
- ③ 児童発達支援については、利用を希望され契約まで至ったケースは 7 例である。受付後診察までかなり時間を要し、診察が次年度まで伸びているため、このような数字になっている。療育現場ではお試し利用やつなぎ療育などで少しでも早く療育につなげるよう工夫している。
- ④ 外来療育・リハについては、相談 64 件中 25 件が診察を経て訓練部や心理療育部

の療育・リハにつなげている。外来療育も 30 年度中に受け付けた方が次年度の診察になっているためこのような数字になっている。

- ⑤ 見学依頼については、ほぼすべての依頼に対応できたが、台風 24 号の影響を考慮して中止になったケースもあった。感染症が心配される 11 月から 2 月の間は、見学の延期をお願いしたり見学ルートを制限して対応した。
- ⑥ その他の相談は、法人内事業所の受け入れ状況や利用手続き、計画相談、実習依頼、偏食の問題、セカンドオピニオンの内容、診断依頼の相談、DV に関する相談など、多岐にわたった。

<受診予約調整業務>

相談受け付けの後利用や診察を希望されたケースについては、外来や関係部署と連携をとりながら受診日予約及び事前の見学・説明等を行い、利用者にとって少しでも安心してスムーズな利用開始につなげるよう心掛けた。相談から受診（利用）までの期間が長期におよぶ点が課題である。

<短期入所予約調整業務>

ゆうかり医療療育センターにおける短期入所及び日中一時預かりの予約受付と調整業務を地域事業部で行い、スムーズな利用につなげた。毎回、前月の 10 日までに利用予約を受け付け、15 日までの間に調整会議を開き利用日を決定した。冬場は、感染症等の影響によりお断りするケースもあった。

(年間利用延べ人数)

	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
なかよし寮	宿泊	2	2	4	2	11	4	2	2	8	11	11	10
	日中	12	15	13	8	8	7	2	5	5	6	5	8
おひさま寮	宿泊	21	16	12	20	16	5	22	18	7	9	8	8
	日中	0	7	7	9	5	4	5	0	0	0	0	1
ともだち寮	宿泊	13	15	17	19	14	16	19	16	10	11	12	10
	日中	5	6	8	10	2	8	6	5	5	3	3	3

<施設見学案内>

平成 30 年度中に地域事業部が受け付け案内した外部の組織・団体は、12 団体計 177 名であった。

団体の内訳は県議会議員から始まり近隣地域の行政・福祉関係団体の方々であり、ゆうかり学園の概要や業務内容を知りたいという目的のほか所属団体の研修の一環としたものもあった。10 月 1 日に予定されていた遠賀町広渡区ネットワーク委員会 20 名の見学は、台風 24 号の影響を考慮して中止になった。

見学案内の方法は、法人の沿革や施設の概要を説明し学園紹介 DVD を視聴後、本

館棟、ゆうかり医療療育センター3 寮、地域支援棟・コアラ園、調理環境、千歳療護園および第二千歳療護園、耳納学園の順で巡回・案内した。見学案内の時間は概ね2時間ほどを要するが、時間の制限がある場合や冬場の感染症発生時は、案内区域を限定して対応した。

見学案内の詳細は、以下の通りである。

月	日	曜日	時間	団体名	人数
5	9	水	9:40~11:00	福岡県議会厚生労働環境委員会会員	18
5	16	水	10:00~12:00	遠賀町民生委員児童委員協議会会員	35
6	5	火	10:00~11:00	福岡教育大学教職大学院院生	1
6	15	金	14:00~16:00	福岡市東区第1障がい者基幹相談支援センター	5
7	12	木	10:00~12:00	大分県日田市支援学校保護者及び教職員	16
9	19	木	10:00~11:00	カトレア会会員	8
10	10	水	10:00~11:45	ふれあい大橋の会会員	22
10	12	金	10:00~11:45	小郡特別支援学校生徒、保護者、職員	8
10	22	月	10:00~12:00	社会福祉法人拓く相談支援専門員、実習生	4
10	25	木	14:00~15:30	日田市療育支援関係担当職員	15
10	26	金	14:00~15:30	日田市療育支援関係担当職員	15
10	29	月	10:00~12:00	春日市民生委員児童委員会連合協議会会員	20
11	7	水	10:00~11:30	佐賀整肢学園こども発達医療センター新採用職員	10

<出張関係>

- 5月23日 久留米市同和問題研修推進委員会…上原
- 7月25日 福岡県短期入所説明会…上原
- 8月28日 企業経営者人権啓発セミナー…上原
- 9月20,21日 九州身体障害児者施設研究大会…上原
- 3月22日 社会福祉法人経営者セミナー…上原

<その他>

- 久留米市障害者基幹相談支援センター報告・研修会・勉強会…3回
- 久留米市ライフレスキュー事業連絡会・作業…5回
- うきは市要保護児童対策地域協議会実務者会議…4回
- うきは市地域障害者協議会（計画相談部会等含む）…7回

給食部（中央給食）

給食部理念：栄養管理・健康管理に努め、真心のこもった調理で食の喜び、大切さを伝える。

(1) 区分別熱量

ゆうかり医療療育センター、耳納学園、千歳療護園の区分別熱量に差があるので、副食の量をそろえ、主食の量で調整している。

(単位 Kcal)

	ゆうかり	千歳	耳納	
			男	女
中			2,130	
A	2,400	1,850		
B	2,000	1,550	1,740	1,590
C	1,500	1,250		1,450
D	1,250			
E	1,050			

(2) 行事食

平成 30 年

- 4/12 千歳療護園開園記念日 外注弁当、吸い物、ケーキ
- 4/24 耳納学園開園記念日 焼きそば、お好み焼き
- 5/27 ゆうかり三寮合同レクリエーション
弁当（ゆかり飯、牛肉の照り焼き、人参含め、ブロッコリー、甘酢和クリームコロッケ、ミカン缶）
- 6/21 耳納学園夕食会 ステーキ
- 7/21 盆踊り大会
カレーライス、バナナ
模擬店（焼き鳥、たこ焼き、焼きそば、綿菓子、ジュース）
- 8/11 耳納学園一日レクリエーション カレーライス、サラダ、アイス
- 8/9 第二千歳療護園開園記念行事 外注弁当、ケーキ、飲み物
- 8/29 なかよし寮お楽しみ会
ハンバーグ、ホーレンソティー、粉ふき芋、中華風サラダ
果物盛り合わせ（パイナップル、ラズベリー、キウイ、オレンジ、リンゴ
桃缶、ミカン缶、デラウェア、チェリー缶）
- 8/30 千歳納涼祭 バーベキュー、焼きそば、野菜サラダ、おにぎり
- 9/19 ともだち寮お楽しみ会
ステーキ、コーンソティー、粉ふき芋、甘酢和デザート盛り合わせ

(プリン、ケーキ、ゼリー、バナナチョコ、キウイ)

- 9/20 耳納学園夕食会 皿うどん、わかめスープ、果物(梨、キウイ)
- 10/16 ゆうかり学園運動会 耳納・外注弁当、
ゆうかり・千歳療護園弁当
御飯、唐揚げ、かき揚げ、エビとがんもの煮物、焼き魚、卵焼き
千切り含め、ポテトサラダ、キャベツソテー、いちごゼリー
- 11/ 3 特別支援学校文化祭 弁当
御飯、焼き魚、シュウマイ、卵焼き、チキンナゲット、マカロニサラダ
トマトゼリー、サラダ菜)
- 11/22 耳納学園 夕食会 しゃぶしゃぶ、雑炊、果物(みかん、苺、キウイ)
- 12/13 千歳療護園浮羽消防署指導避難訓練、餅つき慰問
餅(おろし餅、あん餅) ぜんざい、おにぎり
- 12/23 ゆうかり医療療育センター クリスマス会
チキン盛り合わせ(唐揚げ、フライドポテト、ウインナー)
ステーキ、ハンバーグ、ポテトサラダ
ナポリタン、蜜おさつ、ロールサンド、たこ焼き
フルーツ盛り合わせ、ケーキ盛り合わせ
いなり寿司、おにぎり、卵巻きずし
(なかよし寮、ともだち寮)
茶わん蒸し、グラタン、白ご飯(おひさま寮)
- 12/23 千歳療護園忘年会
ロブスター、唐揚げ、焼き肉、スコッチエッグ、揚げたこ焼き
ポテトサラダ、ナポリタン
おにぎり、いなりずし、卵巻きずし、納豆巻
おつまみ、ケーキ盛り合わせ、飲み物
- 12/23 耳納学園忘年会、餅つき(餡子、黄粉、おろし、醤油)
唐揚げ、フライドポテト、ウインナー、サンドイッチ、ステーキ
ハンバーグ、ポテトサラダ、ナポリタン、蜜おさつ、たこ焼き
カニの爪
フルーツ・ケーキ盛り合わせ

平成 31 年

1/ 1 おせち料理 (昼)

がめ煮、干支かまぼこ、昆布巻、エビのつや煮、伊達巻、紅白なます
寿羊羹、魚の黄身焼き、あけぼの巻き、数の子、苺、牛肉の八幡巻き

1/ 7 朝 七草の味噌汁

昼 七草かゆ (千歳)

- 1/29 耳納学園一日レクリエーション (喫茶)
ロールケーキ、飲み物
- 2/3 耳納 節分 巻きずし、トンカツ、みそ汁
- 2/14 耳納学園一日レクリエーション ラーメン、いなり
- 3/14 耳納学園夕食会 カレーうどん、サラダ

(3) 研修関係

- | | | | |
|---------|------|------------------|--------|
| 平成 30 年 | 6 月 | 特定給食施設等研修会 | (久留米市) |
| | 8 月 | 第 42 回身体障害者施設協議会 | (大阪市) |
| | 8 月 | 病院立ち入り検査説明会 | (久留米市) |
| | 9 月 | 苦情解決従事者研修会 | (大野城市) |
| | 9 月 | 西日本肢体不自由児施設運営研究会 | (愛媛県) |
| | 10 月 | 全国重症心身障害児施設職員研修会 | (大阪市) |
| | 11 月 | ノロウイルス食中毒予防講習会 | (久留米市) |
| 平成 31 年 | 3 月 | 重症児 (者) 食・栄養研究会 | (佐賀市) |
| | 3 月 | 調理師研修会 | (久留米市) |

(4) 実習生の受け入れ

6/11(月)～6/15(金)

中村学園大学より栄養士 1 名

6/18(月)～6/22(金)

久留米信愛短期大学より栄養士 2 名

(5) 衛生管理

- ① 食品の納品時、品質のチェックと納品時間記入 (冷蔵品は表面温度記入、冷凍・冷蔵品は収納庫の温度記入)
- ② 手洗い液 (アルボース) による手洗いとウェルパスによる消毒の励行
- ③ 調理時、中心温度計にて中心温度測定、記入
- ④ 調理の出来上がり時間記入
- ⑤ 調理後、冷蔵庫に入れるものは入れた時間・温度記入
- ⑥ 調理器具やシンクの除菌にアルコール、バリアス 1 (食品添加物除菌剤) 使用
- ⑦ 冷蔵庫の清掃、温度記入
- ⑧ 調理室の温度・湿度記入

- ⑨ 検収室の温度記入
- ⑩ 盛りつけ時、使い捨て手袋、使い捨てマスク使用
- ⑪ 洗浄室、下処理室にて専用のエプロン、スリッパ使用
- ⑫ 水質検査 始業前、終業後に残留塩素測定（毎日）
業者による管理（毎月）
- ⑬ 細菌検査（検便）
腸管出血性大腸菌（O-157 他）を含む病原腸内細菌検査（毎月）
ノロウイルス抗原検査 10月、3月
- ⑭ 業者（トキワビル）によるネズミ・ゴキブリ駆除（毎月）

(6) 給食委員会

ゆうかり学園

構成メンバー 所長、事務局長、看護部長、薬剤師
看護課、育成課、訓練課、給食部より代表者
園生代表者（ともだち寮2名、なかよし寮2名）

開催回数 月1回

耳納学園

構成メンバー 利用者様27名、厚生課2名、栄養士

開催回数 月1回

千歳療護園

構成メンバー 利用者4名、総務、医務、サポート係、
パートナー係、訓練、栄養士

開催回数 2ヵ月に1回

内容

各施設で構成メンバーは違うが、毎月の誕生会のメニューを決めたり、行事食の希望を出してもらったりしている。また行事食は、行事終了後に感想を出してもらって次回の参考にしている。それぞれの施設で、希望メニューが異なっているので、なるべく希望に沿うように、献立に取り入れるようにしている。形態や食器等についても、様々な部署の方を交えて検討ができる良い機会なので、今後もいろいろな方面からの意見を参考に、より良い食事提供をしていきたい。

(8) まとめ

毎日の食事で、季節や変化を感じていただけるように、その時期の食材を使用したメニューや話題になっているメニューをとり入れて、食事に変化をつけてきた。食形態についてもソフト食を各寮から数名、昼食・夕食に取り入れ工夫を重ねてきた。4月からはまともマッシュ食も導入の予定で、研修や試作を繰り返し行ってきた。今後も、他部署と連携を取りながら、利用者様が安全でおいしい食事を食べて頂けるように取り組みを続けていきたい。

誕生会のメニュー

平成 30 年度

	ゆうかり	千歳・第二千歳	耳納
4月	ステーキ丼	トンカツ	唐揚げ
5月	デミグラスハンバーグ	巻きずし	エビフライカレー
6月	牛丼	ステーキ	チキンソテー
7月	チーズハンバーグ	味噌カツ	豚ねぎ塩丼
8月	親子丼	ひつまぶし	ハンバーグ丼
9月	ビビンバ丼	ステーキ	
10月	オムライス	ビビンバ丼	ひつまぶし
11月	カレードリア	唐揚げカレー	親子丼
12月	カレーライス	ポークシチュー	チキン南蛮
1月	親子丼	ちゃんこ鍋風	ビビンバ丼
2月	焼きカレー	シシヤモのしそ巻き	ドライカレー
3月	ステーキ	フライ	焼き肉丼

こもりぐま保育所

本園では、家庭に代わり子供達を預かり家庭内の温かさにより近づけるよう、愛情溢れたスキンシップの保育を目指してきた。健康で意欲的、創造的な心と身体を育成する目的で、戸外活動も取り入れており、自然に恵まれた環境の中、四季折々の果物・花・虫などと触れ合っている。また、毎年恒例のバス遠足と、月1回の買い物は、子供達が楽しみにしている行事のひとつである。

その他、個人の能力、年齢に合わせた生活習慣の習得を子供の発達状態をよく見極めて、無理なく個別指導をしている。そして、集団の中における協調性を遊びの中で養ってきた。

本園がまず何よりも、大切にしているのは家庭的雰囲気の中での保育である。そのためにも健康状態など、家庭との連絡を密に心掛けている。

【 平成 30 年度 利用児 】
延べ 794 人 開所日数 241 日 1 日平均 3.3 名

【 バス遠足 (H30. 4. 19) 】
うみたまご

児童発達支援センター コアラ園

福祉型児童発達支援センターとして、3事業（①児童発達支援 ②放課後等デイサービス ③保育所等訪問支援）に取り組む。

① 児童発達支援

日常生活における基本的な動作の指導、知識技能の付与、集団生活への適応訓練等の便宜を付与することを目的とし、月曜日～金曜日の週5日に、「あそび教室」というかたちで、グループ療育及び個別療育を実施した。内容として、日常生活動作（食事・排泄・衣類着脱等）の獲得及び、小集団での行動獲得を基本療育とし、感覚あそび、知育あそび、歌あそび、製作、母子あそび、運動あそび、プール、戸外あそびなどのカリキュラムを、個々の成長段階に合わせて提供した。遊びを通しての楽しさ、自己表現、作品完成への自信や達成感を味わうことを大切にし、不快ではなく、快な状態を出来るだけ多く提供する事を心掛けながら進めていった。

また、母子関係の安定と充実に努め、そこから対人関係づくりへと発展出来るように配慮し、集団における社会性や協調性を伸ばすことも目的とした。

平成30年度の新たな取り組みとして、下記の2つの活動を取り入れた。

- ① 文化庁の伝統文化親子教室事業への参加として、生花教室を専門の先生（片岡清美 氏）にお願いし、月1回の教室と、年2回の作品発表会（11月 田主丸町そよ風ホール、1月 ゆうかり学園交流ホール）を実施する。
- ② 耳納学園スタッフ指導による陶芸教室を実施する。
年長児に対する、就学に向けての机上での活動と、集中力の持続を自発的に促す取り組みとして効果を感じることが出来た。

年間行事としては、

園内行事： 母親講座（9/19(水)研修室にて 31名参加 講師：大滝悦生 Dr）
卒園式（3/20(水) 午前の部 19名参加 午後の部 10名参加）

園外行事： ゆうかり学園盆踊り花火大会（7/26(木)久留米市地方卸売市場田主丸流通センター・県緑化センターにて 51名参加）

ゆうかり学園運動会（10/13(土)東部運動公園にて 41名参加）

また、月1回の避難訓練（10月は消防署員立会い）を実施し、避難誘導等の訓練を園児、保護者と共に体験した。

その他、就学を迎える園児の保護者に対し、特別支援学校（4校）、特別支援学級（27校）の見学案内を行うとともに、並行通園をしている保育園、幼稚園への情報提供書作成や園内見学等の受け入れも行った。

また、地域の依頼により、久留米市、うきは市、朝倉市へスタッフ2名を派遣し、保育療育支援及び、相談支援業務を行った。(年間合計106回の支援)

コアラ園登園に、年間で103名の契約利用児を受け入れ、1日平均で約15～20名が利用する。

② 放課後等デイサービス

生活能力の向上のために必要な訓練、社会との交流の促進その他の便宜を供与することを目的とし、月曜日～金曜日の週5日、15時～18時の時間帯で就学児を受け入れる。

田主丸特別支援学校の生徒5名(高校生2名、中学生1名、小学生2名)

久留米特別支援学校生徒1名(高校生1名)

計6名が年間で定期利用する。

③ 保育所等訪問支援

当該施設を訪問し、当該施設における障害児以外の児童との集団生活への適応のための専門的な支援その他の便宜を供与することを目的とし、年間で7名の利用あり。

久留米市善導寺保育園	1名	6回訪問
久留米市高良内保育園	1名	6回訪問
久留米市大橋保育園	1名	5回訪問
久留米市北野おおぞら幼稚園	1名	6回訪問
うきは市吉井小学校	1名	1回訪問

<心理検査>

発達検査	1
知能検査	15

上記の様に、必要に応じて知能検査並びに発達検査を行い、対象児の課題等を見つけて出すと共に、今後の療育方針を決定する上での参考資料としていった。

また、就学を迎える年長児への情報提供や、特別児童扶養手当の申請及び更新の為の検査として実施した。

その他、コアラ園卒園児や外来利用児(リハ利用児)に対してのサポートとしても実施した。(知能検査18名・発達検査2名)

<学校見学案内>

	期 日	学校名	参加保護者数	参加園児
1	6/20(水)	久留米特別支援学校	9	9
2	6/22(金)	久留米市立南薫小学校	2	2
3	6/27(水)	久留米市立大橋小学校	1	1
4	7/ 4(水)AM	朝倉市立立石小学校	1	1
5	7/ 4(水)PM	朝倉市立蜷城小学校	1	1
6	7/ 6(金)	うきは市立小塩小学校	1	1
7	7/ 9(月)AM	久留米市立宮ノ陣小学校	2	2
8	7/ 9(月)PM	久留米市立合川小学校	1	1
9	7/10(月)AM	小郡特別支援学校	4	4
10	7/10(月)PM	田主丸特別支援学校	1	1
11	7/12(木)	東峰村東峰学園	2	2
12	7/13(金)	久留米市立西国分小学校	3	3
13	7/17(火)	久留米市立南小学校	1	1
14	7/18(水)AM	八女市立上妻小学校	1	1
15	7/18(水)PM	八女市立立花小学校	1	1
16	7/19(木)	久留米市立東国分小学校	1	1
17	9/11(火)	うきは市立吉井小学校	1	1
18	9/12(水)	朝倉市立甘木小学校	2	2
19	9/14(金)	小郡市御原小学校	1	1
20	9/18(火)	筑後特別支援学校	1	1
21	9/20(木)	久留米市立竹野小学校	1	1
22	9/21(金)	うきは市立御幸小学校	2	2
23	9/25(火)	朝倉市立金川小学校	2	2
24	9/26(水)	朝倉市立大福小学校	1	1
25	9/27(木)	久留米市立田主丸小学校	2	2
26	9/28(金)AM	八女市黒木西小学校	1	1
27	9/28(金)PM	八女市黒木小学校	1	1
28	10/ 5(金)	久留米市善導寺小学校	1	1
29	10/19(金)AM	日田市桂林小学校	1	1
30	10/19(金)PM	日田市光岡小学校	2	2
31	11/19(月)	うきは市福富小学校	3	3

<通園児診断名>

診 断 名	該 当 児
構音障害	80
発達性協調運動障害	80
言語発達遅滞	71
自閉症スペクトラム障害	43
精神運動発達遅滞	24
運動発達遅滞	10
ダウン症候群	1

自閉症	12
摂食機能障害	1
注意欠陥多動性障害	4
知的障害	10
多動症	5
筋力低下	5
細菌性髄膜炎後遺症	1
未熟児網膜症	3
筋緊張低下症	1
右先天性難聴	1
左小眼球症	1
嚥下機能障害	2
CHARGE 症候群	1
歩行障害	2
契約児 103 名（診断名複数該当あり）	

<出張関係>

出張名	出張者	期 日	会 場
社会福祉施設役職員研修 新任職員研修	早川 共見	H30. 5/16・5/28	クローバープラザ 春日市
第 1 回児童福祉施設連絡協 議会 意見交換会	瀬戸 美幸	H30. 4/25	久留米児童相談所
放課後デイサービス・ 児童発達支援事業所向け研修会	山崎 聡美	H30. 6/29・7/30 ・9/26・12/ 7	えーるびあ久留米
労務管理研修	久恒 章	H30. 8/23	クローバープラザ 春日市
「ペアレントトレーニング」 リーダー講習会	山崎 聡美	H30. 8/21～22	心身障害児総合医療療育 センター 東京都
児童福祉施設 新任職員研修会	早川 共見	H30. 9/11	福岡県教育庁北筑後教育事 務所
制度改正等に伴う 事業者説明会	久恒 章	H31. 1/8	吉塚合同庁舎
第 3 回社会福祉法人 経営者セミナー	久恒 章	H31. 2/13	九州ビル 大ホール

相談支援事業所 夢の紀

〈概況〉

当法人内全施設の入所者における計画相談を始め、久留米市、朝倉市、うきは市等に在住の障害児及び者の計画相談を行った。

- ・医療機関から退院され、在宅に戻られる医療ケア児の退院支援（1件）
- ・医療機関から退院され、当法人施設へ入所される方の支援（1件）
- ・他市から当法人施設へ入所される方の計画相談移管（1件）
- ・他事業所から計画相談の移管（6件）
- ・在宅生活から本人の身体状況、家庭状況等の変化により、当法人施設へ入所を希望された方への支援（4件…ゆかり医療療育センター2名、千歳療護園1名、第二千歳療護園1名）
- ・平成30年4月の報酬改定による新たな計画相談の加算については、要医療児者支援体制加算を4月から行動障害支援体制加算は9月に届け出を行い、計768件請求に上げた。サービス提供時モニタリング加算、退院加算は23件であった。

基本相談（学園への問い合わせ対応）	地域事業部相談支援に記載
-------------------	--------------

〈計画相談担当件数〉

サービス等利用計画・障害児計画相談担当総件数		331件
内訳	障害児計画相談	85件
	サービス等利用計画（在宅の方）	39件
	サービス等利用計画（当法人施設入所者）	207件

〈計画相談作成件数〉

新規相談	23件（児童16件 者7件）
障害児支援利用計画・サービス等利用計画作成件数	206件（児童86件 者120件）
継続障害児支援利用援助・継続サービス利用支援作成件数	298件（児童81件 者217件）

- ・在宅利用者様で医療的ケアを必要とする重症心身障害児者の方については、日中一時や短期入所、訪問看護、居宅支援等におけるサービスの調整が困難なケースが多いため、頻回な自宅訪問を必要としている。
- ・サービス利用につながらず、基本相談支援のみで経過している事例（8件）も抱えている現状である。

- ・子育てや介護、将来への不安が特に強いご家族からの連絡に対し、その都度時間を掛けながら気持ちに寄り添って支援を行っている。

< 基幹相談支援センターとの連携 >

東部基幹相談支援センターから依頼（6件）を受け、福祉サービスの必要な対象者に、計画相談での対応を行った。また、すでに計画相談に入っている困難事例の計画相談において東部基幹相談支援センターと連携して支援を行った。

< 事業所との連携 >

- ・当法人施設：家族面談や認定調査に同席し、情報収集やモニタリングを行った。また、入所検討会へ参加し情報の共有を行った。
- ・虐待のリスクを抱える家庭への支援を公的機関、学校、病院、関係事業所等と連携を持って行った。

（計画相談等における連携機関）

○公的機関

- ・久留米児童相談所
- ・福祉課（久留米市、うきは市、朝倉市）
- ・久留米市こども子育てサポートセンター
- ・久留米市学校教育課（スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー）
- ・久留米市生活支援課
- ・うきは市子育て支援課
- ・朝倉市子ども未来課

○保育所・学校関係

- ・保育園（千草、若葉、千年、三奈木）
- ・特別支援学校（久留米、田主丸、小郡）
- ・小学校（善導寺、宮の陣、山川、水縄、田主丸、竹野、柴刈、高良内、吉井、三輪、金川、三奈木）
- ・中学校（田主丸、宮の陣）
- ・高等学校（浮羽究真館高校）

○医療機関（久留米大学病院、聖マリア病院、田主丸中央病院、筑後吉井こころホスピタル、久留米総合病院、のぞえ総合診療病院、倉田内科小児科医院、むたほとめきクリニック、広田クリニック、耳納クリニック、聖ルチア病院、花畑病院、本間病院、嶋田病院、姉川脳神経外科）

○児童発達支援（ひばり園、かいじゅうの森）

○放課後等デイサービス（すまいる、クレア、芽愛、にじ、COCORO、スイングキッ

ズ、こどもプラス、あっぷ、いきいきハッピーステップ津福、かぶとむしクラブ
みのう、かぶとむしクラブたかとり、愛の家あさくら館、ヒカレ、第六野の花、
ういずあっぷる、かぶとむしクラブしらかべ、きぼうの森、ミルキーウェイ小郡、
菊池園放課後デイサービス)

- 生活介護（愛らんど、一麦寮、ちとせ園、和歩和歩、どんぐり、あかりデイサー
ビス、浮羽学園、陽だまりの里、シンフォニア、赤坂園、菊池園）
- 就労移行支援（あゆむ、Join）
- 就労継続支援（ほうれんそう、わくワークステーション千歳、プロジェクト-T、
みどりの園、荒木学園、ステップ、ごろりんハウス、天心園、ライフステージ）
- 療養介護（聖ヨゼフ園、柳川療育センター、久山療育園、若楠療育園、東佐賀病
院）
- 居宅支援（田主丸社協、ひまわり、つばさ、千歳、アップル久留米、えがお、さ
くらくるめ東、ドナセナ、生協、ライフケアステーション、ニチイケアセンター、
グリーンケアステーション、涼風、アップル小郡、朝倉医師会）
- 訪問看護（田主丸、ういずはーと、デューン、ルナ、子守柿、ひとつ星、アッ
プル小郡、朝倉医師会、甘木中央、ひばり、アソシオール）
- グループホーム（悠光会、浮羽学園、筑後吉井こころホスピタル、天心園、ライ
フステージ）
- 短期入所・日中一時（ASOBIVA、小郡学園、希望ヶ丘）
- デイケア（筑後吉井こころホスピタル）
- 訪問入浴（アップル久留米、くましろ）
- 地域活動支援センターⅢ型（さくらんぼ）
- 就業・生活支援センター（ぼるて）

<自立支援協議会への参加>

- ・久留米市地域生活支援協議会施策推進部会重心分科会に所属し、副部会長として
の責務を行った。
- ・久留米市地域生活支援協議会施策推進部会相談部会委員（相談ねっと）に所属し、
会合へ参加していく中で、情報交換、研修、地域課題への取り組みを市福祉課、
事務局と連携して行った。
- ・うきは市地域障害者協議会相談部会に所属し、情報交換、研修、地域課題への取
り組みを市福祉課、事務局と連携して行った。

<出張>

- ・ 5月24日 久留米市難病相談従事者等研修会…古賀瑠美、吉田修平

- ・ 7月9, 10, 19, 20日 強度行動障害支援者養成研修…古賀瑠美
- ・ 8月7, 8日 厚生労働省 障害者虐待防止・権利擁護指導者養成研修…古賀剛
- ・ 9月18日 介護職員初任者研修（講師として）…古賀剛、古賀瑠美
- ・ 9月28日 八女筑後・久留米圏域相談支援従事者研修…古賀剛
- ・ 11月6, 26, 27日 相談支援従事者現任研修…吉田修平
- ・ 12月13, 14日 九州地区障がい者相談支援事業所合同研修会…吉田修平
- ・ 3月4日 県相談支援従事者専門コース別研修（意思決定支援）…吉田修平

（その他の会合出席等）

- 久留米市相談支援事業所連絡会（久留米市相談ネット）…12回
- 久留米市地域生活協議会（施策推進部会、重心部会）…10回
- 久留米市重心児者地域生活支援事業…15回
- 久留米市障害者基幹相談支援センター報告・研修会・勉強会…3回
- うきは市地域障害者協議会（計画相談部会等含む）…7回
- 社会福祉士会 障がい者虐待防止研修（打合せ会議等含む）…6回
- 相談支援ネットワーク会議（療養介護事業所相談支援連絡会）…3回
- 田主丸特別支援学校連絡調整会議・研修会・相談会…6回
- 社会福祉士相談援助実習 説明会…1回
- 久留米児童相談所管内交歓大会実行委員会…1回
- 筑後地区療育システム協議会…2回

耳 納 学 園

《概況》

平成という元号が来年度4月30日をもって新しい元号に変わる。平成という時代は、地震や豪雨などの自然災害が多く発生し、人々は、自然の猛威にただただ恐れおののくだけであった。

昨年7月6日に筑後地方に大雨がふり、職員の終業時刻には、ほとんどの幹線道路が水に浸かり職員は冠水していない道を迂回しながら自宅へいそいでいた。前年の朝倉・日田の豪雨はこのような雨が半日以上降り続いた事を思うと、あらためて自然の怖さがわかる体験であった。

作業面においては、毎年恒例の「ゆめタウンくるめ展示即売会」を1月12日（土）から1月14日（月）までの3日間で開催した。法人職員のご協力を得ながら展示会が開催できる事に対し感謝申し上げたい。前回の売上げが約131万円で、今回の売上げは124万円であり、売上が減少してしまった。利用者様もこの展示会に向けて製品づくりを毎年行っておられる。自分のつくった製品がお客様に買っていただいて、喜んでいただいている事が励みとなっている。次年度は今回より売上げを伸ばすように頑張りたい。

生活面においては、利用者様との面談を行い個別支援計画を作成している。利用者様より、普段行く機会がない所へ職員が付き添って行く「体験外出」の依頼が多く出た。気候の良い春と秋に実施した。

健康面では、昨年12月頃より熱発者が増えだす。インフルエンザA型に数名罹患される。感染拡大かと覚悟していたが、1月2日には終息し、安心する。利用者様には、抵抗力をつけるために、日頃からきちんと給食をたべて風邪に負けないようにしようと、看護課や栄養士より話をしてもらっている。

年齢的にも、体力が低下する方が今後、増えていくので、食事の重要性がますますクローズアップされていく。次年度も、健康で楽しい生活が過ごせるように取り組んでいきたい。

総務部

- 1) 本年度の各事業別利用状況
《施設入所支援》定員 34 名

年間延べ利用者数 9,673 名、充足率 77.95%、1 日平均利用者数 26.5 名
 《就労継続支援 B 型》定員 40 名（通所 6 名含む）

年間作業参加実績延べ利用者数 6,433 名、定員から見た充足率 66.73%、1 日
 平均作業参加実績利用者数 26.7 名

2) 本年度の地域別入退園状況は、別表（1）の通りである。

別表（1） 本年度の地域別入退園状況

入園状況 地域別	前年度末		入 園		退 園		本年度末	
	男	女	男	女	男	女	男	女
福岡市		1						1
久留米市	4	3					4	3
柳川市		4						4
朝倉市	2	1					2	1
大川市	1	1			1			1
小郡市		1						1
うきは市	1	1					1	1
大宰府市								
新宮町		1						1
八女市	1	1					1	1
みやま市		1						1
上毛町								
東峰村	1						1	
唐津市	1						1	
武雄市	1						1	
佐賀白石町		1						1
計	12	16	0	0	1	0	11	16

厚生労働部

【就労支援課】

陶芸部門では、利用者の身体状態の後退は引き続き、今年度も入院や退園等があった。また、怪我等で従来行っていた作業に不安を抱えて、その後出来なくなった

利用者も現れた。

生産数及び在庫数の減少は明らかで、素焼き生地の外注や石膏型の買い替えで対応を試みた。

その中でも、僅かな人数ではあるが、意欲、技術の向上が見られた利用者も現れた。

工芸部門でも、利用者の身体状態の後退が見られる。作業のしやすい環境設備、工夫を試行しているものの、上手く行きつかず苦慮している。

その中でも、利用者と担当職員でアイデアを出し合い、喜ばれる製品作りへの情熱を感じさせている。さらに、竹細工職人さんがボランティアでお見えになり、製品制作の幅の拡大につながる良い刺激となった。

食品加工部門では、「焼き肉のタレ」の生産を行い、売り上げは昨年より増加した。着実にリピーターの増加が認められる。また、原材料の購入もスムーズであった事も良い影響となった。

今年度新たに始めた農作物部門は「絆・まごころ農園」と銘打ち、主に焼き肉のタレの材料である「にんにく」の自主生産の礎になる。

「にんにく」の植え付けは10月末であるために、それまでの期間は野菜、水稻栽培を実施した。それらを、職員間への販売を主に行い売り上げも順調であった。

現在、「にんにく」は栽培中であり、収穫の時期が近くなっている。これにより、焼き肉のタレの製造に大きく寄与するものと期待している。

販売に関しては、出向、委託、受託（パン・クッキー類）、各種イベント等にて実施をした。今年度は、うきは市地域障害者協議会就労部会での合同販売会が道の駅うきはで開催され、それに参加した。「ゆめタウン久留米展示即売会」では、成人の日を含む絶好の三日間で開催したが、昨年の売り上げに到達する事が出来なかった。また、福岡三越での「まごころ大規模販売会」にも参加した。

通所部門は、陶芸部門で1名、週2回利用してきた。利用開始から二年が過ぎ、少しずつではあるが、作業内容の向上もうかがえていたが、千歳療護園への入所に伴い契約を2月末で終了となった。

利用者様の状態は確実に低下しており、作業面で苦慮する場面が増加している。それには、生産計画と価格の見直しを図り、安全と生産、売り上げの維持、確保に取り組んでいく必要がある。

1) 本年度の売上及び工賃支給状況は、別表(2)の通りである。

月	売上金額	工賃支給額
4月	139,470	326,609
5月	416,783	327,610
6月	1,398,161	327,042
7月	553,541	327,451
8月	465,522	327,032
9月	730,238	327,870
10月	496,783	295,778
11月	679,369	312,175
12月	502,312	201,146
1月	1,577,146	299,260
2月	311,822	199,085
3月	420,648	260,942
計	7,691,795	3,532,000

※ 本年度の工賃支給率は、46%

【厚生課】

生活面においては、半年ごとに利用者様と個別に面談を実施し、日常生活状況で困る場面がないか？利用者様の思いなどのお話を伺いながら、個別支援計画を作成し実施している。

昨年度に引き続き、普段、利用者様が行く機会がない所へ、担当職員が付き添う「体験外出」の希望が多く出されたので、気候の良い春と秋に映画鑑賞・久留米シティープラザ見学・小鹿田焼散策・電車の写真撮影・福岡市博物館・九州国立博物館・天神地下街やデパート散策・近隣スーパーにて買い物などを実施した。

利用者様は楽しみにされておられ、思い思いに楽しい時間を過ごされていた。男子利用者様の中には、地域生活されておられる方のご自宅訪問や地域生活について学びたいとの依頼があり、地域でヘルパーさんを（朝・夕）利用され、生活されておられる方のお宅へ伺い、地域生活に必要な事（ヘルパーさんとのコミュニケーションが大切である事。ヘルパーさんが来ない時間帯の過ごし方。お金の管理ができる事。）を教えてもらっていた。

又、今年度はレクリエーションクラブ主催の「ボウリング大会」を実施し、17名の利用者様が参加され5班に分かれて久留米市内のボウリング場で実施した。ガーターなしでスロープを使って投球をされるので、思うようにピンが倒れない場面や思いもよらない方向にボウルが転がって行く事もあり、珍プレーや好プレーが各班

それぞれにあり、楽しい一日であった。

次年度も、利用者様と面談を持ち快適な生活が送れるように取り組んでいきたい。

1) 本年度の在園期間別人員数及び平均在園期間は、別表(3)の通りである。

別表(3) 入園期間別人員数及び平均入所期間

区分	1年未満	1～4年	5～9年	10～14年	15～19年	20年以上	計	平均
男	0	0	2	1	2	6	11	24年9ヵ月
女	0	1	2	1	2	10	16	26年1ヵ月
計	0	1	4	2	4	16	27	25年5ヵ月

2) 本年度の年齢区分別人員数及び平均年齢は、別表(4)の通りである。

別表(4) 年齢区分別人員数及び平均年齢

区分	20歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50歳以上	計	平均
男	0	0	2	3	6	11	52歳8ヵ月
女	0	0	1	5	10	16	56歳5ヵ月
計	0	0	3	8	16	27	54歳7ヵ月

3) 本年度の主な実施事項は、別表(5)の通りである。

別表(5) 主な実施事項

月	日	行 事	月	日	行 事
4	24	開園記念行事	11	8	体験外出(朝倉市)
4	29	第56回身障者体育大会	11	19	ボウリング(久留米市)
5	11	体験外出(買い物)	11	22	夕食会「しゃぶしゃぶ」
5	22	体験外出(日田市散策)	11	27	ボウリング(久留米市)
6	21	夕食会「ステーキ」	12	6	ボウリング(久留米市)
7	20	体験外出(福岡市)	12	10	体験外出(福岡市)
7	25	盆踊り花火大会	12	13	ボウリング(久留米市)
8	11	レクリエーション	12	20	ボウリング(久留米市)
9	20	夕食会「皿うどん」	12	21	もちつき・忘年会
9	25	体験外出(久留米市)	1	29	1日レク「喫茶店」

10	13	ゆうかり運動会	2	7	体験外出（福岡市）
10	16	体験外出（久留米市）	2	14	1日レク「ラーメン」
11	1	体験外出（九国博物館）	3	14	夕食会「カレーうどん」

4) 本年度実習生の受け入れ

介護等体験実習	(久留米大学)	1名
介護等体験実習	(九州国際大学)	1名
介護等体験実習	(福岡教育大学)	1名
介護等体験実習	(久留米工業大学)	1名
介護等体験実習	(筑紫女学園大学)	1名
介護等体験実習	(久留米大学)	1名
介護等体験実習	(久留米工業大学)	1名
介護等体験実習	(久留米大学)	1名
介護等体験実習	(久留米工業大学)	1名
保育実習 I	(九州大谷短期大学)	1名

【看護課】

今年度は、入院中であった利用者様が10月に死亡退園された。

年末には、風邪症状を訴える利用者様が多数発生し、うち3名がインフルエンザ-Aに罹患した。5月と2月には、感染性胃腸炎の疑いで各1名を個別対応した。また、イレウスで1名入院したが、保存的治療で治癒した。嘔吐イコール感染性として扱うことには注意が必要であり、いずれも早期に対応できたことが効果的であった。

肺炎球菌予防接種1名。年2回の健康診断や口腔健診は、全利用者様に対して実施できた。利用者様の心身の状態は様々で、日常生活の中での訴えや介助を必要とする場面も増えてきた。そのような中、残存機能を活かした、その人らしい生活ができるような看護・支援に努めている。

1) 月別受診人員数は別表(6)の通りである。

別表(6) 月別受診人員

月別 疾病別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
定期薬内服	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
臨時薬内服	21	21	22	22	23	22	22	22	27	23	22	21	268
循環器科	0	2	3	0	2	3	2	0	2	2	0	2	18
内分泌科	1	2	1	1	2	1	1	1	1	1	1	0	13
脳神経科	1	2	1	2	1	2	1	2	1	1	2	1	17
消化器科	1	0	0	2	0	2	1	0	0	2	0	1	9
一般内科	1	2	0	0	0	2	3	3	19	1	4	5	40
整形・外科	6	1	10	7	6	3	8	5	6	6	12	2	72
耳鼻科	3	0	0	1	0	0	1	0	0	1	1	2	9
歯科	9	5	32	9	5	7	4	10	11	15	8	9	124
皮膚科	7	10	8	8	10	9	9	12	10	11	9	8	111
眼科	6	5	6	13	5	6	7	12	6	6	5	13	90
婦人科	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
精神科	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
入院	2	2	1	1	1	1	1	0	0	0	1	1	11
計	61	55	87	69	58	61	63	70	86	72	68	68	818

【30年度研修等出張記録】

期日（期間）	研 修 会 名 称	出張先	参加数
H30 4/19	第56回福岡県身体障害者体育大会 説明会	春日市	1
5/31	県社会就労センター協・施設長会 県セルフセンター福岡総会	春日市	1
7/5	県身障協施設長会・職員研修会	大牟田市	1
7/7	会計担当者研修	福岡市	1
7/24	会計担当者研修	福岡市	1
7/19	まごころ製品大規模販売会説明会	福岡市	2
7/6, 7	県社協キャリアパスチームリーダーコース	春日市	1
8/20	県社会就労センター協議会職員研修	福岡市	1
8/23	県社協 労務管理研修	春日市	1
8/27	県経営協 経営セミナー	福岡市	1
9/3	県社協平成30年度福祉サービス苦情解決 従事者研修会	大野城市	1
9/19～21	九州身体障害児者施設研究大会	長崎市	2
10/17～19	全国重心障害児者施設職員研修会	大阪市	1
10/22	県社会福祉大会	福岡市	1
10/29	会計・財務初任者研修	福岡市	1
10/30	会計・財務セミナー	福岡市	1
11/1～2	九州社会就労センター（セルフ）研究大会	福岡市	2
11/28	応研年末調整セミナー	福岡市	1
12/1	まごころ製品大規模販売会参加施設打合せ	福岡市	1
H31 1/30～2/14	まごころ製品大規模販売会	福岡市	6
2/13、	経営者セミナー	福岡市	1
2/25・3/19	BCP 策定運用研修	福岡市	1
3/12	県身障協施設長会	春日市	1
3/13	セルフセンター福岡総会 県社会就労センター施設長会	春日市	1
3/15	重症児者 食・栄養研修会	佐賀市	1
3/22	経営者セミナー	福岡市	1

千歳療護園

《概況》

昨年7月の豪雨では朝倉市を中心に大きな被害をもたらし、千歳療護園でも排水が間に合わず女性棟の一部が浸水し、利用者様も不安な状況となった。

本年7月大雨をともなった台風が接近する予報を受け、安全対策委員が中心となり早めの対応を行った。昨年の被害の教訓を活かし、浸水対策としてL字に組み立てたコンパネでバリケードを作り、土のう・排水ポンプを設置した結果、被害には至らなかった。今後も情報収集し、素早い対応を心掛けて行きたい。

各委員会に於いては、利用者様により安全・快適な生活を送って頂くことを念頭に委員会を見直し、「良きものは残し改善すべきものは変えていく」を前提に、今年度4月より新しい委員会を立ち上げた。年度末には、各委員会より反省点や改善点を提出してもらい整理した。また来年度の目標を掲げ、より良いサービスの提供を目指すこととした。

入浴については、1年程前より単独入浴を計画、まずは利用者様を午前と午後の2回に分け、職員3名の介助で試行した。今までは、第二千歳療護園の職員と共同で入浴介助を行っていたが、年数が経つうちに互いの利用者様の身体変化の把握が難しくなってきたのが現状であった。また感染症の拡大予防にもつながることがこれに至った経緯である。利用者様の感想は「ゆっくりと浴槽につかれる」など好評である。今年度、インフルエンザの園内流行を機に本格的に単独入浴を行うこととした。

6月には生活環境整備の一環として、平成30年度自動車事故対策費補助金(在宅生活支援環境整備事業)の申請を行い、国土交通省より本園が選定されたとの通知を受け、31年1月にバスタブ、シャワーストレッチャー、電動ストレッチャーを購入設置した。バスタブの使用により座位保持が困難な利用者様も、ゆったりと身体を伸ばした姿勢で入浴することができ、より安全にリラックスして入浴が出来ている。

また入浴用電動ストレッチャーを利用することで利用者様を何度も抱える必要がなくなり、職員の負担が軽減され、利用者様に対してより安全で快適な入浴を提供できる様になった。尚、本事業に於いては、人材確保等経費についても合わせて補助金が支給される予定である。

防犯については、2月に警察への非常通報機を詰所に設置し、緊急時にすばやく対応できるようカウンター下にも警察直通(110番)のボタンを設置した。

今後も利用者様の生活環境整備を図り、予測される事態に対し早急に対応できるよう事前に準備し、園生活の安全と安心を保障すると共に一層のサービス向上を目指し支援して行きたい。

<千歳療護園 総務課>

1. 本年度の各事業別利用状況

【施設入所支援：定員 40 名】

年間延べ利用者数 14,106 名 充足率 96.6%

【生活介護：定員 50 名】（通所 10 名含む）

年間延べ利用者数 11,435 名 充足率 87.9%

【短期入所：定員 2 名】

年間延べ利用者数 95 名

【日中一時支援】

年間延べ利用者数 1 名

【入院・外泊者について】

11 名の利用者様が延べ 161 日間の入院、また外泊日数は延べ 122 日間となっており、入院日数や外泊日数を除く実利用者数は 13,823 名で 97.9%の充足率であった。尚、平成 31 年 3 月 31 日現在の入院者数は 1 名である。

2. 本年度の地域別入退園状況は別表（1）の通りである。

別表（1）本年度の地域別入退園状況

生活部

(1) 生活援助課

(パートナー係)

本年度は、前年度同様、個別支援計画書の内容に合わせた支援を行ってきた。今回は、個別の活動を重視するために個別活動時間を 1 日多く増やし、担当職員が受け持っている利用者様の個々のニーズを達成できる時間を設けた。個別活動を設けることによって担当職員と利用者様とのコミュニケーションが密に図ることができ、新たなニーズを発見できる機会ともなっている。個別活動の内容としては、園内散歩、居室の整理整頓、ボール遊びなど利用者様それぞれの希望に副って活動を展開している。また、活動記録をパソコンに入力し、他の職員にも閲覧できるようにし、活動内容をケース記録へ記載しやすいようにした。

行事に関しては、花見ドライブ、紅葉ドライブ、買い物外出や招待外出の手続き業務を行っている。ドライブ外出では、マイクロバスで1時間程、桜や紅葉が見える公園まで車窓より観覧してもらうといった計画を立て、主に長時間の外出が困難な方を選出し、運転手と車両確保手続きなどを行い計画を立てている。また、看護課のスタッフや事務、訓練など多職種の職員にも参加してもらい、車中でのBGMやマイクを使用して楽しんで頂けるように工夫をして実行している。

その他に買い物のみの外出や食事中心の外出などの計画では、付き添い職員の選出や所持金の準備、買い物レシートの計算や残金確認などの業務を行っている。外食を楽しみにしている利用者様が多く、本年度からランチ外出を設け、食事に重きを置いて計画を立てている。食事形態が有形の方を中心に選出し、看護課に食事に関して注意することや薬などの確認を行い、付き添い職員に伝達するようしてきた。

その他、昨年につき、インターネットを利用した買物の仲介と支払い、受給者証、確定申告など行政への手続き代行業務、保護者への連絡書や小遣い帳複写書類の作成、死亡退園利用者様のご家族への遺留品、通帳残金受け渡しなどの事務的な業務を行っている。

今後の課題としては、外出に行きたいという希望が多く、外出する機会をさらに増やすことが求められている。また、買い物ではなく、他にコンサートや演劇などの催し物を見たいといった希望も出てきているので、情報を提供し、希望に副った外出を実現できるように支援できればと考えている。

☆ 週生活表は別表(2)、年間実施行事は別表(3)の通りである。

(サポート係)

平成30年度の千歳療護園は生活介護50名(現在の入所実人数40名・通所10名)短期入所2名で構成されており、死亡退園(1名)他施設への転所(1名)在宅への移行(1名)新規入所(2名)第二千歳から転入(1名)と言う実態であった。

4月に国土交通省より自動車事故対策補助金の交付にて、バスタブ、リフト式ストレッチャー、シャワーストレッチャーが導入されたことで、利用者様の状態に合った入浴と職員の身体への負担の軽減に役立っている。また、利用者様の意向に伴って、千歳、第二千歳での単独入浴ができるようになっている。

利用者様の健康面に於いては、インフルエンザ感染症にて、12月末～1月上旬と2月下旬～3月上旬に罹患された利用者様には自室で過ごして頂いている。

夜間の緊急事態に対応出来るよう職員の意識向上に努めた。特に、各疾患(心肺停止・転倒・骨折・チアノーゼ・嘔吐・熱発)のマニュアル別に、12月から夜勤者の

申し送り時に、緊急時の対応方法としてシミュレーションを行った。

また、2月には緊急時にボタンを押すと福岡県警司令塔へ通報が行くシステムも導入され、外部カメラに続き、防犯が更に強化された。

利用者様の生活面に於いては、園での行事(開園記念日・運動会・餅つき・忘年会等)の他に、食事、買物外出・春と秋のドライブ・希望にて野球観戦や一人ひとりに合った喜ばれる支援を行い、個別支援活動の日は園内散歩・足浴等行っており、全体の活動ではカラオケ・コミュニケーション会、勉強会、塗り絵、工作、DVD鑑賞を行っている。

また、誤嚥性肺炎対策として、罹患された利用者様や可能性のある利用者様を対象に夕食後、口腔内に残渣物を残さない口腔内ケア(歯肉マッサージ)の取り組みを行っている。その中でも嚥下機能の低下により、過去に誤嚥された方や日頃、咽やすい方を中心に吸引歯ブラシを用いて、口腔ケアを行っている。

コミュニケーション会では、利用者様自身にも意識してもらう目的で、嚥下体操を毎週月曜日に行っている。

アクシデント報告では、前年度に比べ13件と多かった。中でも転倒事故や外傷事故が多く発生しており、職員の目が届かない所での転倒や介助中の外傷事故も発生している。今後も介助方法についての意識向上と改善に心がける必要がある。

来年度は更なる、個人にあった介護技術と質の高いサービス提供が重要だと感じている。

(2) 訓練援助課

千歳療護園では、男性23名、女性17名、計40名の利用者様に対し、理学療法士1名(兼任)、機能訓練員1名で、利用者様一人あたり1回40分の個別訓練を週1~2回実施した。

訓練の内容は、利用者様の高齢化に伴い、関節可動域の維持、体力・筋力の維持、残存機能の維持を目的に行っている。具体的には、関節可動域運動や個別の能力に合わせた筋力維持運動、動作運動を行った。筋緊張の強い利用者様には、ストレッチやマッサージにてリラクゼーションを行い筋緊張の緩和をはかった。身体の痛みを訴える利用者様には、ホットパックやマッサージを行い、痛みの軽減・緩和に努めた。また、上肢の巧緻動作維持や座位保持の維持を目的に、パズルやトランプ、スキルスクリーン等の作製を取り入れた。

個別にかかわることで、利用者様の話に傾聴し、気分転換に外に散歩に出かける

等、ストレスの解消や情緒の安定をはかり、精神面から起きる機能低下防止にも心掛けた。

利用者様の状態を各部署で共有するため、3 か月ごとにカンファレンス記録を作成し、それを基にリハビリテーション実施計画書の作成を行い、利用者様・ご家族様へ説明・同意をいただいている。

補装具全般の交付・修理申請手続きを行い、車椅子・電動車椅子・座位保持装置・下肢装具等の作製・修理にも携わっている。平成 30 年度では、車椅子の交付申請 3 件、修理申請 8 件、補装具の交付申請 1 件、福祉用品の購入 3 件の手続きを行った。

(訓練内容)

- 関節可動域運動
- 基本動作運動(寝返り・起き上がり・立ち上がり・立位保持・歩行等)
- 姿勢保持運動(座位バランス・立位バランス等)
- 日常生活動作運動(車椅子駆動・移乗動作等)
- 体力・筋力維持運動(腹筋・スクワット・四つ這い運動等)
- 巧緻動作運動(パズル・トランプ・スキルスクリーン等)
- リラクゼーション(ストレッチ・マッサージ・ホットパック等)

(3) 生活部相談援助課

《概況》

平成 30 年度も、日本各地で記録的な豪雨となった。久留米市においては、7 月 5 日から 7 日にかけて断続的に雨が降り、土砂災害や浸水害の被害が発生したが、幸いにも当施設は被害を受けることは無かった。

相談援助課は、両施設兼務での業務を継続した。一般生活援助業務(食事、入浴、排泄、移動等)で関わりを深めながら利用者様お一人おひとりの一日の生活の流れ、身体面、精神面、対人面などを把握することに努めた。また、利用者様一人ひとりと個別活動や集団活動を通してコミュニケーションを図り、更なる信頼関係の構築にも努めた。

さらに、情緒の安定を目的として行ってきた読み聞かせの活動を継続し、前頭前野の活性化を図るためにカードのインプット等にも取り組んだ。

また、散歩をするには絶好の環境であるため、気分転換・ストレス解消・地域の多くの方との触れ合い等を目的に敷地内や隣接の運動公園で活動を行った。

移転後5年目を向かえ、生活の中での新たな問題点を汲み取るために、各居室に出向いた折に、以前以上にコミュニケーションを密にとるよう配慮した。

今後も、利用者様の高齢化に伴う身体機能、精神活動の低下を、他の部署と連携を取りながら、快適な生活で過ごせるように支援したい。

(援助内容)

- ①面談活動（カタルシス）
- ②散歩療法（発散、リフレッシュ）
- ③表現療法（遊び活動、自己表現、生きがい、興味拡大、信頼関係）
- ④ポジショニング（リラクゼーション、慢性痛の軽減、QOLの拡大等）
- ⑤前頭前野活性化法（読み聞かせ、公文カード、ドリル等）
- ⑥介護全般
- ⑦メンタルヘルス（ドライブ外出、カウンセリング）
- ⑧環境整備、その他

(4) 生活部看護課

障害者支援施設に於て利用者様の高齢化に伴い、障害の重度化・重複化・疾病の多様化により、園内で医療行為を必要とする利用者様が徐々に増加する傾向であり協力病院との連携が必要不可欠な状況です。

利用者様の健康管理・衛生管理を行いサービス向上に努めています。

《平成30年度》

① 委託入院	田主丸中央病院	8件
	久留米大学病院	1件
② 医療ケア	膀胱瘻	1名
	経管栄養（胃瘻）	2名
	ストーマ	2名
③ インフルエンザ予防接種		38名

④千歳療護園 年齢別入所者数

平成 31 年 3 月 31 日現在

年齢	30 歳未満	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳以上	計
利用者	1	2	5	22	5	5	40
(%)	2.5	5	12.5	55	12.5	12.5	100

⑤千歳療護園 病類別入所者数

平成 31 年 3 月 31 日現在

病 名	人数	病 名	人数
脳性麻痺	31	脳脊髄膜炎	1
頭部外傷後遺症	1	脳挫傷後遺症	2
精神遅滞（重度）	1	クモ膜下出血後遺症	1
進行性ミオクローヌステんかん	1		
脳梗塞後遺症	1		

別表 (1)

地域別入退園者状況表

平成 30 年度

	区分 福祉名	前年度末 人員	本年度 入所人員	本年度 退所人員	本年度末 人員	性別		備 考
						男	女	
町 村 福 祉 関 係	志 免 町	1			1		1	
	上 陽 町							
	大 木 町							
	広 川 町		1		1	1		
	那 珂 川 町							
	星 野 村							
	矢 部 村							
	苅 田 町							
	筑 前 町							
	福 智 町							
	小 計	1	1		2	1	1	
市 福 祉 関 係	福 岡 市	1	1		2	1	1	
	北 九 州 市	2			2	2		
	大 牟 田 市	2	1		3	2	1	
	久 留 米 市	8	2	1	9	6	3	退園 (在宅へ移行)
	直 方 市							
	飯 塚 市							
	田 川 市	2			2		2	
	柳 川 市	5		1	4	2	2	退園(別施設へ入所)
	宗 像 市	1			1	1		
	八 女 市	2			2	1	1	
	筑 後 市							
	大 川 市	4		1	3	1	2	死亡退園
	小 郡 市							
	筑 紫 野 市	1			1	1		
	春 日 市	1			1		1	
	大 野 城 市							
	糸 島 市	1			1	1		
	山 田 市							
	行 橋 市							
	豊 前 市							
	中 間 市							
	古 賀 市							
	う き は 市	4			4	1	3	
朝 倉 市	2			2	2			
み や ま 市	1			1	1			
福 津 市								
	小 計	37	4	3	38	22	16	
	日 田 市							
	佐 賀 市							
	佐 賀 中 部							
	小 計	0	0	0	0	0	0	
合 計		38	5	3	40	23	17	

別表 (2)

週 生 活 表

千歳療護園

曜日	月	火	水	木	金	土	日
時間							
6:30	起床						
8:00	着替・洗面・移動 朝食						
9:00	移動・排泄・歯磨き (朝礼・申し送り) (寝具交換・掃除)						
9:30	入浴 (女性)	入浴 (男性)	入浴 (女性)	入浴 (男性)	入浴 (女性)	入浴 (男性)	園長懇談会 (月最終日曜日)
10:30	訓練	訓練	訓練	外出	外出	【生花】	
11:00	訓練	訓練	訓練	訓練	訓練		
12:00	昼食 移動・排泄・歯磨き						
13:30	入浴 (女性)	入浴 (男性)	入浴 (女性)	入浴 (男性)	入浴 (女性)	入浴 (男性)	
14:00	訓練	訓練	定期診察 療育会議 外出	訓練	外出 ちとせ会 職員懇談会	訓練	
15:00	訓練	訓練	訓練	訓練	訓練	訓練	
16:00			暖和会				
16:20	※ 入浴は、千歳と第二千歳を1ヶ月交代で午前と午後を入れ替えて実施						
17:00	夕食						
18:00	歯磨き (自立者一部)、後片付け、排泄 着替え、自由時間						
19:00	歯磨き						
20:00	消灯						
21:00							
	○月曜日 コミュニケーション会、工作活動 ○火曜日 定期診察(男女月1回)、DVD視聴、個別支援活動、ネイルボランティア(月1回) ○水曜日 療育会議(外部講師・カンファレンス・園長講義)暖和会(第2週)、DVD視聴活動、個別支援活動 利用者買物(月2回) ○木曜日 ちとせ会・職員懇談会(第2週)、カラオケ活動、レクリエーション活動(月1回) ○金曜日 DVD視聴活動、個別支援活動 ○土曜日 生け花(第3週)、個別支援活動 ○月行事 体重測定(第一日曜)、出張散髪(最終月曜日) 利用者と園長懇談会(最終日曜日) ○隔月 防災教育、避難訓練、味彩クラブ(給食会議)						

別表 (3)

年間実施行事記録表

平成 30 年度

月	日	行 事 等	月	日	行 事 等	
4	12	開園記念日 花見ドライブ	10	2	出張散髪	
	16	出張散髪		3	招待外出(ナイター野球観戦)	
	21	生け花		13	ゆうかり学園運動会	
	25	外出(吉井ユメマート)		16	ネイルボランティア	
	26	外出(吉井ユメマート)		20	生花	
	29	障害者スポーツ大会(博多の森)		11	7	買物外出(ゆめタウン久留米)
5	1	招待外出(サニックスラグビーユース)	8		ランチ外出(ゆめタウン久留米)	
	1	出張散髪	12		ランチ外出(ゆめタウン久留米)	
	14	外出(ゆめタウン久留米)	20		出張散髪	
	21	出張散髪	21		買物外出(ゆめタウン久留米)	
	22	ネイルボランティア	22		ネイルボランティア	
	25	外出(ゆめタウン久留米)	24	生花		
6	5	出張散髪	12	26	出張散髪	
	5	希望外出(宰府園)		4	出張散髪	
	13	招待外出(ナイター野球観戦)		13	うきは消防署指導避難訓練・餅つき慰問	
	14	レクリエーション大会		15	生け花	
	15	外出(ゆめタウン久留米)		17	出張散髪	
	16	生花		18	ネイルボランティア	
	18	出張散髪		21	忘年会	
	19	ネイルボランティア		1	15	ネイルボランティア
20	外出(ゆめタウン久留米)	17	生け花			
7	3	出張散髪	19		池坊花展	
	9	外出(ゆめタウン久留米)	28		出張散髪	
	21	生け花	2		3	慰問(ゆうやけ座)
	23	出張散髪			12	出張散髪
	26	盆踊り花火大会		13	買物外出(吉井ユメマート)	
31	外出(ゆめタウン久留米)	14		レクリエーション(豆まき)		
8	18	生け花		15	ランチ外出(ゆめタウン久留米)	
	21	出張散髪	18	買物外出(ゆめタウン久留米)		
	27	出張散髪	19	ランチ外出(善道寺回転ずし)		
	28	ネイルボランティア	23	生花		
	30	納涼祭	25	出張散髪		
9	4	出張散髪	3	5	出張散髪	
	7	招待外出(ナイター野球観戦)		16	出張散髪	
	19	カトレア会慰問		19	生花	
	22	生花		22	ネイルボランティア	
				25	買物外出(ゆめタウン久留米)	
				25	出張散髪	
		29	買物外出(ゆめタウン久留米)			

参) 実習生受け入れ状況

* 介護等体験実習(久留米大学、久留米工業大学、九州産業大学)

介護実習(平岡介護福祉専門学校)

学校名	実習期間	人数	日数
久留米工業大学	8月6日～8月9日	1	5
九州産業大学	9月3日～9月7日	1	5
久留米大学	9月3日～9月8日	1	5
	10月1日～10月5日	1	5
平岡介護福祉専門学校	5月14日～6月2日	2	5
	6月18日～6月19日	2	17

延べ人数 64名

別表(4)

日常生活動作の介護状況

生活動作	区分	男	女	計
食 事	自 立	4	1	5
	一部介助	11	11	22
	全介助	8	5	13
起 坐	自 立	5	5	10
	一部介助	2	8	10
	全介助	16	4	20
立ち上がり	自 立	1	1	2
	一部介助	6	6	12
	全介助	16	10	26
排 泄	自 立	3	1	4
	一部介助	2	7	9
	全介助	18	9	27
更 衣	自 立	4	1	5
	一部介助	1	3	4
	全介助	18	13	31
入 浴	自 立	0	0	0
	一部介助	3	1	4
	全介助	20	16	36
歩 行	自 立	1	0	1
	一部介助	0	1	1
	全介助	22	16	38
寝返り	自 立	7	7	14
	一部介助	3	4	7
	全介助	13	6	19
車椅子使用	自 立	5	3	8
	一部介助	4	7	11
	全介助	14	7	21

生活動作	区分	男	女	計	
夜間処遇	排便排尿	1回	2	1	3
		2回	5	4	9
		3回	5	8	13
		4回	6	3	9
		小計	18	16	34
	服 薬	1回	13	10	23
		2回	4	7	11
		3回	0	0	0
		小計	17	17	34
	体位変換	1回	3	2	5
		2回	2	0	2
		3回	0	0	0
		6回	0	0	0
		小計	5	2	7
おむつ使用	昼・夜	3	1	4	
	夜間のみ	3	3	6	

- ・食事⇒配膳された状態で、魚の骨取りも含む。
- ・排泄⇒排泄後の処置、女性は生理処理も含む。
- ・更衣⇒ホックなど、着脱が行ない易く改良した衣類を使用して。
- ・入浴⇒一部自立とは、浴槽の中に独力で入っていることが出来たり、洗体の一部が出来る事。

(5) 通所援助課

平成31年3月31日現在の、支援センター利用契約者様は13名で、内訳は下記の通りである。

久留米市	7名
うきは市	5名
朝倉市	1名

※朝倉市からの利用者様が1名褥瘡による長期入院をされているが、通所の契約はご家族様の意向もあり継続している。

今年度は、延べ 1,365名の方が利用され、1日平均5.6名の利用があった。内訳は下記の通りである。

久留米市	635名
うきは市	695名
朝倉市	35名

延べ利用人数は前年と比較すると101名の減となった。新規で4名の利用者様に契約をするも、入所になられる方や入院で増減の波があった。

利用者様の状況として、東部支援基幹センター、夢の紀の情報提供もあり、新規の契約者が年間を通してあり平均で1日当たりの利用は安定してきた。また、特別支援学校の実習を受けることで、卒業後の通所利用希望が増えてきた。現在、契約者様が13名で現在18歳から66歳(男性6名女性7名)の方が利用している。

☆障害支援区分、主たる起因疾患別年齢表は、別表(A)の通りである。

☆月別・市別利用者数表は、別表(B)の通りである。

活動においては、制作・創作活動(掲示物制作や季節の飾り物、習字など)や誕生会、四季外出、個別的機能訓練、なぞなぞクイズやトランプなどを実施した。

毎年恒例となっている年賀貼り絵の制作は今年も干支の猪を利用者様全員で綿棒と段ボールを使用しての絵画作りを行った。完成した作品は、1月の耳納学園の展示即売会会場に展示、その後は通所援助課の玄関に展示し利用者様や来客の方々に楽しんで頂いている。

現在利用されている利用者様やご家族の希望として入浴が多く、入浴を午前と午後に分けるなどして、入浴を中心にドライブ外出や活動を行った。入浴も満足して頂き外出では、気分転換を図って喜んで頂いた。
法人の各行事（夏祭り）にも積極的に参加頂いた。

日中活動の支援内容

○身体介護 食事、入浴、排泄、移動、移乗介助

○創作的活動、文化的活動、社会適応訓練（個別活動・グループ活動）

<手工芸>

- 折り紙細工 花 小物 輪飾り
- 小物づくり キーホルダー
- 造形 紙、布、ボタン、テープや毛糸、木の実など様々な材料を利用
- ジグソーパズルなど

<習字、読み、書き> 毛筆、読み書き練習、作詞 詩

<制作> 貼り絵 自由画、ぬり絵、折り紙制作など

<外出> ドライブ、花見、初詣、買い物など

○機能訓練

日常生活動作訓練、四肢他動・抵抗運動、器具運動、積み木、紐通しなど

○スポーツ、趣味娯楽活動

ポケネット、輪投げ、ナンバーストライク、 玉入れ、トランプ、オセロ、おはじき、合唱・楽器演奏、DVD鑑賞など

○更生相談

利用者様の要望や必要に応じて医療、福祉、介護等の相談を行っている。

別表 (A) 平成 30 年度

障害程度区分表

千歳療護園 通所援助課

年齢 \ 区分	2	3	4	5	6	計
19 歳以下					1	1
20～29				1	3	4
30～39						0
40～49		1	2		2	5
50～59						0
60～64				1	1	2
65 歳以上		1				1
計		2	2	2	7	13

主たる起因疾患別年齢表

病名 \ 年齢	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	(f)	(g)	(h)	(i)	計
	脳性麻痺	脳血管障害	脊髄損傷	頭部外傷	特定疾病	特定疾患	リウマチ	進行性筋萎縮症	その他	
(1) 19 歳以下	1									1
(2) 20～29	3								1	4
(3) 30～64	2	1			1				2	6
(4) 65 歳以上		1							1	2
計	6	2			1				4	13

別表 (B) 平成 30 年度 月別・市別利用者数表

千歳療護園 通所援助課

月	利用 日数	利用 者数	1 日 平均
4	20	116	5.8
5	21	112	5.3
6	21	120	5.7
7	21	122	5.8
8	20	115	5.7
9	18	108	6
10	21	124	5.9
11	21	122	5.8
12	19	110	5.7
1	19	103	5.4
2	19	105	5.5
3	20	108	5.4
計	240	1,365	5.6

月	久留米市			うきは市			朝倉市		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
4	18	28	46	32	38	70	0	0	0
5	15	26	41	32	39	71	0	0	0
6	21	30	51	34	35	69	0	0	0
7	20	28	48	34	40	74	0	0	0
8	21	27	48	32	35	67	0	0	0
9	16	28	44	27	32	59	5	0	5
10	18	44	62	18	36	54	8	0	8
11	20	45	65	13	36	49	8	0	8
12	18	43	61	9	34	43	6	0	6
1	16	37	53	12	30	42	8	0	8
2	17	43	60	12	33	45	0	0	0
3	20	36	56	18	34	52	0	0	0
計	220	415	635	273	422	695	35	0	35

平成 30 年度 出張報告

日付	出張用件	出張先	参加数
4/17	社会福祉施設協議会連絡会 第1回「会長会議」	東京都	1名
4/19	九障協 第1回定例理事会	鹿児島県	1名
4/23～24	身障協 第1回正副会長会議及び第1回常任協議委員会	東京都	1名
4/26	県経営協 第1回総務委員会	春日市	1名
4/29	福岡県身体障がい者体育大会	福岡市	1名
5/6	社会福祉法人新生会 創立35年記念式典	青森県	1名
5/9～10	九障協 第1回サービス向上委員会	福岡市	2名
5/11～12	九社連 第1回委員会	熊本県	1名
5/11・18	県青年経営者会セミナー	福岡市	1名
5/15～17	社会福祉施設協議会連絡会 第2回「会長会議」	東京都	1名
	身障協 第1回協議員総会		
5/15・24	社会福祉施設 役職員研修新任職員研修及び基礎研修	春日市	1名
5/24	福障協 第1回幹事会及び第1回施設長会	春日市	1名
5/21	県経営協 第1回 協議委員会	春日市	1名
5/31～6/4	社会福祉復興・試験センター 通常理事会	東京都	1名
	全社協 第1回理事会		
	テクノエイド協会 第1回理事会		
6/6・20	社会福祉施設 役職員研修新任職員研修及び基礎研修	春日市	1名
6/8	県社協 理事会	春日市	1名
	久留米市集団指導 介護保険制度(通所)	春日市	1名
6/11	福岡県障がい者スポーツ協会 第1回理事会	春日市	1名
	久留米市集団指導	久留米市	1名
6/13	久留米市集団指導	福岡市	1名
6/18	社会福祉復興・試験センター 臨時理事会	東京都	1名

6/19	社会福祉施設協議会連絡会 第3回 「会長会議」	東京都	1名
	全社協 第1回障害関係種別協議会等会長会議		
6/20	九障協 第2回理事会 ・ 第1回総会	福岡市	1名
6/20～21	九障協 施設長・リーダー職員研修会	福岡市	4名
6/21	久留米市保健所 第1回特定給食施設等研修会	久留米市	1名
6/22～23	福利厚生センター 定時評議員会	東京都	1名
6/25	県社協 ストレスマネジメント研修	春日市	1名
6/26	福岡県社会福祉会 サービス管理責任者研修(前期)	春日市	1名
	身障協 第1回正副会長・委員長会議及び厚生労働省との意見交換	東京都	1名
6/27	社会保障審議会障害者部会	東京都	1名
7/5	県身障協 第1回施設長・職員研修会	大牟田市	2名
7/9～10	久障支援運営委員会 強度行動障害支援者養成研修 基礎研修	久留米市	1名
7/11	福障協 筑後ブロック施設長会	久留米市	2名
7/12・19	県社会福祉協議会 会計担当者研修 初任者コース入門編	福岡市	1名
7/19・20・24・26	福岡県社会福祉会 介護福祉士実習指導者講習会	春日市	1名
7/24～25	福岡県社会福祉会 サービス管理責任者研修(前期)	春日市	1名
7/17	社会福祉施設協議会連絡会 第4回 「会長会議」	東京都	1名
7/20～21	第20回 ありのまま自立大賞授賞式	宮城県	1名
7/27	全国経営協 ブロック会議	福岡市	1名
7/30	全社協 第2回常任協議委員会	大阪府	1名
7/31～8/1	全国身体障害者施設協議会研究大会	大阪府	4名
8/6～7	県社協 福祉職員キャリアパス対応生涯研修 チームリーダーコース	春日市	1名
8/6～8	福障協 第1回筑後ブロック施設間職員研修	筑後市	1名
8/21	社会福祉施設協議会連絡会 第5回 「会長会議」	東京都	1名
	第2回障害関係種別協議会等 会長会議		
8/22～23	県社協 福祉職員キャリアパス対応生涯研修 管理職員コース	春日市	1名

8/23	県社協 社会福祉大会 第1回運営委員会	春日市	1名
	県社協 労務管理研修	春日市	1名
8/27	公明党 政策要望懇談会	福岡市	1名
	社会福祉法人 経営者セミナー	福岡市	1名
8/30~31	福岡県相談支援従事者 初任者研修	北九州市	1名
8/31	福岡県との意見交換会	福岡市	1名
9/3	県社協 福祉サービス苦情解決従事者研修会	大野城市	1名
9/11	制度予算対策委員会	東京都	1名
9/13	身障協 第2回正副会長会議及び厚生労働省との意見交換会	東京都	1名
9/19~21	九障協 第3回定例理事会	長崎県	1名
	九州身体障害児者施設研究大会		3名
9/25	社会福祉施設協議会連絡会 第6回「会長会議」	東京都	1名
9/26~27	福岡県相談支援従事者 初任者研修	福岡市	1名
9/26~28	身障協東北ブロック 身体障害者施設職員研修会	岩手県	1名
10/2~4	全社協 福祉懇談会及び講演会	東京都	1名
10/3	久留米市保健所 高齢者施設における感染症予防研究会	久留米市	1名
10/7~9	北海道胆振東部地震により被災した施設等への訪問	北海道	1名
10/10	アンガーマネジメント研修	春日市	1名
	九障協 第2回サービス向上委員会	熊本県	2名
10/10~12	身障協中・四国ブロック 身体障害者施設職員研修会	広島県	1名
10/11~12	九障協 サービス提供職員研修会	熊本県	3名
10/16	久留米市 新入社員スキルアップ研修	久留米市	1名
	社会福祉施設協議会連絡会 第7回「会長会議」	東京都	1名
10/22	県社協 福岡県福祉大会	福岡市	2名
10/23	身障協 第3回正副会長会議及び厚生労働省との意見交換会	東京都	1名
	全社協 第3回常任協議委員会		
10/24	社会保障審議会障害者部会	東京都	1名

10/29	県経営協 会計・財務初任者研修	福岡市	1名
10/30	県経営協 会計・財務セミナー	福岡市	1名
10/30～31	身障協 地域生活支援推進研究会議	東京都	2名
	県社協 コーチング研修	春日市	1名
11/2	福岡県相談支援従事者 初任者研修	福岡市	1名
11/12～13	全社協 理事会	東京都	1名
11/15	福利厚生センター 評議員会	東京都	1名
11/16	福障協 職員研修会	宗像市	4名
11/16～17	社会福祉法人恵寿会 理事長ご葬儀	島根県	1名
11/21～22	社会福祉施設協議会連絡会 第8回「会長会議」	東京都	1名
	全国社会福祉大会		
11/26～27	身障協 職員スキルアップ研修	神奈川県	1名
11/28	応研 年末調整セミナー	福岡市	1名
12/2～4	福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 上級管理者研修会	東京都	1名
12/3	身障協 正副会長・委員長会議	東京都	1名
12/7	福障協筑後ブロック 施設長会	筑後市	2名
12/8	久留米市 障害者虐待防止研修	久留米市	1名
12/11	全国身体障害者施設協議会研究大会 第1回実行委員会	北九州市	1名
	福障協 幹事会・第3回定例施設長会		
12/12～14	身障協 正副会長会議及び厚生労働省との意見交換会	東京都	1名
	全社協 常任協議員会		
	社会保障審議会障害者部会		
12/18	社会福祉施設協議会連絡会「会長会議」	東京都	1名
1/8～9	全社協 障害者虐待防止リーダー職員研修会	東京都	1名
1/17～18	テクノエイド協会「福祉用具」関係者新年交流会	東京都	1名
	北尾慶子さんを偲ぶ会		
1/22	社会福祉施設協議会連絡会「会長会議」	東京都	1名
	第4回障害関係種別協議会等会長会議		

2/5～6	福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 中堅職員コース	春日市	1名
2/5～8	強度行動障がい支援者養成研修	春日市	1名
2/9	鹿児島県 太陽の里療護園前理事長ご葬儀出席	鹿児島県	1名
2/13	久留米市 養介護施設従事者等による高齢者虐待防止研修	久留米市	1名
	九障協 第5回定例理事会・総会	熊本県	1名
2/14～15	九障協 研究大会	熊本県	4名
2/19	社会福祉施設協議会連絡会「会長会議」	東京都	1名
2/19～20	県社協 福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 初任者研修	春日市	1名
2/21～22	社会保障審議会障害者部会	東京都	1名
2/22	全国身体障害者施設協議会研究大会 第2回実行委員会	福岡市	1名
2/24～25	北海道胆振東部地震被災施設「厚真リハビリセンター」の視察	北海道	1名
2/27	テクノエイド協会 第5回理事会	東京都	1名
3/1	福岡県障がい者スポーツ協会 理事会	春日市	1名
3/4～5	身障協 正副会長会議	東京都	1名
	全社協 常任協議員会		
3/10	全社協 理事会 東日本大震災追悼式典	東京都	1名
	東日本大震災追悼式典		
3/12	県身障協 第2回施設長・職員研修会	春日市	2名
3/14～15	身障協 協議員総会 経営セミナー	東京都	3名
3/19～20	社会福祉施設協議会連絡会「会長会議」	東京都	1名
	社会福祉振興・試験センター 通常理事会		
3/28	福障協 幹事会・定例施設長会	春日市	1名

第二千歳療護園

《概況》

今年の新語・流行語大賞の年間大賞は、平昌オリンピックカーリング女子日本代表の「そだねー」、また、今年の漢字は「災」が選ばれたほど災害の脅威が各地を襲った年だった。しかし、幸いにもゆうかり学園法人全体には大きな影響を受けることは無かったが、猛暑が続き熱中症予防のために、盆踊り・花火大会や大運動会は時間を短縮した。災害については、被災を最小限にできる火災などの被害を出さないとする「防災」と、台風・地震など天災での被害を最小限にとどめる「減災」について災害時事業継続計画に取り組んでいく必要がある。

さて、昨年から障害福祉サービス等報酬改定の基本的な方向性が出されていたが、障害福祉サービス等報酬改定・予算編成に関する大臣折衝結果が公表されている。その中には(1)消費税引き上げに伴う障害福祉サービス等報酬改定 +0.44% (2)新しい経済政策パッケージに基づく障害福祉人材の処遇改善 国費 90 億円程度があり、それには勤続年数 10 年以上の 8 職種(介護福祉士、社会福祉士、精神保健福祉士、保育士、心理指導担当職員(公認心理師含む)、サービス管理責任者、児童発達支援管理責任者、サービス提供責任者)の職員の数算定根拠としている。

障害福祉人材の処遇改善は、離職予防と確保が考えられる。少子高齢化のなか働く人口の減少は免れることはできない動向となっており、職員を確保するため負担を軽減するためのノーリフト運動もその一つであり、福祉用具「ロボット」への導入が重要視されてきている。

一方、障害者福祉施設従事者等による障害者虐待について、前年度比で、相談・通報件数、虐待判断件数が増加しているなか、第二千歳療護園では外部研修に参加したり当施設の権利擁護委員によるアンケート調査や伝達講習を実施し、事例を出すことは無かったが、仕事に対するストレスは必ずと言って良いほどついてくるものである。虐待の原因はこれだけではないが、いつ我が身に起こるか分からない問題であり、今後も気を引き締め取り組んで行かなければならない。

また、より安心・安全な生活を提供するために、今年度も職員通用出口に暗証番号ドアロックを設置するとともに、通報ボタンを押すことで直ちに警察本部の 110 番指令室につながり、通報場所・所在地・非常事態の発生を自動的に通報する「110 番非常通報装置」を設置している。

利用者様へ、より充実した生活を提供するためにも、昨年に引き続き今年も 1、利用者の長期入院ゼロ 2、職員の離職者ゼロ 3、経営への無関心ゼロ、に取り組んだ。

<第二千歳療護園 総務課>

1. 本年度の各事業別利用状況

【施設入所支援：定員 40 名】

年間延べ利用者数 14,595 名 利用率 99.9%

【生活介護：定員 40 名】

年間延べ利用者数 10,397 名 利用率 99.9%

【短期入所：定員 2 名】

年間延べ利用者数 68 名

【日中一時支援】

利用なし

【入院・外泊者について】

7名の利用者様が延べ240日間の入院、また外泊日数は延べ48日間となっており、入院日数や外泊日数を除く実利用者数は14,307名で97.9%の充足率であった。

尚、平成31年3月31日現在の入院者数は1名である。

【入所・退所】

平成31年2月28日付で1名の利用者様が退所された。

平成31年3月6日付で1名の利用者様が入所されている。

2. 本年度の地域別入退園状況は別表(1)の通りである。

別表(1) 本年度の地域別入退園状況

(1) 生活援助課

(パートナー係)

個別支援計画のニーズを中心に利用者様の立場に立った利用者様本位のサービス提供を基本において、月1回の自治会役員の方との話し合い(暖和会)や園長との懇談会、職員との懇談会、利用者様の話し合いの場(ちとせ会)を通して、利用者

様の自主性・選択性・対等性を尊重しながらサービス提供を行ってきた。

利用者様のニーズとして最も多い外出行事に関しては、ゆめタウン久留米や吉井ユメマートへ買物を中心とした外出を毎月計画してきた。利用者様からの希望にて昨年度より実施してきた外出先で昼食を食べ、食後にゆっくりと買い物を楽しんでいただく外出に加え、昼食をメインとした短時間でのランチ外出も計画し、利用者様も大変喜ばれていた。希望外出では利用者様の趣味として行っている短歌会や生け花の花展や身体障害者スポーツ大会に参加していただく等、利用者様の希望に沿った外出をしていただいた。買物外出やランチ外出、希望外出以外にも、有償の外出サービスを利用される方も増えてきており、利用者様から利用の希望が出た時には事業者と外出日時などの連絡調整を行ってきた。

日中活動として午後よりビデオ視聴やカラオケ、月1回のレクリエーション、書初めや壁面飾りなどの制作活動等を実施してきた。また日中活動と並行してケース担当者が担当利用者様とマンツーマンで居室整理や運動公園への散歩、テレビゲームや塗り絵、オセロなどを個別活動として行い、日中活動の充実を図ってきた。

月1回の生け花では季節の美しい花を生け、千歳、第二千歳に飾っている。ネイルアートでは1回に4名程度と少人数ではあるが、爪を鮮やかな色彩で飾っていただいた利用者様は皆とても嬉しそうな笑顔をみせている。理容師と美容師の方に毎月来園して頂き、出張散髪として理容師の方には主に男性利用者様を、美容師の方には女性利用者様の散髪をして頂いている。

今年度も7月に平成最悪の人的被害で220名以上の死者を出し、西日本の各地を襲った記録的な豪雨、9月には四国、近畿地方を縦断して大きな被害をもたらした台風21号、北海道の胆振地方を震源とする厚真町で震度7、死者41名をだした大地震が発生し、毎年のように日本各地で天災による被害がでており、福祉施設も大きな被害を受けている。今後、地震や台風などの天災に遭遇しても利用者様の安全、安心した生活を送って頂くために施設として減災、そして防犯への十分な対策をしていかなければならないと考えている。

☆ 週生活表は別表(2)、年間実施行事は別表(3)の通りである。

(サポート係)

施設入所支援40名、生活介護40名、短期入所2名。現在、男性23名、女性17名(退園1名:入園1名)(最少年齢32歳、最高年齢86歳、平均年齢57歳)の方の日常の生活介護・精神的支援、個別のニーズに沿った支援を行った。

今年度も、サービス管理責任者を中心に、利用者様の自立支援を目標に、ケアプランの作成・実施・検討を行いながら日々の支援を行った。監査指導にて、ケアプ

ランの見直しは利用者様の誕生日に行うよう指導を受け、見直しを行っている。

今年度、第二千歳療護園は開設5年目を迎え、利用者様の平均年齢も57歳を超え、加齢に伴い身体の機能低下も著しく見られ、介護や医療を必要とする場面が多くなって来ている。健康維持(誤嚥性肺炎予防など)を目的とした口腔ケアの実施を継続して行っていることからか、誤嚥性肺炎での入院はゼロであった。

利用者様への防犯面として、2月に非常通報装置をサポート室に設置し不審者侵入時に適切な対応が出来るよう強化した。

福岡県障害者支援施設協議会筑後ブロック6施設に於いて、介護職員限定で実践を通し、職員の資質、サービスの向上に努めるとともに職員同士の交流を深め、各々の施設の支援力アップを目指すことを目的に、第1回施設間研修が行われた。内容は、各施設の現場で直接3日間研修するものだった。今年度は浩明寮より研修生を受入れ、また、慈久園へ研修に行っている。

職員の腰痛・離職問題についても、各施設の事例報告や施設見学等で得た情報などを参考にしながら、ノーリフトケアに向けた取り組みを行っている。

入浴支援に関しては、開設時より、千歳療護園、第二千歳療護園の職員がお互い協力し合い行ってきたが、年数が経つにつれ利用者様の加齢等に伴う身体状況の変化や、新任職員が利用者様の状態把握が出来にくいこと、また、一番の要因として、職員が行き来し直接接触することで感染症の拡大につながる可能性があることなどから、10月より単独入浴での試行を重ねた結果、利用者様からも「ゆっくり入れて気持ちがいい」等の感想も頂き、平成31年1月より完全移行を前提に継続している。

権利擁護・障害者虐待防止法・障害者差別解消法についても、更なる取り組みが重要視されている中、インカムの使用を継続し、完全な同性介助の実現に向け努力している所である。

個別支援への取り組みについては、昨年度同様、日中活動委員会を中心に、漠然と日々を過ごすことの無いよう、『利用者様の充実した日中活動を支援する』をテーマに継続的に計画・支援を行なった。今年度、日中活動スケジュール表を廊下の分かりやすい位置に設置しており、利用者様からも「わかりやすい」と好評を得ている。外出では、一日外出とランチ外出を新たに取り入れ気軽に外出が行えるよう支援を行った。

今後も多様化してくる利用者様のニーズに応えるべく、全職員で支援に取り組んで行きたい。

(2) 訓練援助課

第二千歳療護園においては、利用者様 40 名（男性 23 名・女性 17 名）に対し、理学療法士 1 名（兼任）・機能訓練員 2 名で訓練を実施した。

利用者様一人あたり一回の訓練時間を 40 分とし、身体状況によって週 1~2 回実施。個別に関わり、状況に応じて居室を使用し、充実した訓練内容となるよう援助を行った。

訓練内容については、利用者様の身体的状態・高齢化に伴い、主に体力・筋力・バランス能力の維持、残存機能の維持、関節可動域の維持、拘縮の予防、痛みの軽減等を目的として実施している。訓練を行いながら利用者様の思いや不満を傾聴することで、ストレスの解消や情緒の安定にも務めている。また利用者様の希望される、折り紙や塗り絵等の制作活動や、バッティング、キャッチボールといった体を動かす活動、オセロやトランプ、パソコン（インターネット検索）等の趣味活動、散歩（屋内外）などを行うことで、訓練時間をより楽しいものと感じていただけるよう関わり、訓練への参加意欲向上を図った。訓練時間が利用者様の日常生活において、変化や刺激となる時間を過ごせるように心掛けている。実施内容については下記の通りである。

また例年に引き続き、車椅子管理をはじめ、補装具の交付手続き 3 名、修理申請手続き 5 名、福祉用具購入 3 名等についても実施した。

(訓練内容)

- 関節可動域訓練
- 体力、筋力、バランス能力訓練
(腕立て、腹筋、背筋、スクワット、チューブトレーニング等)
- 巧緻動作訓練(紐通し、パズル、はめ絵、塗り絵、折り紙等)
- 姿勢保持訓練(立位、座位バランス等)
- 日常生活動作訓練(車椅子移動、移乗動作等)
- 歩行訓練(歩行器歩行)
- 趣味活動(スキルスクリーン制作、バッティング、ゲーム、パソコン等)
- リラクゼーション(マッサージ、プロンキーパー等)

(3) 生活部相談援助課

《概況》

平成 30 年度も、日本各地で記録的な豪雨となった。久留米市においては、7 月 5 日から 7 日にかけて断続的に雨が降り、土砂災害や浸水害の被害が発生したが、幸いにも当施設は被害を受けることは無かった。

相談援助課は、両施設兼務での業務を継続した。一般生活援助業務（食事、入浴、排泄、移動等）で関わりを深めながら利用者様お一人おひとりの一日の生活の流れ、身体面、精神面、対人面などを把握することに努めた。また、利用者様一人ひとりと個別活動や集団活動を通してコミュニケーションを図り、更なる信頼関係の構築にも努めた。

そして、情緒の安定を目的として行ってきた読み聞かせの活動を継続で実施し、前頭前野の活性化を図るためにカードのインプット等にも取り組んだ。

また、散歩をするには絶好の環境であるため、気分転換・ストレス解消・多くの方との触れ合い等を目的に敷地内や隣接の運動公園で活動を行った。

移転後 5 年目を向かえ、生活の中での新たな問題点を汲み取るために、各居室に出向いた折に、以前以上にコミュニケーションを密にとるよう配慮した。

今後も、利用者様の高齢化に伴う身体機能、精神活動の低下を、他の部署と連携を取りながら、快適な生活で過ごせるように支援したい。

(援助内容)

- ①面談活動（カタルシス）
- ②散歩療法（発散、リフレッシュ）
- ③表現療法（遊び活動、自己表現、生きがい、興味拡大、信頼関係）
- ④ポジショニング（リラクゼーション、慢性痛の軽減、QOL の拡大等）
- ⑤前頭前野活性化法（読み聞かせ、公文カード、ドリル等）
- ⑥介護全般
- ⑦メンタルヘルス（ドライブ外出、カウンセリング）
- ⑧環境整備、その他

(4) 生活部看護課

障害者支援施設に於て利用者様の高齢化に伴い、障害の重度化・重複化・疾病

の多様化により、園内で医療行為を必要とする利用者様が徐々に増加する傾向であり協力病院との連携が必要不可欠な状況です。

利用者様の健康管理・衛生管理を行いサービス向上に努めています。

《平成 30 年度》

① 委託入院 田主丸中央病院 10 件

② 医療的ケア

経管栄養（胃瘻）	2 名
吸引	1 名
吸入	2 名
注腸	1 名
膀胱瘻	1 名
バルーン管理	1 名
皮下注射	1 名

③ インフルエンザ予防接種 37 名

④ 第二千歳療護園 年齢別入所者数 平成 31 年 3 月 31 日現在

年齢	30 歳未満	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳以上	計
利用者数	0	1	5	18	8	8	40
%	0	2.5	12.5	45	20	20	100

⑤ 第二千歳療護園 病類別入所者数 平成 31 年 3 月 31 日現在

病 名	人数	病 名	人数
脳性麻痺	29	脳梗塞後遺症	2
先天性骨発育不全症	1	頭部外傷後遺症	1
高血圧性脳出血	1	糖尿病	1
脳炎後遺症	1	脳出血後遺症	1
白内障術後無水晶体眼・左眼球萎縮	1	精神発達遅滞	1
クーゲルベルグ・ヴェランダー病	1		

別表(1)

地域別入退園者状況表

平成30年度

	区分 福祉名	前年度末 人員	本年度 入所人員	本年度 退所人員	本年度末 人員	性別		備 考
						男	女	
町 村 福 祉 関 係	志 免 町							
	上 陽 町							
	大 木 町	2			2	1	1	
	上 毛 町	1			1	1		
	那 珂 川 町							
	星 野 村							
	矢 部 村							
	苅 田 町	1			1	1		
	筑 前 町	1			1	1		
	福 智 町	1			1		1	
小 計	6			6	4	2		
市 福 祉 関 係	福 岡 市	3			3	2	1	
	北 九 州 市	1			1	1		
	大 牟 田 市			1				
	久 留 米 市	10	1		10	5	5	
	直 方 市							
	飯 塚 市	2			2	1	1	
	田 川 市							
	柳 川 市	1			1		1	
	宗 像 市							
	八 女 市	1			1	1		
	筑 後 市							
	大 川 市	1			1	1		
	小 郡 市	1			1		1	
	筑 紫 野 市	2			2	1	1	
	春 日 市							
	大 野 城 市							
	糸 島 市							
	山 田 市							
	行 橋 市							
	豊 前 市							
中 間 市								
古 賀 市								
う き は 市	5			5	2	3		
朝 倉 市	4			4	3	1		
み や ま 市	3			3	2	1		
福 津 市								
小 計	34	1	1	34	19	15		
県 外	鳥 栖 市							
	日 田 市							
	佐 賀 市							
	佐 賀 中 部							
小 計								
合 計		40	1	1	40	23	17	

別表 (2)

週 生 活 表

第二千歳療護園

曜日	月	火	水	木	金	土	日
時間							
6:30	起床						
8:00	着替・洗面・移動 朝食						
9:00	移動・排泄・歯磨き (朝礼・申し送り) (寝具交換・掃除)						
9:30	入浴 (女性)	入浴 (男性)	入浴 (女性)	入浴 (男性)	入浴 (女性)	入浴 (男性)	園長懇談会
10:30	訓練	訓練	訓練	外出	外出	【生花】	
11:00	訓練	訓練	訓練	訓練	訓練		
12:00	昼食 移動・排泄・歯磨き						
13:30	入浴 (女性)	入浴 (男性)	入浴 (女性)	入浴 (男性)	入浴 (女性)	入浴 (男性)	
14:00	訓練	訓練	定期診察 療育会議 外出	訓練	外出 ちとせ会 職員懇談会	訓練	
15:00	訓練	訓練	訓練	訓練	訓練	訓練	
16:00		暖和会					
16:20							
17:00	※ 入浴は、千歳と第二千歳を1ヶ月交代で午前と午後を入れ替えて実施						
18:00	夕食 歯磨き (自立者一部)、後片付け、排泄						
19:00	着替え、自由時間						
20:00	歯磨き (介助者) 歯磨き (自立者)						
21:00	消灯						
	○ 月曜日	○ 火曜日	○ 水曜日	○ 木曜日	○ 金曜日	○ 土曜日	○ 日曜日
	ビデオ視聴・個別活動・製作活動・ドライブ外出・レクリエーション (月～土)	利用者買物(隔週) ネイルボランティア (毎月1回) 暖和会(第2週)	買物外出、療育会議(外部講師・カンファレンス・園長講義)	買物外出、ちとせ会・職員懇談会(第2週) 午後カラオケ	ビデオ視聴・個別活動・制作活動・ランチ外出・レクリエーション	生け花(第3週)	体重測定 (第2日曜)
	○ 月行事	出張散髪(第一週火曜日、最終月曜日)、園長との懇談会(水曜日又は木曜日)					
	○ 隔月	防災教育、避難訓練、味彩クラブ(給食会議)					

別表 (3)

年間実施行事記録表

平成 30 年度

月	日	行 事 等	月	日	行 事 等	
4	2	花見外出	10	2	出張散髪	
	3	花見外出		3	招待外出(ナイター野球観戦)	
	16	出張散髪		13	ゆうかり学園運動会	
	21	生花		16	ネイルボランティア	
	24	外出(吉井ユメマート)		20	生花	
	29	障害者スポーツ大会(博多の森)		11	7	買物外出(ゆめタウン久留米)
5	1	招待外出(サニックスラグビーユース)	8		ランチ外出(ジョイフル善導寺)	
	1	出張散髪	11		しきなみ短歌勉強会	
	5	希望外出(宗像へ同窓会)	12		ランチ外出(ジョイフル善導寺)	
	6	希望外出(マリンメッセ福岡)	20		出張散髪	
	14	外出(ゆめタウン久留米)	21		買物外出(ゆめタウン久留米)	
	19	生花	22		ネイルボランティア	
	22	ネイルボランティア	24		生花	
	25	買物外出(吉井ユメマート)	26	出張散髪		
6	11	買物外出(ゆめタウン久留米)	12	4	出張散髪	
	13	招待外出(ナイター野球観戦)		7	うきは消防署指導避難訓練・餅つき慰問	
	16	生花		15	生け花	
	18	出張散髪		17	出張散髪	
	19	ネイルボランティア		18	ネイルボランティア	
	14	レクリエーション大会		21	忘年会	
	16	生花	1	15	ネイルボランティア	
	18	出張散髪		17	生け花	
	20	外出(ゆめタウン久留米)		19	池坊花展	
				28	出張散髪	
7	7	出張散髪	2	3	慰問(ゆうやけ座)	
	9	買物外出(ゆめタウン久留米)		12	出張散髪	
	21	生花		13	買物外出(吉井ユメマート)	
	26	盆踊り花火大会		15	ランチ外出(ジョイフル善導寺)	
	31	買物外出(ゆめタウン久留米)		18	買物外出(ゆめタウン久留米)	
8	9	第二千歳開園記念日・出張散髪	3	19	ランチ外出(山小屋ラーメン)	
	18	生花		23	生花	
	21	出張散髪		25	出張散髪	
	26	ネイルボランティア		5	5	出張散髪
	30	納涼祭			16	生花
9	4	出張散髪	19		ネイルボランティア	
	7	招待外出(ナイター野球観戦)	22		買物外出(ゆめタウン久留米)	
	22	生花	25	出張散髪		
			26	買物外出(ゆめタウン久留米)		
			29	買物外出(ゆめタウン久留米)		

参) 実習生受け入れ状況

* 介護実習(平岡介護)・介護等体験実習(久留米大学、久留米工業大学)

学校名	実習期間	人数	日数
久留米工業大学	6月25日～6月29日	1	5
	8月6日～8月10日	1	5
	9月10日～9月14日	1	5
久留米大学	9月13日～9月20日	1	5
平岡介護福祉専門学校	11月20日～12月11日	2	18

延べ人数 56名

別表(4)

日常生活動作の介護状況

生活動作	区分	男	女	計
食 事	自 立	2	1	3
	一部介助	11	11	22
	全介助	10	5	15
起 坐	自 立	8	4	12
	一部介助	1	1	2
	全介助	14	12	26
立ち上がり	自 立	3	2	5
	一部介助	4	2	6
	全介助	16	13	29
排 泄	自 立	1	1	2
	一部介助	7	3	10
	全介助	15	13	28
更 衣	自 立	3	2	5
	一部介助	5	2	7
	全介助	15	13	28
入 浴	自 立	0	0	0
	一部介助	3	2	5
	全介助	20	15	35
歩 行	自 立	1	0	1
	一部介助	1	2	3
	全介助	21	15	36
寝返り	自 立	10	5	15
	一部介助	2	2	4
	全介助	11	10	21
車椅子使用	自 立	4	2	6
	一部介助	7	9	16
	全介助	10	5	16

生活動作	区分	男	女	計	
夜間処遇	排便排尿	1回	3	3	6
		2回	4	7	11
		3回	7	5	12
		4回	5	2	7
		計	19	17	36
	服 薬	1回	13	9	22
		2回	6	8	14
		3回	0	0	0
		計	19	17	36
	体位変換	1回	1	0	1
		2回	0	0	0
		3回	0	0	0
		6回	0	1	1
		計	1	1	2
	おむつ使用	昼・夜	13	7	20
夜間のみ		1	3	4	

- ・食事⇒配膳された状態で、魚の骨取りも含む。
- ・排泄⇒排泄後の処置、女性は生理処理も含む。
- ・更衣⇒ホックなど、着脱が行ない易く改良した衣類を使用して。
- ・入浴⇒一部自立とは、浴槽の中に独力で入っていることが出来たり、洗体の一部が出来ること。

平成 30 年度 出張報告

日付	出張用件	出張先	参加数
4/17	福岡県身体障害者施設協議会 第1回研修員会	春日市	1名
4/23～24	韓国瑞林福祉院 韓国研修	韓国	2名
5/10・23	社会福祉施設役職員研修・新任職員研修	春日市	1名
5/11	福岡県青年経営者会セミナー	福岡市	1名
5/18	九州ブロック社会福祉法人経営青年会総会	福岡市	1名
5/24	福障協 定例施設長会	春日市	1名
5/28・6/11	社会福祉法人 役職員研修会	久留米市	1名
5/31・6/1	福岡県相談支援従事者 初任者研修	春日市	1名
6/13	平成30年度 集団指導	福岡市	1名
6/12・26	社会福祉施設役職員研修・基礎研修	春日市	1名
6/14	県社協 ストレスマネジメント研修	春日市	1名
6/20～21	九障協 施設長・リーダー職員研修会	福岡市	4名
7/5	県身障協 第1回施設長・職員研修会	大牟田市	3名
7/9～10	久障支援運営委員会 強度行動障害支援者養成研修 基礎研修	久留米市	1名
7/11	福障協 筑後ブロック施設長会	久留米市	2名
7/17・24	県社会福祉協議会 会計担当者研修 基礎研修	福岡市	1名
7/31～8/1	全国身体障害者施設協議会研究大会	大阪府	3名
8/6～7	県社協 福祉職員キャリアパス対応生涯研修 チームリーダーコース	春日市	1名
8/8～10	福障協 第1回筑後ブロック施設間職員研修	みやま市	1名
8/16～21	社会福祉主事 スクーリング	神奈川県	1名
8/22～23	県社協 福祉職員キャリアパス対応生涯研修 管理職員コース	春日市	1名
8/23	県社協 労務管理研修	春日市	1名
8/27	社会福祉法人 経営者セミナー	福岡市	1名
9/3	県社協 福祉サービス苦情解決従事者研修会	大野城市	1名

9/20～21	九州身体障害児者施設研究大会	長崎市	3名
9/26～27	福岡県相談支援従事者 初任者研修	福岡市	1名
9/27	福障協 定例施設長会	春日市	1名
10/10	平成30年度 アンガーマネジメント研修	春日市	1名
10/11～12	九障協 サービス提供職員研修会	熊本市	2名
10/30～31	地域生活支援推進研究会議	東京	1名
10/30～31	県社協 コーチング研修	春日市	1名
10/30～31	介護福祉士実習指導者講習会	北九州市	1名
10/29	県経営協 会計・財務初任者研修	福岡市	1名
11/2	福岡県相談支援従事者 初任者研修	福岡市	1名
11/6～7	介護福祉士実習指導者講習会	北九州市	1名
11/13	福岡県サービス管理責任者研修	大野城市	1名
11/15・22	福岡県喀痰吸引等研修	久留米市	2名
11/15～16	福障協 職員研修会	宗像市	3名
11/28	応研 年末調整セミナー	福岡市	1名
11/30	ふくおかライフレスキュー事業フォローアップ研修	福岡市	1名
12/2～4	福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程上級管理者研修会	神奈川県	1名
12/5	福岡県喀痰吸引等研修	久留米市	2名
12/7	筑後ブロック 施設長会	筑後市	2名
12/8	久留米市障害者虐待防止研修	久留米市	1名
12/10	福岡県身体障害者施設協議会 第2回研修員会	春日市	1名
12/11	福障協 定例施設長会	北九州市	1名
12/21	社会福祉法人トップセミナー	福岡市	1名
1/8～9	障害者虐待防止リーダー職員研修会	東京	1名
1/23・24	福岡県サービス管理責任者研修	春日市	1名
1/28	県経営協 災害対策セミナー	福岡市	1名
2/5・6	福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程中堅職員コース	春日市	1名

2/5～8	強度行動障がい支援者養成研修	春日市	1名
2/6	福岡県喀痰吸引等研修	福岡市	1名
2/13～15	九障協 総会・九州障害者支援施設研究大会	熊本市	3名
2/13	久留米市養介護施設従事者等による高齢者虐待防止研修	久留米市	1名
2/19・20	福祉職員キャリアパス対応生涯研修 初任者コース	春日市	1名
2/19	ライフレスキュー久留米連絡会 定例会	久留米市	1名
3/12	県身障協 施設長・職員研修会	春日市	2名
3/14～15	全身障協 経営セミナー	東京	3名
3/19	病院向けBCP策定・運用研修	福岡市	1名
3/22	県経営協 社会福祉法人経営者セミナー	福岡市	1名
3/28	福障協 施設長会	春日市	1名

久留米市小児慢性特定疾病児童等自立支援事業

《概況》

慢性的な疾病にかかっていることにより、長期にわたり療養を必要とする児童等の健全育成及び自立促進を図るため、児童等及びその家族からの相談に応じ、必要な情報の提供及び助言を行い、関係機関との連絡調整を行うため、久留米市より委託された事業。

- ・実施期間 平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日
- ・看護師 2 名、社会福祉士 1 名の 3 人体制
- ・相談事業、10 月・11 月の更新申請の受付期間（各月 4 日間、8 日間）では、43 名の対象者と個別面談（支援員 2 名配置）その他に電話相談のうち、自立支援に関する相談は 0 件であった。レスパイトに関する相談が 2 件あった。
- ・ピアカウンセリングを 11 月「1 型糖尿病」、当事者を含む 7 名の参加があった。2 月「てんかん」について企画したが、参加者がなく実施できなかった。
- ・レスパイトの利用希望者はなかった。
- ・まとめ 本事業の委託を受け 3 年が経過、県内の定例会や自立支援研修会に参加することで疾患や家族会の取り組みを学習してきた。久留米市のアンケート調査では、就学、学習支援に関する悩みが多く、次いで就労に関する悩みが多い。今後はピアカウンセリング事業を通じてこの悩みに対応できる支援体制を構築していきたい。

《出張関係》

- ・小児慢性特定疾病児童等自立支援事業、第 5 回自立支援研修
6 月 7 日～8 日 看護師 1 名
- ・小児慢性特定疾病児童等自立支援事業 地域関係者向け研修会
7 月 25 日 看護師 2 名
8 月 9 日 看護師 2 名
8 月 23 日 看護師 1 名
社会福祉士 1 名
- ・小児慢性特定疾病児童等自立支援事業、第 6 回自立支援事業
1 月 24～25 日 看護師 1 名
- ・平成 30 年度第 2 回筑後ブロック小児慢性特定疾病児童等
ピアカウンセリング事業担当者会議
3 月 14 日 看護師 2 名

・小児慢性特定疾病児童等自立支援員 定例会

4月14日	看護師	1名
6月28日	看護師	1名
9月13日	看護師	1名
11月2日	看護師	1名
1月17日	看護師	1名
3月28日	看護師	1名

久留米市東部障害者基幹相談支援センター

1. 委託相談概況

久留米市東部基幹障害者相談支援センターは、平成 28 年 7 月に久留米市より受託を受け基幹相談事業を展開し、本年度で 3 年目を迎えた。

委託相談では、担当の東部地区である山川、山本、草野、善導寺、大橋、船越、水縄、田主丸、水分、竹野、川会、柴刈の各小学校区エリアに在住の本人・家族からの基本相談を行った。相談内容は、福祉サービス利用や、家族・人間関係について、不安の解消や就労について等であった。相談方法としては、電話相談が多く、次に訪問となっている。初回相談では基本的に来所していただく形をとっているが、来所が困難である方については、ご自宅へ訪問する等して柔軟に対応している。相談の多くはサービスや制度的問題以外の人間関係の問題も派生している場合が多く、支援機関とのネットワーク構築を図りながら、傾聴などの対応にも時間を要している。

地域の障害福祉に関する総合相談窓口としての周知がすすむにつれ、関係機関の方から障害当事者やそのご家族に基幹センターへの相談を提案してくださるケースも増えてきた。医療機関、保健医療サービス、包括支援センターや介護サービス事業所その他、社会的活動を実施している地域の企業や団体との連携も広がってきており、少しずつではあるが、東部エリアの相談機関として定着してきている実感がある。

【1】総合的・専門的な相談支援

○相談支援実績

述べ相談件数 合計：1,359 件

相談方法	訪問	来所相談	同行	電話相談	電子メール	個別支援会議	その他	合計
計	195	88	70	828	86	88	4	1,359

相談内容別件数合計数：1,757 件

相談内容	福祉サービスの利用等	病状や症状の理解	健康医療	不安の解消 情緒安定	保育教育	家族関係 人間関係	家計 経済
計	500	62	127	384	23	92	106

生活技術	就労	社会参加 余暇活動	権利擁護	その他	住宅	合計
47	168	32	11	204	1	1,757

○障害種別相談人数

実相談人数：462(83)件 うち()内は児童

	身体障害	知的障害	精神障害	重症心身障害	発達障害	高次脳機能障害	難病	その他	合計
計	76 (7)	102 (17)	183 (6)	0 (0)	42 (52)	20 (0)	21 (1)	18 (0)	462 (83)

○関係機関との連絡・調整

合計件数：2,472件

	行政機関	就労機関	医療機関	福祉サービス事業所	居宅介護事業所	地域包括支援センター	相談支援事業所	教育機関
計	442	65	370	399	35	82	850	33

成年後見関係	住宅関係	療育機関	発達障害者支援センター	その他	合計
1	1	0	12	182	2,472

2. 基幹相談概況

基幹相談では、相談支援事業所に対してサービス等利用計画作成についての助言、個別支援会議への同行、困難ケースへの助言を行った。委託相談の増加に伴い、相談支援事業所に計画立案を依頼するケースも増加している。限られた事業所・相談員のなかでセルフプランの解消を実現させるため、可能な限り相談員サポートし、計画推進に努めた。

今年度は基幹主催の研修を3回企画・運営した。7月には強度行動障害の基礎研修と実践研修、9月には中島みちる氏を講師として招き、「すべてのこどもの居場所を考えるワークショップ～「孤育て」から「幸そだて」の実現を目指して～」、2月には「暮らしやすい久留米をつくるために～障害があってもなくても住みよい街くるめを目指して～」をテーマに玉木幸則氏を講師として招き、研修を行った。

久留米市障害者地域生活支援協議会において、東部基幹では重心分科会、こども分科会、当事者分科会の事務局として携わった。重心分科会は医療ケアが必要な重心児・者の生活状況や福祉サービスの実態を把握し今後の支援を検討するため、当事者へアンケート調査を行った。こども分科会では、子どもに関する地域の社会資源の情報を集めたり、市民活動団体の現状把握を行なってきた。また、9月研修に関しては、こども分科会の事務局が主軸になって調整を進めた。当事者分科会では、

2か月に1回バリアフリーカフェを開催した。また、お仕事体験イベント「ドクターブンブン」では、当事者の方とコーヒー店を出店し、コーヒーを淹れる体験を通して当事者と市民の交流を図った。

基幹センターの広報・啓発として、基幹センターホームページでは、基幹センターの取り組みや市内の研修会等の情報発信を行なった。機関誌は「就労」と「子ども」をテーマに取り上げ10月と2月に発行した。

地域の相談機関との連携として、地域包括支援センター主催の地域ケア会議や久留米市役所地域福祉課主催の多機関連携部会へ参加した。3年目にして地域の支援者同士の繋がりに拡がり持つことが出来るようになった。

東部エリアの地域課題については、課題を「把握する」段階から課題を「解決する」段階に移行している状態である。今後は東部エリアにある既存の資源を有効に活用して地域課題の解決に取り組んでいく必要がある。

【1】指定相談支援事業者等に対する指導、助言

○支援内容：192件

	基幹から計画相談依頼	事業所からのケース相談	会議等の出席	同行	情報共有	情報提供のみ	計画作成における助言	その他	合計
合計	0	4	64	33	67	7	9	8	192

【2】サービス等利用計画作成の推進に伴う指定相談支援事業所への繋ぎ人数

	障害者	障害児
合計	25	4

【3】久留米市障害者地域生活支援協議会について

分科会・部会名	部会開催回数	事務局会	準備・調整及び連携回数
全体会	2	0	7
計画策定部会	1	0	1
権利擁護部会	5	4	8
施策推進部会	1	0	6
重心分科会	5	16	34
こども分科会	11	5	52
相談分科会	11	6	15
当事者分科会	7	6	14
災害ワーキング	3	4	21

【4】出張（31件）

久留米市難病相談従事者等研修会(5/24)

平成 30 年度福岡県強度行動障害支援者養成研修 基礎研修(7/9, 7/10)
平成 30 年度福岡県強度行動障害支援者陽性研修 実践研修(7/19, 7/20)
八女筑後・久留米圏域委託相談支援事業所情報交換会(5/14, 8/30, 9/28, 1/25)
すべての子どもの居場所を考えるワークショップ(9/7, 9/8)
第 6 回 Dr. ブンブン 子どものための体験・まなび型イベント(9/17)
障がいのあるかたのためのバリアフリーカフェ(9/22)
久留米市地域福祉計画推進協議会多機関連携部会(10/24)
平成 30 年度福岡県医療観察地域連絡協議会(10/24)
第 65 回筑後地区アルコール・薬物など関連問題研究協議会(10/30)
『重症心身障害児・者ととともに生きる 2018』(11/5, 12/3)
福岡県相談支援従事者現任研修(11/6)
職場における大人の発達障害の理解と支援(11/21)
障がいのある方のためのバリアフリーカフェ(11/24)
第 69 回くるめ相談ネット(12/7)
九州地区障がい相談支援事業合同研修会(12/13, 12/14)
時期地域福祉計画・地域福祉活動計画の策定に向けたワークショップ(1/23)
障がいのある方のためのバリアフリーカフェ(1/26)
久留米市地域福祉計画推進協議会多機関連携部会(1/30)
H30 年度基幹相談研修「暮らしやすい久留米をつくるために」(2/23)
障がいのある方のためのバリアフリーカフェ(3/23)
平成 30 年度精神保健福祉関係機関連携調整会議(3/25)

【5】主催研修 (3 件)

強度行動障害基礎研修・実践研修(7/9, 7/10, 7/19, 7/20)
基幹相談支援センター研修会「すべての子どもの居場所を考えるワークショップ」
(9/7, 9/8)
基幹相談支援センター研修会「暮らしやすい久留米をつくるために」(2/23)

【6】参加研修 (22 件)

久留米市障害者差別禁止条例をつくる会準備会 報告会(4/19)
難病相談従事者等研修会(5/24)
介護事業者協議会障害部会(8/20)
八女筑後・久留米圏域委託相談支援事業所情報交換会(8/30, 9/28, 1/25)
福祉みらい博「医療的ケアが必要な方の地域生活を考える 2018」(9/15)
「こどもの貧困」と地域共生社会(10/22)

福岡県医療観察地域連絡協議会(10/24)
第 65 回筑後地区アルコール・薬物等関連問題研究協議会(10/30)
『重症心身障害児・者ととともに生きる 2018』(11/5, 12/3)
福岡県相談支援従事者現任研修(11/6)
職場における大人の発達障害の理解と支援(11/21)
障害者福祉施設従事者向け虐待防止研修会(12/8)
九州地区障がい相談支援事業合同研修会 (12/13, 12/14)
時期地域福祉計画・地域福祉活動計画の策定に向けたワークショップ(1/23)
久留米市地域福祉計画推進協議会多機関連携部会(1/30)
介護事業者協議会主催…重症心身障害児・者ととともに生きる(日常生活編)(3/2)
エスネット久留米(3/10)
平成 30 年度精神保健福祉関係機関連携調整会議(3/25)

【7】会議

基幹相談センター運営会議 (第 1, 3 木曜日→第 3 木曜日に変更)
基幹相談センター長会議(第 1 木曜日)
地域生活自立支援協議会 (全体会、計画策定部会、権利擁護部会、施策推進部会、
重心分科会、こども分科会、当事者分科会)
地域包括ケア会議
田主丸地域民児協包括連絡会議
多機関連携部会
病院・教育・福祉施設等との関係者会議・個別支援会議

【8】連携した主な機関

田主丸中央病院、筑後吉井こころホスピタル、久留米大学病院、みのうクリニック、
田中病院、久留米リハビリテーション病院、聖ルチア病院、聖マリア病院、発達障
害者支援センターあおぞら、善導寺小学校、船越小学校、水縄小学校、柴刈小学校、
田主丸小学校、田主丸中学校、田主丸特別支援学校、久留米特別支援学校、福祉サ
ービス事業所(市内・外)、民生委員、訪問看護事業所、相談支援事業所(市内・外)、
久留米市役所(田主丸総合支所)、他市役所、地域包括支援センター、福岡県難病支
援センター

委員会報告

- 苦情解決委員会
- 虐待防止委員会
- 安全管理委員会
- 医療機器安全管理委員会
- 防災対策委員会
- 院内感染対策委員会
- 衛生委員会
- 広報委員会
- 療育会議運営委員会
- 福祉 QC 委員会
- ゆうかり医療療育センター防犯対策委員会

苦情解決委員会

《概況》

平成 30 年度苦情解決委員会は、施設ごとの定期委員会開催、苦情・要望への対応・調整・解決等に関しては迅速に取り組んだ。

法人委員会としては、12 月に第三者委員への報告会、2 月に療育会議において職員報告会を行った。特に第三者委員への報告会においては、守秘義務に配慮した上で苦情・要望記入票等を事前に第三者委員へ送付し、吟味して頂いた上で報告会を開催した。3 名の第三者委員のかたに出席していただいた。施設内で解決できたことも、文書に残していくよう指導を受けた。

《苦情・要望件数》 ー平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日

	ゆうかり医療療育センター	耳納学園	千歳・第二千歳療護園
1. 職員の言動・対応等に対する苦情	1	1	2
2. 施設への要望・苦情	1	0	1 (要望)
3. 利用者様から利用者様への苦情	0	0	0
4. 保護者（後見人）よりの苦情・要望	0	0	0

《基本的取り組み内容及び状況》

ゆうかり医療療育センターにおいては、毎月 1 回委員会を開催し、各寮で起きている情報を共有している。

2 件の苦情が出ているが、1 件は駐車場にある喫煙場所の苦情であった。文書での回答書を掲示した。苦情が出たことで、喫煙者も時間など意識して喫煙するようになっている。日頃より、利用者様、保護者様の意見に耳を傾け、信頼関係を築いていくことで、苦情に繋がらないようにしている。

千歳療護園、第二千歳療護園では、パントリーの洗濯機の機械音への防音対策（要望）と喫煙の流煙対策（苦情）については、普段の生活の中で気づき、配慮しなければならなかった 2 件である。他 1 件の食事の欠食の再確認を怠った件については、個人の判断ではなく、他職員との確認作業が必要であったことである。案件ではないが、昨今の諸事情を配慮していく上でも保護者様の面会時、職員から積極的に関係性を作っていく事は不可欠だと思っている。

耳納学園では、福祉的就労の場として、まずは利用者様同士にて解決の努力、自治会活動にての解決、対応の話し合いを行い、自立した生活を尊重し、自己決定、自己責任、自己解決の努力をしていただいている。その上で、不満を抱かせないように心がけ、支援している。

しかし、今回職員の慣れからか、緊張感が失われ、利用者様への言動や態度において、不快な思いを抱かせてしまう事案が 1 件あった。

今後、職員は自身の言動に責任をもち、権利擁護の意識を持ち、福祉施設職員としての自覚や意識の向上に努めたい。

虐待防止委員会

《概況》

平成30年度の虐待防止委員会は、各施設で定期的な委員会を開催、利用者様の虐待防止を目的に、権利擁護、身体拘束や不適切なケアなどについて状況や改善事項を確認し取り組んだ。

虐待防止の自己チェックのアンケートを行い、施設の特性にあった、施設ごとのアンケートを再チェック、評価し、カンファレンス等で問題提起しながら取り組んでいる。

全体研修会として、5月に外部講師による人権学習、7月に虐待防止研修会、を行った。

虐待防止研修会では、職員による出張報告「施設職員のための障害者虐待防止研修」による研修を行う。

12月の第三者委員報告会と2月の職員報告会において、虐待防止セルフチェックの結果報告を行った。

職員へ具体的内容を報告し、虐待防止へと繋げていくよう各施設で周知を図った。今後も定期的に行っていき、虐待防止に繋がっていくよう、継続していく。

安全管理委員会

《概況》

当委員会は、利用者様と職員が安全、かつ安心な生活、又高度な医療を受けられるよう環境を整え、利用者様本位のサービスの質の向上を重点課題とし、医療・介護・療育場面における事故防止を図る事を目的とし、各施設においてそれぞれの活動を行った。職員より提出されたインシデント報告書、及びアクシデント報告書の評価を行い、事故防止対策の具体的内容について検討し、再発防止、未然防止につとめた。法人全体においては、12月に研修会、2月に職員への報告会を実施し、安全管理に対する意識向上を図った。

《具体的取り組みと事故発生状況》

[ゆうかり]

*本年度の年間目標を『他部署、他職種の意見を活用しアクシデントの減少に努める』を掲げ、継続的に取り組みをした。毎月開催の委員会にて、各寮、及び各部署から提出されたアクシデントの発生状況についての分析と問題点を検討、又各寮、各部署のインシデントの活用状況についての報告を行い、職員の安全に対する意識を高めた。インシデントの報告件数は、前年度539件から本年度661件へと大幅な増加は見られたが、アクシデント件数は198件より34件増加

の 233 件となり、アクシデント件数の減少には至らなかった。

(事故報告件数)

転倒、転落・・・16 件	外傷・・・60 件	与薬関係・・・47 件
注入カテーテル関係・・・70 件	その他・・・40 件	
合計・・・233 件		

[千歳]

*外傷事故としては4件発生しており、内1件が骨折事故となっている。見守りの中での排泄場面にて発生している。この件に関しては行政へ報告書を提出した。

今後も加齢に伴う身体機能の低下や健康状態の悪化等の状況があることを全職員が意識し、利用者様一人ひとりの状態の変化を日頃から把握し、事故に繋がらないように努力していきたい。

(事故報告件数)

転倒・・・4 件	外傷・・・4 件	誤薬・・・1 件	転落・・・1 件
異食・・・1 件	その他・・・2 件		
合計・・・13 件			

[第二千歳]

*今年度のアクシデント報告の内容としては、ベッドからの転倒事故1件、ベッドからの転落事故1件、与薬事故1件、膀胱瘻カテーテル破損1件であった。安全管理委員会の取り組みとしては、より安全な介護を目指すべく介護マニュアルを作成し、キャリアの浅い職員（新任）への教育に活用している。又、キャリアのある職員は、より一層気を引き締め、安全な介護に努めていきたい。今後も利用者様の安全を心がけ細心の注意をはらい、より快適な園生活を支援できる様、職員一人ひとりが事故防止に努めていきたい。

[耳納]

*今年度も事故防止の意識を利用者様と共に目指した結果、前年度を更に下回ることができた。しかし、2件の転倒事故のうち1件は、大腿部骨折という大きな事故になってしまった。今後も事故件数を減らすと共に、重大事故にならないよう再度認識をしていきたい。

(事故報告件数)

転倒・・・2 件	合計・・・2 件
----------	----------

医療機器安全管理委員会

《概況》

医療機器安全管理委員会は、2ヶ月に一回話し合いを行い、医療ガス委員会と並行して行った。構成メンバーは、臨床検査技師・診療放射線技師・薬剤師・歯科衛生士・各寮看護師の7名である。感染症が流行している時は話し合いを中止した。

《開催日の状況》

H30年 4月23日、6月18日、8月20日（感染所のため中止）、10月22日
12月17日
H31年 2月18日、4月22日

《内容》

1. 医療機器修理・点検・購入について

- ・人工呼吸器の点検に関しては、日常点検を毎日行った。
- ・修理対応年数が過ぎている機器が多くなっているため、修理に出しても業者から修理不能の報告が多かった。しかし必要な機器であるため、伺い書を出し、その後、要求書と見積書を提出し、許可が出た機器は購入出来ている。まだまだ古い機器が多いため修理・購入などが増えてくる。
- ・医療ガスの点検については、山下医科器械株式会社と契約をして、医療ガス設備保守点検をH31年1月16.17日で行ってもらい、点検の報告で交換の必要な吸引フィルターに関しては、交換済み。

《外部研修》

平成30年度医療機器安全基礎講習会

7/16 第40回ME技術講習会 臨床検査技師 1名
病棟看護師 1名

防災対策委員会

《概況》

社会福祉施設においては、各種の災害時の際に特に配慮を要する利用者様が入所されており、その防災対策を確立することが強く要請されている中、当委員会では

より良い防災対策を確立することを目的に活動を行った。その中でも火災時の対策に重点をおき、各施設（耳納・千歳・ゆうかり）定期的に避難訓練を実施し、常日頃から職員及び利用者様の防災に対する意識向上を図った。又、地震災害・風水害等の自然災害にも対応できるようにマニュアルを作成した。火災時の避難訓練だけでなく風水害についての避難訓練を行うように監査指導があり、9月に各施設、各寮にて実施した。夜間時に発生すると思われる風水害に対しては、事前に対応できる人員を確保した。発生した際には各施設で待機を行い、風水害の被害を最小限に留め、利用者様の安全確保が出来るようにした。

毎年開催されている浮羽消防署管内の屋内消火栓・消火器操法大会にも出場しており、消火栓の部にゆうかり学園から2チーム、消火器の部に千歳療護園から1チームが出場した。

《火災想定避難訓練実施状況》

（耳納学園）

2回実施 日勤時想定避難訓練・ゆうかり学園合同夜間想定総合訓練

（千歳療護園）

2回実施 日勤時想定避難訓練・ゆうかり学園合同夜間想定総合訓練

（ゆうかり学園）

2回実施 日勤時想定避難訓練・ゆうかり学園合同夜間想定総合訓練

毎月1回各寮別に実施

《水害時想定避難訓練》

各施設、各寮にて9月に1回実施

院内感染対策委員会

《概況》

利用者様が安全・安心に過ごして頂くために、感染防止の基本的知識を理解し、科学的根拠にもとづく日常の感染防止対策、アウトブレイク時に迅速な対応ができるよう、年2回全体研修会、月1回の委員会ではテーマに沿って情報提供、感染症マニュアルの見直しを行った。

月	内 容
4 月	平成 30 年度年間計画・委員会指針について
5 月	麻疹について 手洗いパトロール
6 月	腸管出血性大腸菌感染症（0-157）について
7 月	ノロウイルス感染症について
8 月	針刺し・噛みつき事故による感染症について
9 月	アデノウイルス感染症について 手洗いパトロール
10 月	ヒトメタウイルス感染症対策について
11 月	ESBL 産生菌について
12 月	風疹について
1 月	結核について
2 月	手足口病について
3 月	平成 30 年度感染症報告

開催日 毎月第 1 金曜日
開催時間 9：30～10：00
委員 所長他 13 名

11 月の全体研修会（業者による講義）

「標準予防策と感染経路別予防策」

- ・感染とは定義
- ・標準予防策実施内容
- ・医療従事者のための個人防護服着脱実習

2 月の全体報告会

- ・年間感染症の状況

ヒトメタニューモウイルス感染症 なかよし寮 10 月 7 名、11 月 4 名

インフルエンザ A 型 なかよし寮 12 月 9 名 1 月 1 名

ともだち寮 1 月 3 名

なかよし寮のヒトメタニューモウイルス感染症、インフルエンザ A 型については、保健所届ける

衛生委員会

《概況》

職場の衛生管理体制を整備確立するとともに、職員の健康保進を図り、明るく快適な職場環境を形成するために、月1回院内感染対策委員会と一緒に開催。年1回全体研修会を実施。

月	内 容
4月	平成30年度計画について
5月	ストレスチェックについて
6月	腰痛対策
7月	熱中症について
8月	5Sについて
9月	喫煙対策
10月	高脂血症について
11月	快適な職場環境とは
12月	バランスのよい食事とは
1月	寒さ対策
2月	疲労とストレスについて
3月	病気と上手に付き合うには

- ・6月全職員対象にストレスチェック実施する。317名中278名受診(受診率87,7%)
チェック用紙への記入ミスが含まれる。結果として全体の12%にストレスやや高い・高いがあり、今後メンタルについて支援が必要と思われる。
- ・8月、メンタルヘルス研修会開催、ストレスチェックの結果と、アドラー心理学、アンガーマネジメントについて説明する。

広報委員会

《概況》

広報委員会は、広報紙の発行とホームページの管理を担っている。

広報紙は6月1日(56号)、10月1日(57号)、2月1日(58号)の年間3回発行し、委員8名で構成した編集会議は、施設内LANを活用して年間3~4回にとどめ、締め切り内に発行できるように、努力している。

ホームページに関しては、インフォメーションなど手軽に更新できるようにリニューアルしているが、更新数は多くない。

広報紙各号の内容および配布先や発行部数は、以下の通りである。

[発行内容]

- 第 56 号（平成 30 年 6 月 1 日発行） 表紙…第二千歳療護園
 - ・ RESTART！…日野事務局長
 - ・ こえだ物語 51《典心の湯》～典心の湯の魅力を発信しよう！～
 - ・ 今日の仲間 39（中学部、高等部計 5 名の入学者紹介）
 - ・ 施設だより（各施設・寮の行事紹介）
 - ・ ニュースやお知らせ、善意のかずかず、新人紹介他
- 第 57 号（平成 30 年 10 月 1 日発行） 表紙…ともだち寮
 - ・ 開設から 5 年を経て…相談支援事業所 夢の紀 上原所長
 - ・ こえだ物語 52《耳納学園の新事業『絆・まごころ農園』》～安くて、新鮮で、美味しい野菜作りを目指します！～
 - ・ 今日の仲間 40（耳納学園、千歳療護園、なかよし寮、支援センターちとせの仲間）
 - ・ 施設だより（各施設・寮の行事紹介）
 - ・ ニュースやお知らせ、善意のかずかず、新人職員紹介他
 - ・ 29 年度事業報告、決算状況報告および 30 年度事業計画の報告記事
- 第 58 号（平成 31 年 2 月 1 日発行） 表紙…なかよし寮
 - ・ 年頭に当って…日野理事長
 - ・ こえだ物語 53《利用者様☆希望外出☆》～利用者様の気分転換を図って～
 - ・ 今日の仲間 41（ともだち寮、おひさま寮、第二千歳療護園、コアラ園の仲間）
 - ・ 施設だより（各施設・寮の行事紹介）
 - ・ ニュースやお知らせ、善意のかずかず、新人職員紹介他

[配布先および発行部数]

- ◎学園関係（利用者様及び園内各部署、賛助会員様等に配布…500 部）
- ◎行政や地域、関連諸施設、学校などに配布（700 部）
- ◎1 回の発行部数は 1,300 部、年間発行部数は 3,900 部であった。

療育会議運営委員会

平成 30 年度 表の通り実施しました。

今年度の人権問題（外部講師）は、福岡県講師団講師の江島玲子氏へ依頼し、5月に『障害の理解とその対応』と題し、1, 障害者差別法とは 2, 障がい者の差別について 3, 障がいを理解するとは 4, 障がいのとらえ方について、法的な観点から「人権侵犯事件」の状況および、私たちがどう考え行動をするのかなどのお話がありました。また、今年度は新たにウィル・システムズの高山有朋先生より、コミュニケーションに関する啓発セミナーを全5回実施（管理職研修2回）しました。今年度は感染症の影響はあったものの、ほぼ予定通り実施できました。

(平成30年度) 療育会議実施 H30年4月～H31年3月

日付	会議名	司会	記録	準備・片付け	日付	会議名	司会	記録	準備・片付け
4/11	講義(理事長)	福山和也	小川芳恵	千歳	10/3	各施設・寮			耳納給食心理
4/25	各施設・寮				10/24 10/31	啓発セミナー	畑中慶 浦塚多恵	浦塚多恵 山下健登	
5/9	各施設・寮			第二千歳	11/7	啓発セミナー	吉田康一	水城秀憲	ともだち育成
5/23	外部講師 (人権問題)	小川芳江	中村正和		11/28	各施設・寮			
6/6	各施設・寮			訓練	12/12	安全管理研修会 感染症研修会	水城秀憲	樋口美智子	おひさま看護
6/13 6/27	QC発表会	中村正和 宮脇千代	宮脇千代 占部千里		12/26	各施設・寮			
7/11	虐待防止研修会	占部千里	坂本尚美	ともだち看護	1/24	各施設・寮			なかよし育成
7/25	各施設・寮				2/6	講義(局長)	樋口美智子	原貴子	
8/8	衛生管理研修会 メンタルヘルス研修会	坂本尚美	山下健登	なかよし看護	2/13	報告会 (苦情解決・安全管理・感染症委員会)	佐藤明美	吉田康一	千歳
8/22	各施設・寮				2/27	各施設・寮			
9/12 9/19	啓発セミナー	山下健登 熊野めぐみ	熊野めぐみ 畑中慶	おひさま育成	3/13	予備日			第二千歳
9/26	各施設・寮				3/28	各施設・寮			
※第2週目にできなかった場合第4週目に変更することがある。 *第4週目に講義および研修会が実施されることもある。(その場合の司会・記録は運営委員で実施)									

福祉QC委員会

テーマの重要性を改めて各サークルへ問いかけその結果、取り上げられたテーマは、より現実性のあるものが上げられているように感じられる。

前年度の一つの目標として、活動の継続があげられていたが、テーマの内容により左右されるものであり、傾向的にはその目的もある程度改善されたようだ。今後もテーマの重要性を主張しながら、より良いQC活動が継続できるよう、具体的な対

応を取り入れて行きたい。

第 29 回「福祉 QC」全国発表大会出場

期日 平成 30 年 11 月 26 日・27 日（東京にて開催）

サークル名 用度品庫見直し隊

テーマ 会社（施設）備品の管理方法

～ 物品の払い出し日の徹底とそれに伴う事務処理の効率化 ～

〔敢闘賞受賞〕

30 年度 活動サークル

施設・部署名	サークル名	テーマ
千歳療護園	新規一点 G	腰痛予防
第二千歳療護園	まがりまめ	オムツの漏れをなくそう
なかよし訓練部	DMN	伝票のミスをなくそう
給食部	みんなで 1UP!!	仕事の効率を上げよう
なかよし看護課	Good sleep	質の良い睡眠を提供しよう ～夜間のオムツ交歓の時間検討を試みて～
おひさま看護課	チーム SUN	急変時対応について
ともだち看護課	クリンクリン	ベットメイキングの表記を明確にする (全員がベットメイキングをスムーズに行えるに)
ともだち育成課	フレンドクラブ	H, M さまの興奮を減らそう

ゆうかり医療療育センター防犯対策委員会

《概況》

当施設においては、身体的、精神的にも配慮を要する利用者様が多く入所されており、その防犯対策の確立が強く要請されている中、当委員会ではより良い防犯対策を確立することを目的に活動を行った。

《具体的取り組み状況、及び内容》

※委員会開催日

(4月27日、5月31日、6月27日、7月30日、8月30日、9月27日
10月25日、11月22日、1月31日、2月28日、3月28日)

毎月1回、定期的に防犯対策委員会を開催し、各寮の設備面(自動ドア、窓周辺、インターホン、さすまたなど)のチェック報告、ゆうかり敷地内の確認、門扉、全体フェンスの確認、又は、防犯監視システム、防犯カメラ、センサーライト、外灯等の外部設備面の作動確認の報告を行い、日常的に防犯に対する意識向上を図った。

平成30年度は、内部設備面の充実の為、2つの工事を実施した。まず、平成31年2月には、警察署への非常通報装置を本館事務所、ゆうかり医療療育センター(3寮の詰所)、千歳、第二千歳、耳納、コアラ園に設置した。又、3月には、学園内すべて(千歳、第二千歳、耳納、コアラ園)の固定電話機、PHSから緊急時用館内放送設備が完了した。